

## 福井県子どもの生活状況調査 結果概要

福井県子どもの生活状況調査について、国が実施した令和3年子供の生活状況調査結果との比較分析を実施する。  
等価世帯収入<sup>※1</sup>やひとり親世帯<sup>※2</sup>、K6<sup>※3</sup>等の考え方は国分析方法に準拠。

### アンケート回収数

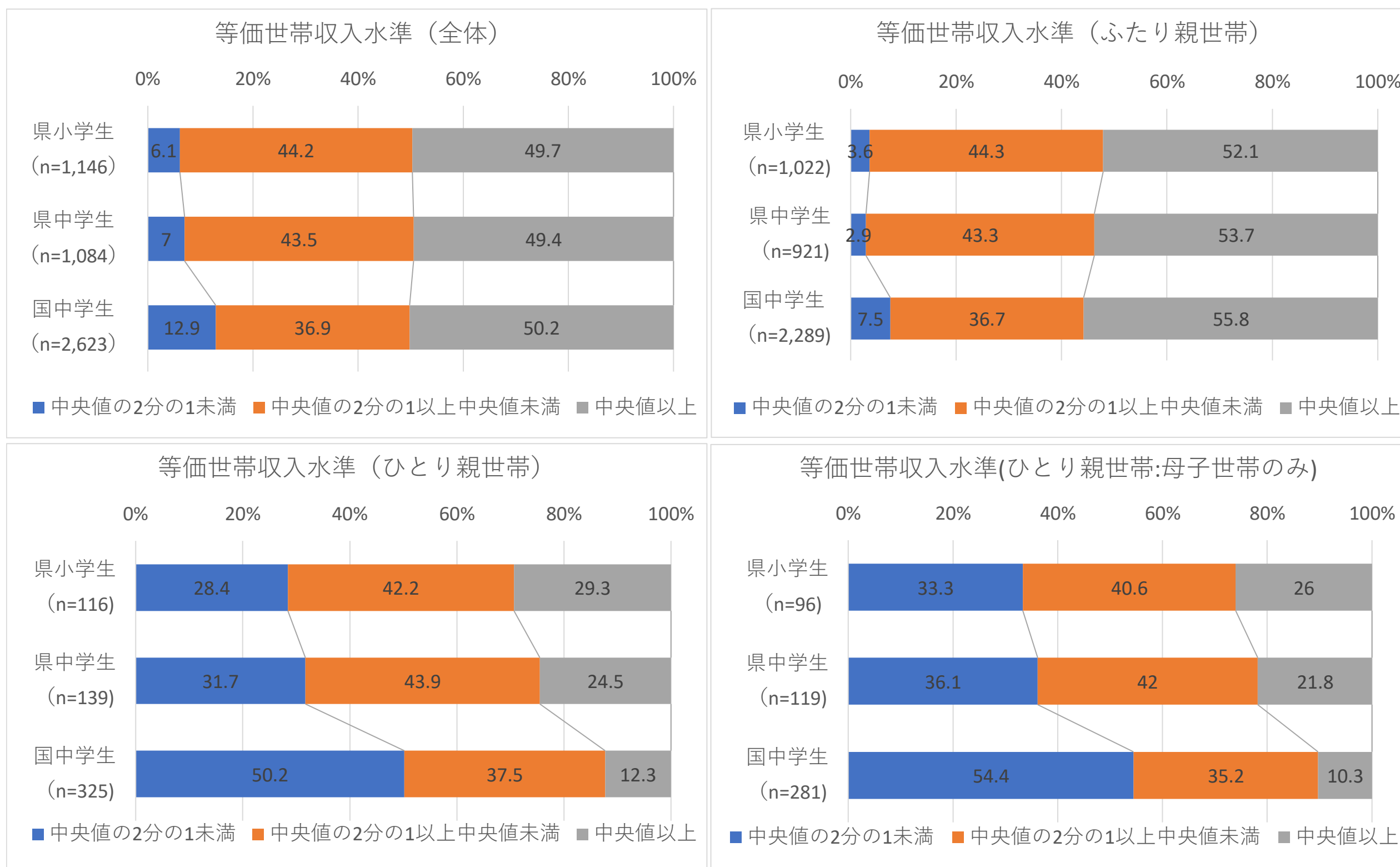
		配布数	有効回収数	回収率	調査時期
福井県	小学5年生およびその保護者	2,000	1,366	68.3%	R3.1
	中学2年生およびその保護者	2,000	1,318	65.9%	
国	中学2年生およびその保護者	5,000	2,715	54.3%	R3.2～3

### 1. 保護者の生活状況

#### (1) 生活・行動実態、課題等

##### ●世帯収入の状況

- すべての世帯類別において、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の割合は、国調査より低い。  
「中央値の2分の1未満」県小学生：6.1%、県中学生：7%、国中学生：12.9%
- ひとり親世帯について、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の割合は約3割と国調査（約5割）より低い。ふたり親世帯（1割未満）と比較するとかなり高くなっている。



#### (参考) 等価世帯収入水準

福井県小学生 等価世帯収入の中央値：270.02万円、中央値の2分の1：137.01万円

福井県中学生 等価世帯収入の中央値：275.56万円、中央値の2分の1：137.78万円

国中学生 等価世帯収入の中央値：317.54万円、中央値の2分の1：158.77万円

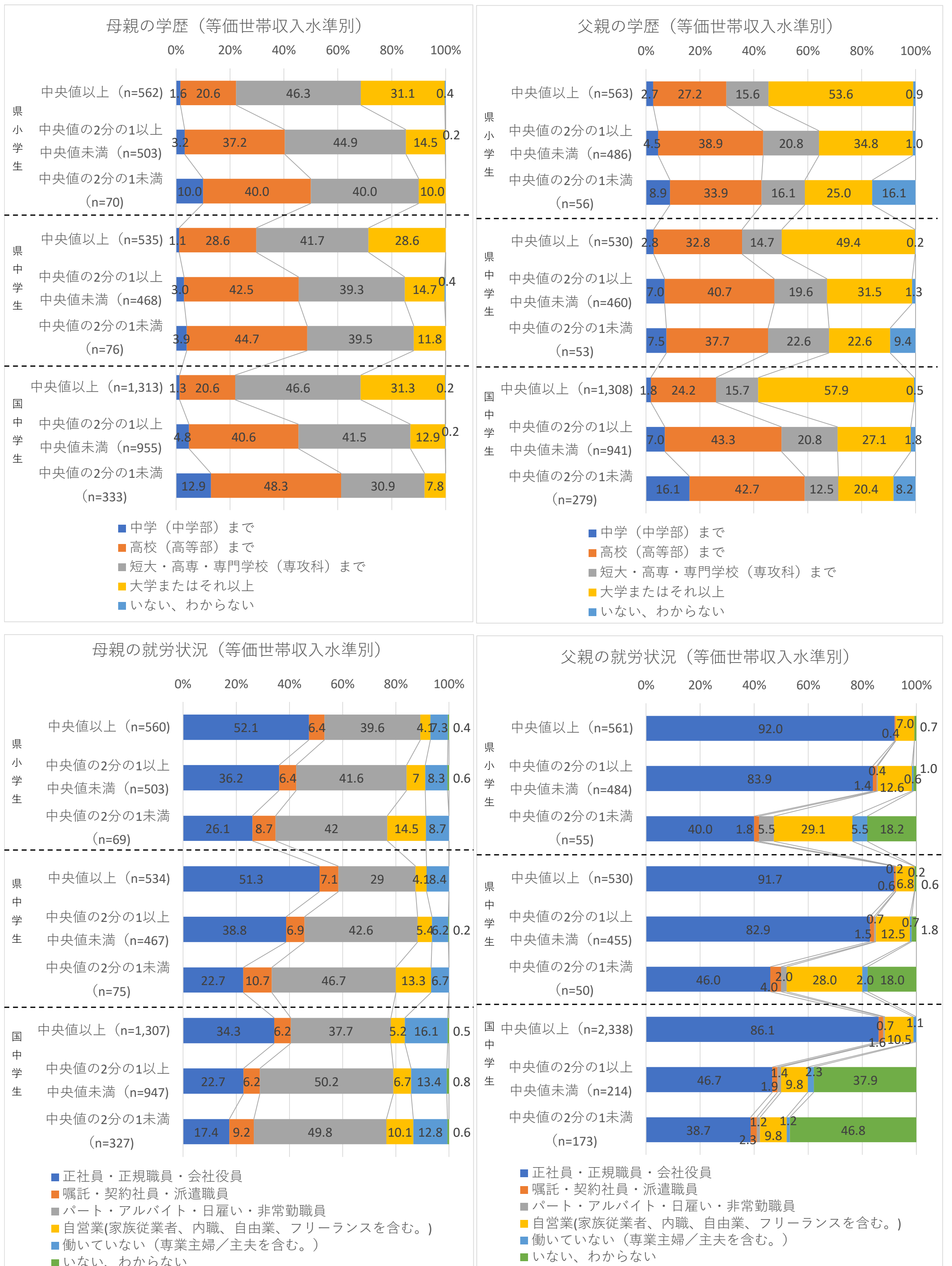
1 世帯年間収入を同居家族の人数の平方根をとったもので除した値。

2 親の婚姻状況の間で、「離婚」「死別」「未婚」と回答した世帯。

3 うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発された、心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。

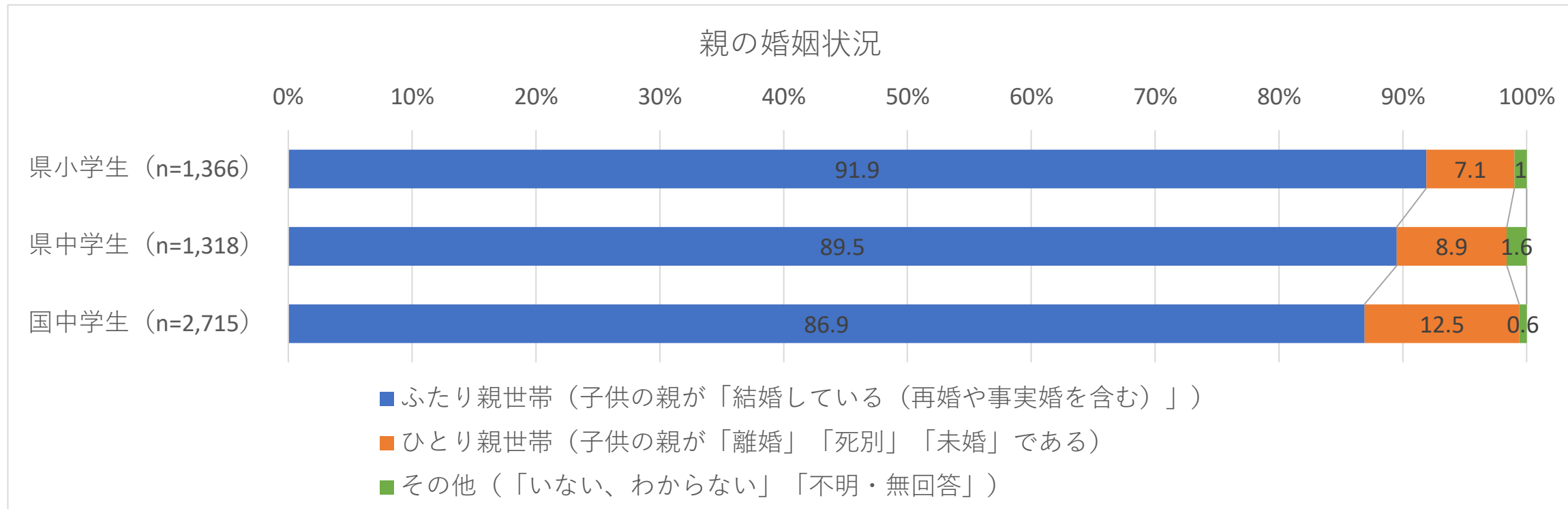
●母親・父親の学歴および就労状況

・等価世帯収入の水準が下がるほど、親の学歴が「大学またはそれ以上」の割合や、正社員の割合が低くなっていく。



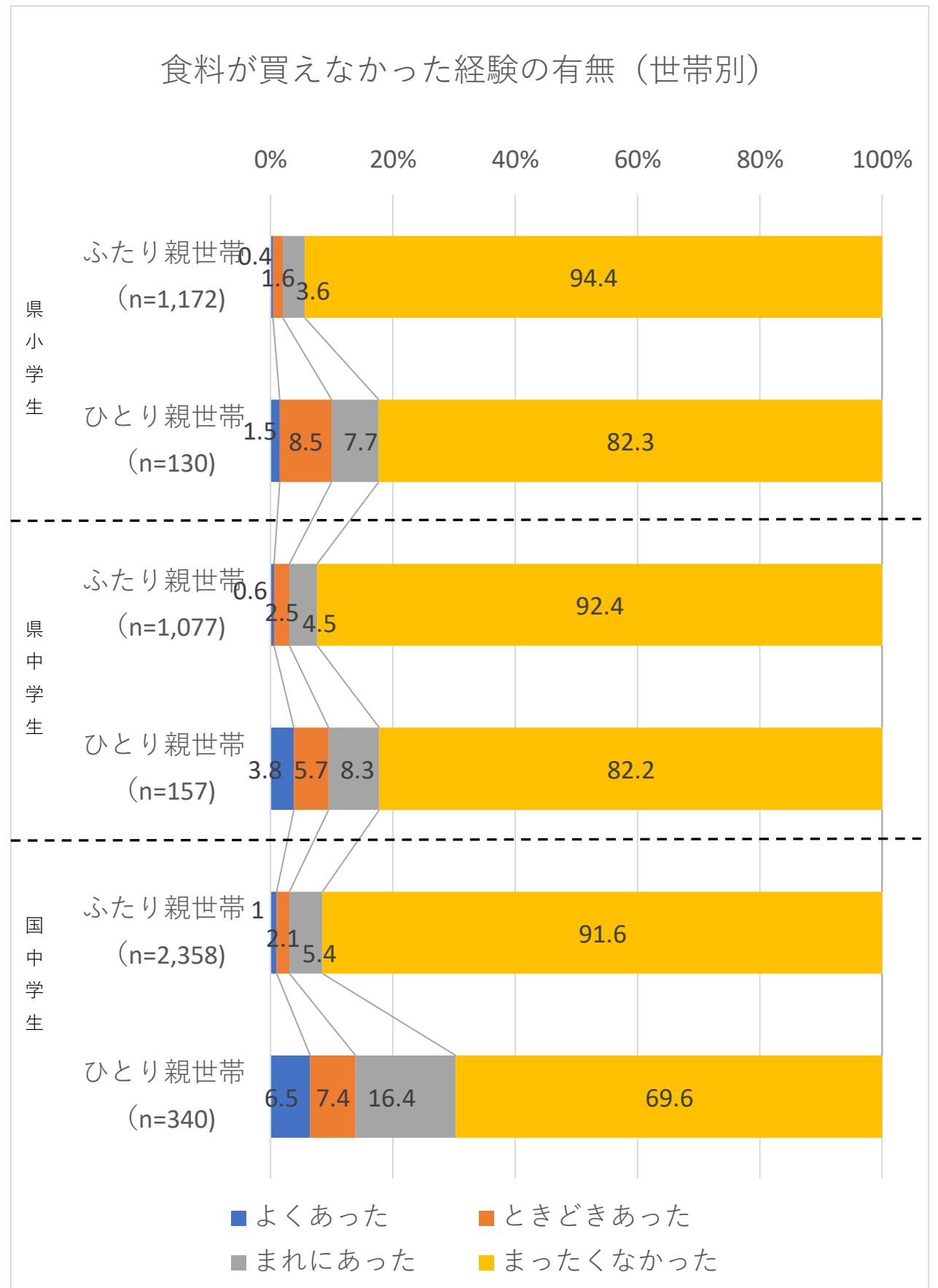
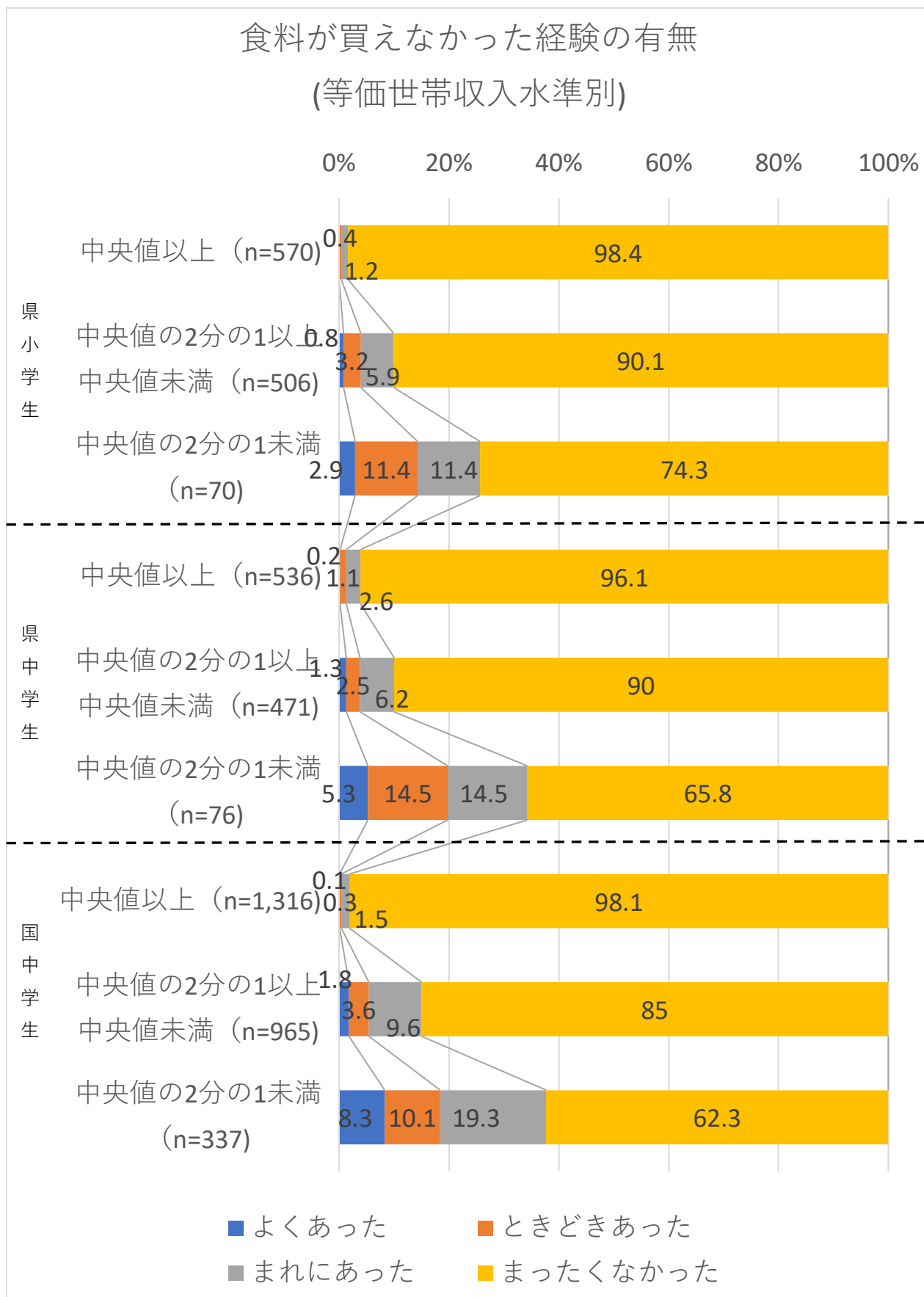
●子どもの親の婚姻状況

ひとり親世帯の割合は国調査より低い。

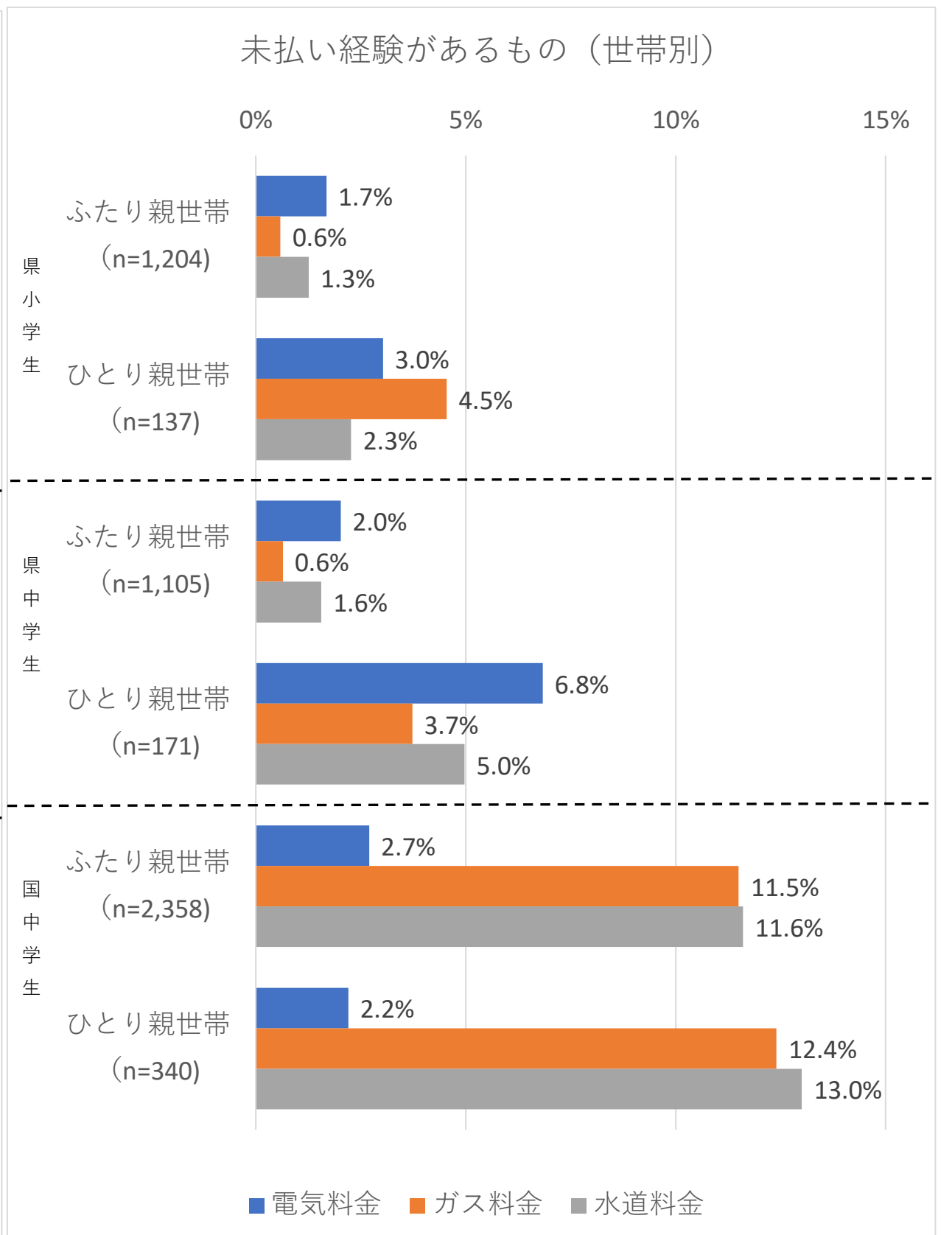
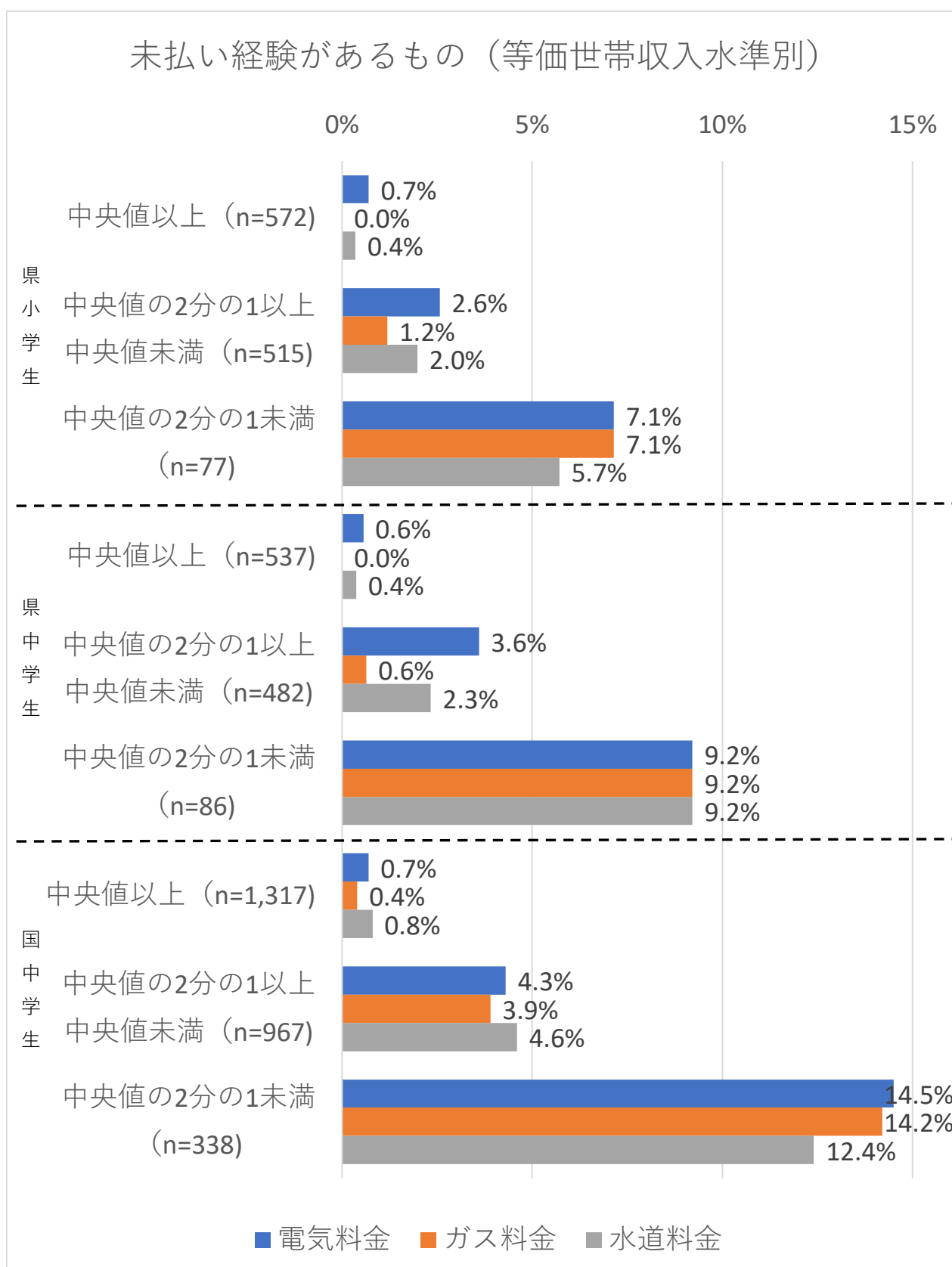
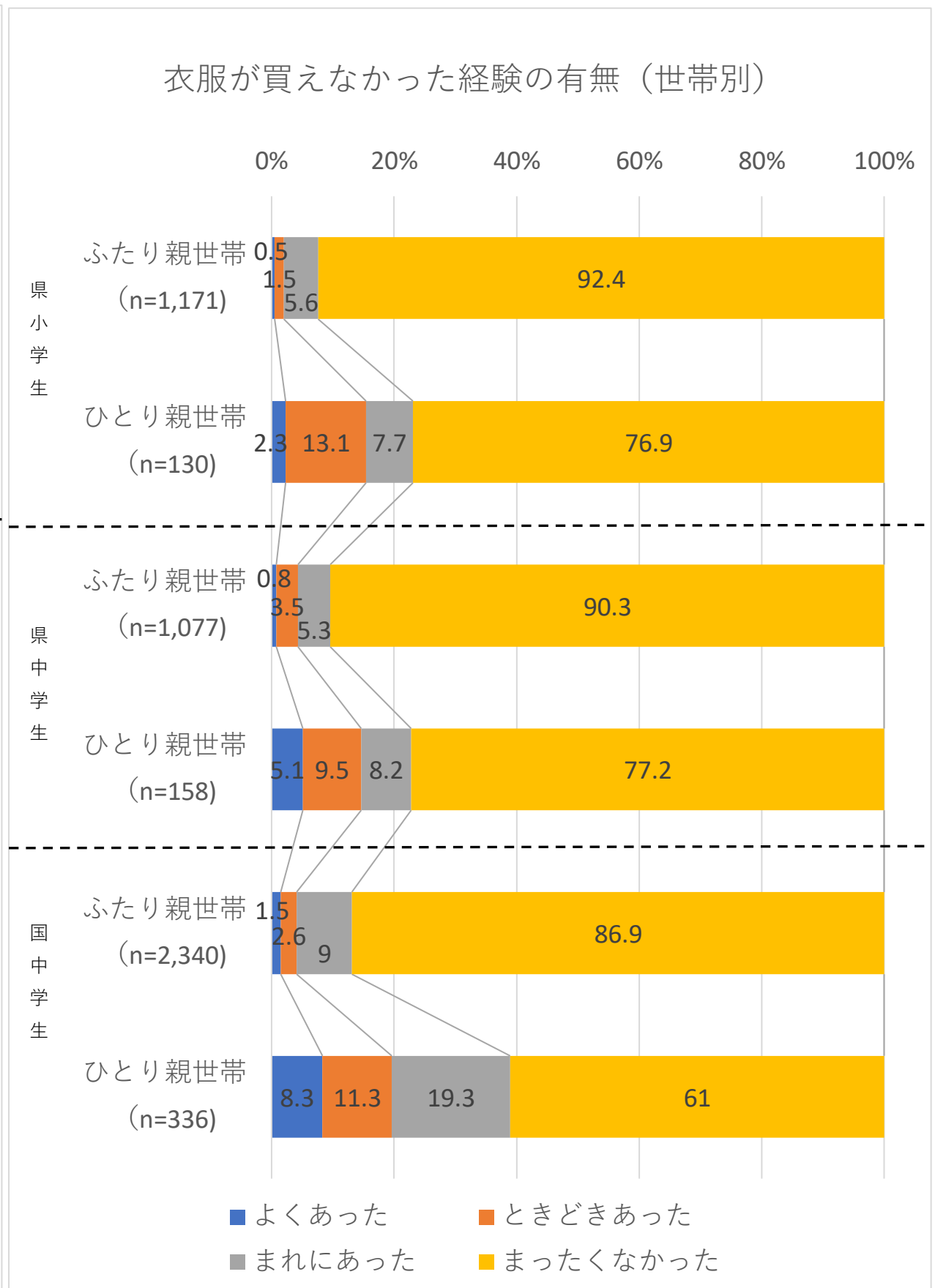
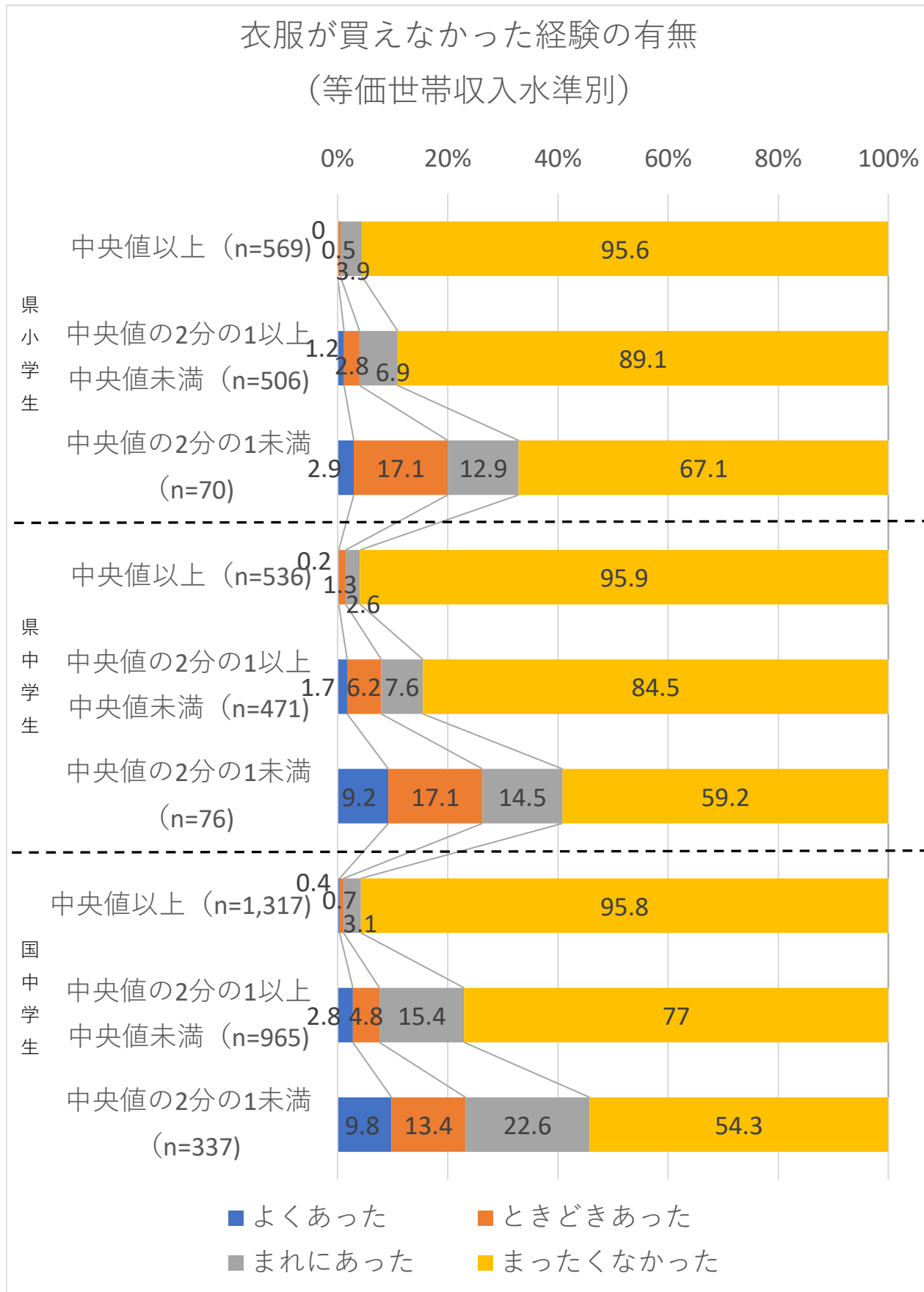


●保護者の生活状況

- ・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、「公共料金の未払い」が生じている割合が高い。
- ・福井県のひとり親世帯については、国結果よりも、食料等が買えなかった経験や未払い経験が生じた割合がやや低い。

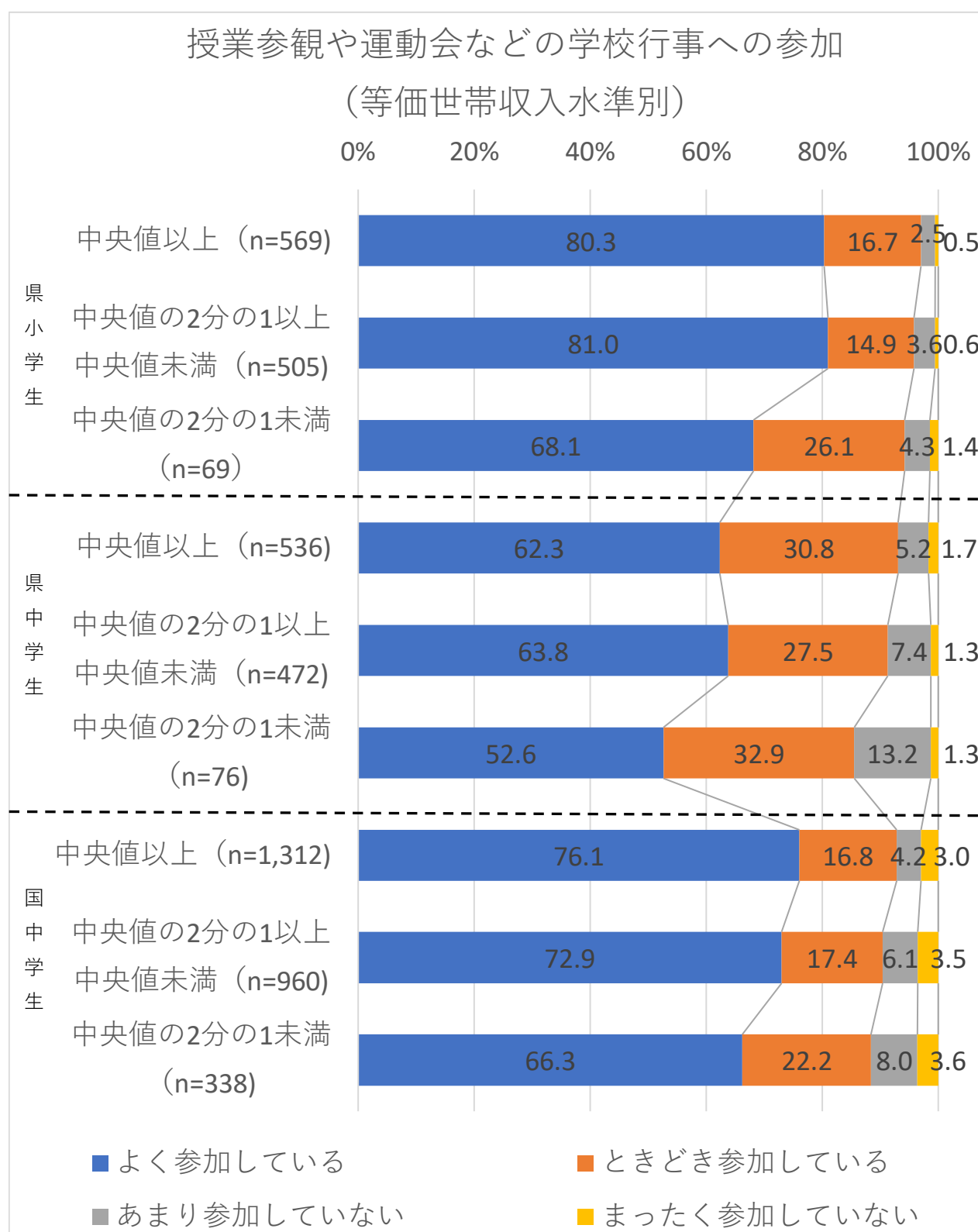
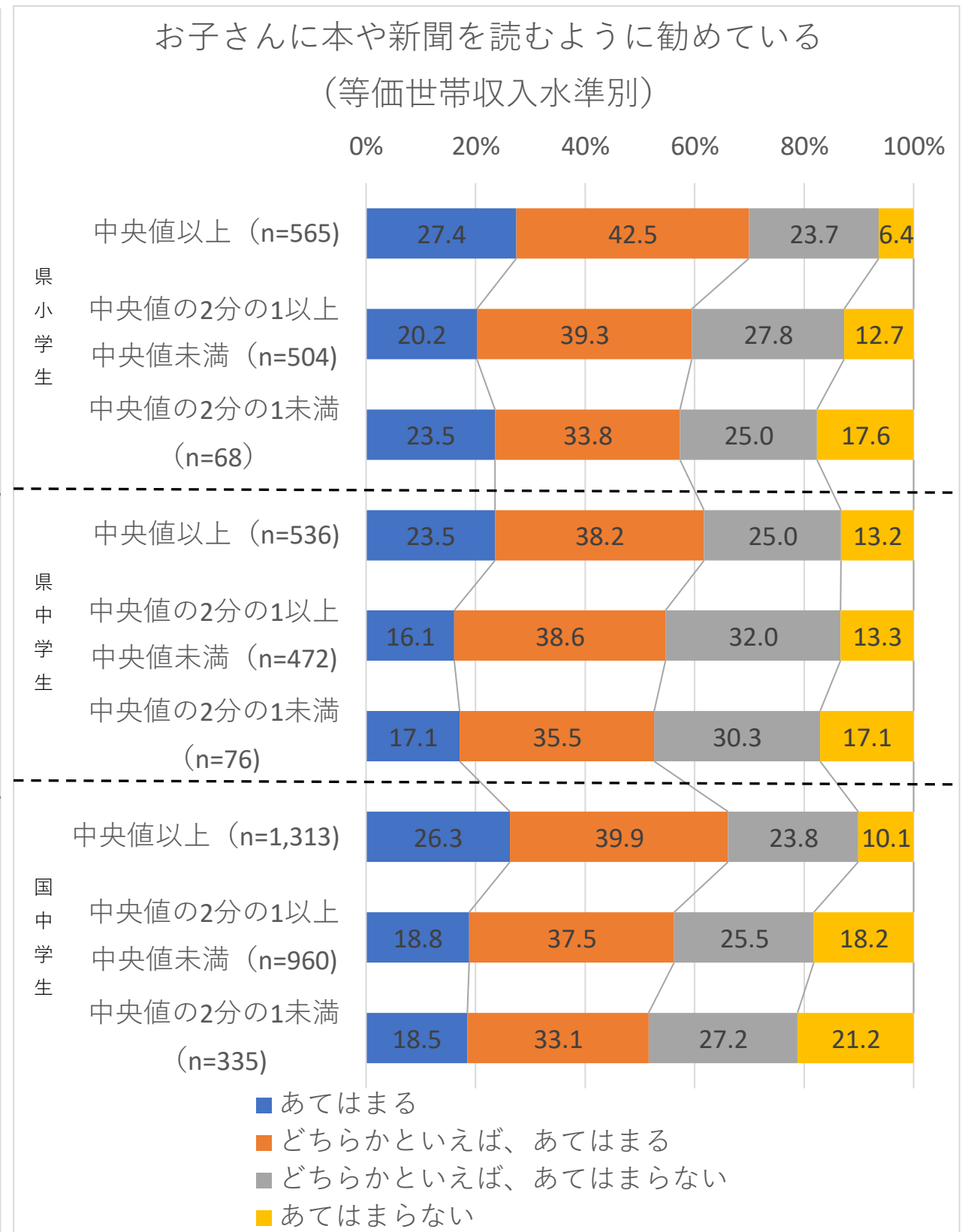
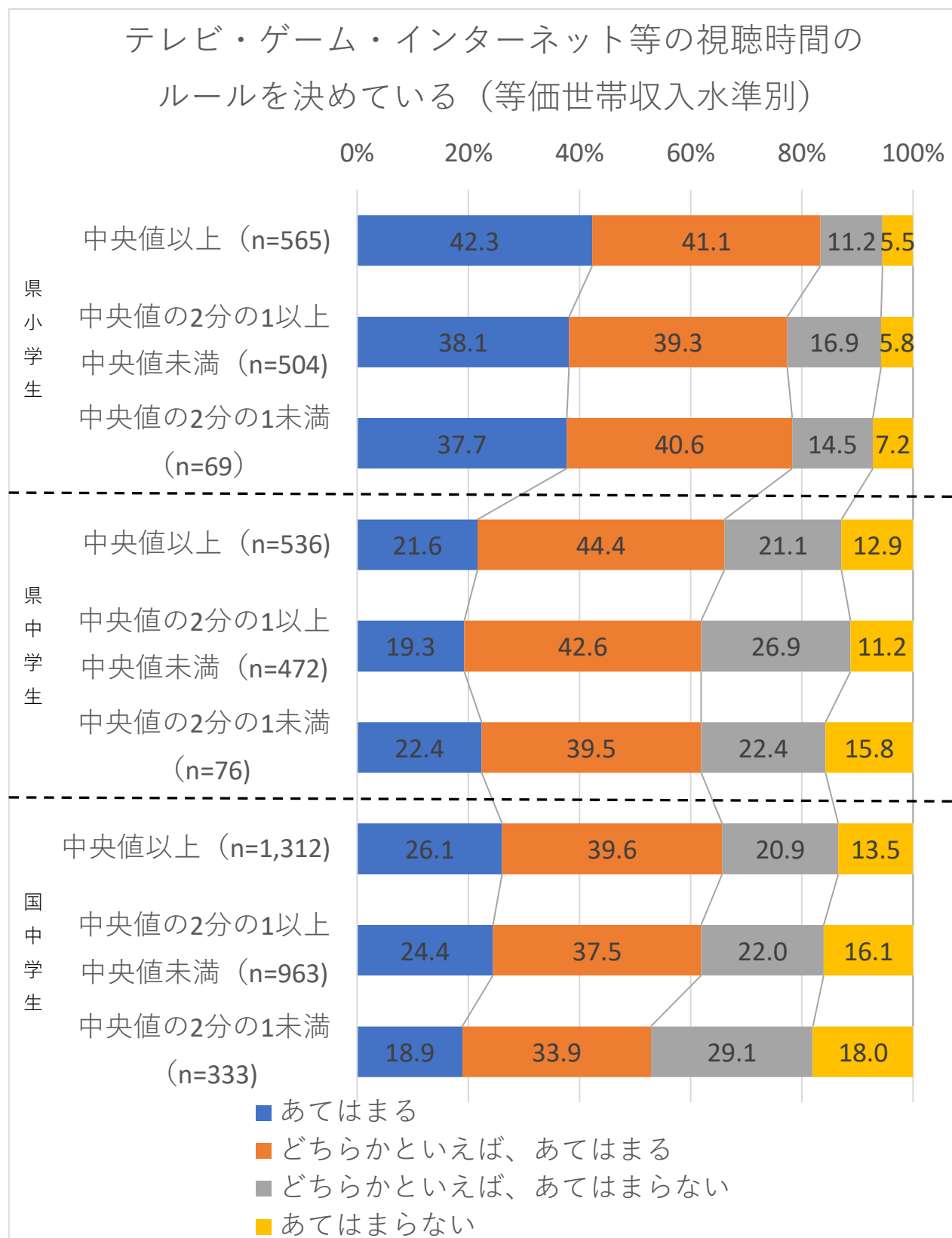






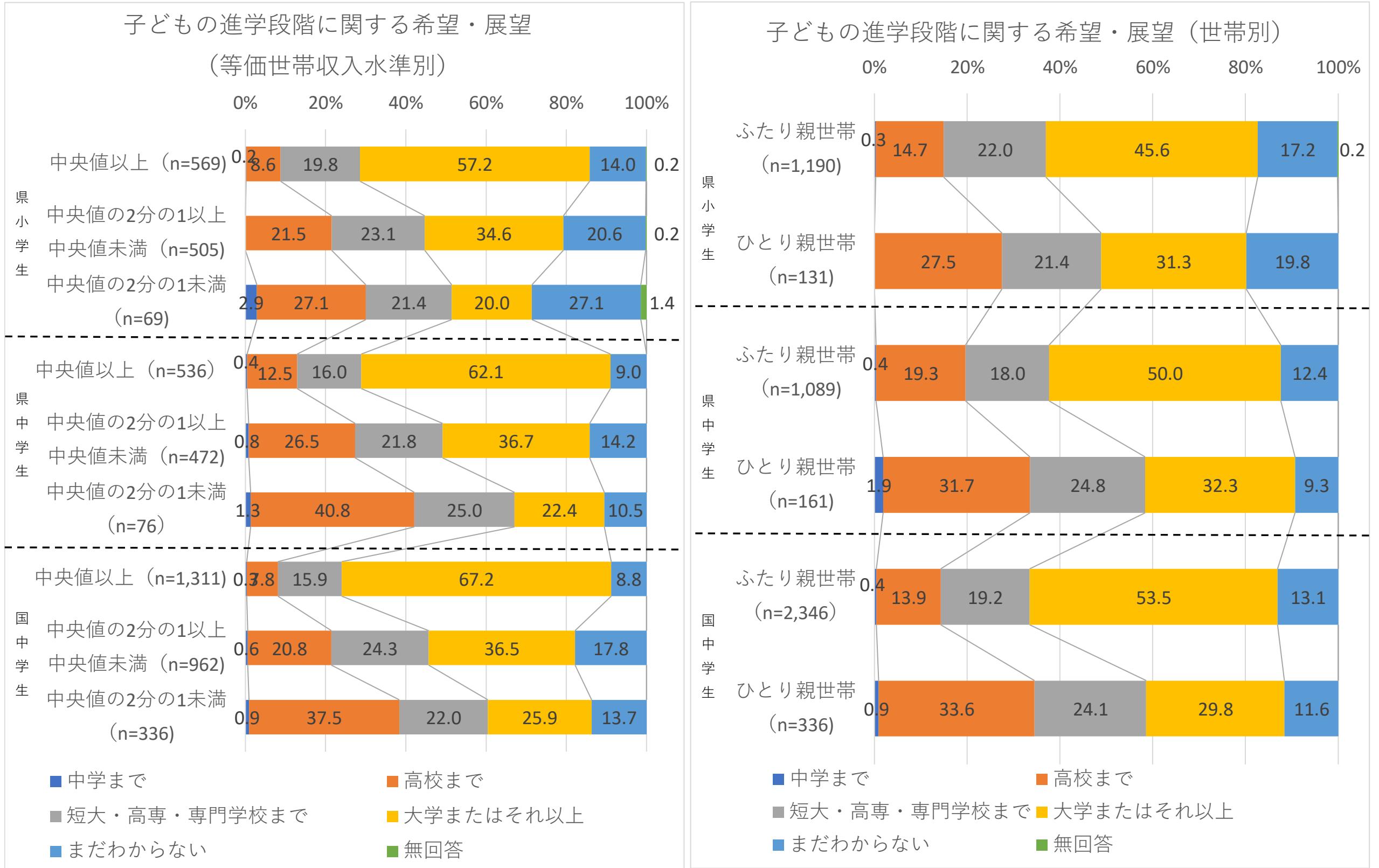
●子どもや学校との関わり方

- ・「テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」、「本や新聞を読むように勧めている」について、収入が低い世帯ほどあてはまらない割合が高い。
- ・学校行事への参加について「よく参加している」割合は、収入が低い世帯ほど低い。

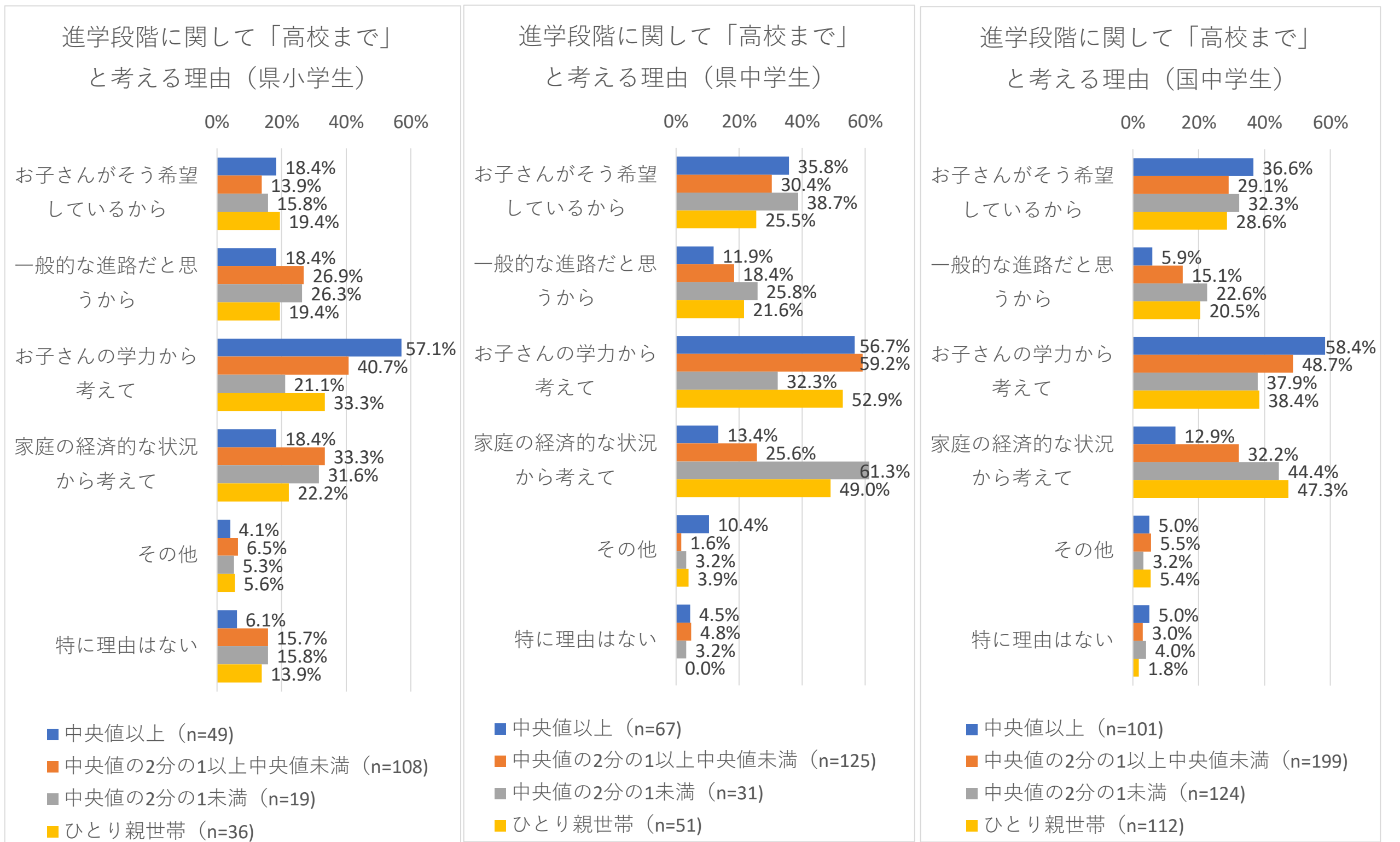


●子どもの進学段階に関する希望・展望

- ・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、子供が将来どの段階まで進学するかの希望・展望に関して「大学はまたはそれ以上」と回答した割合が低い。
- ・福井県のひとり親世帯については、国結果よりも「大学またはそれ以上」と回答した割合が高い。



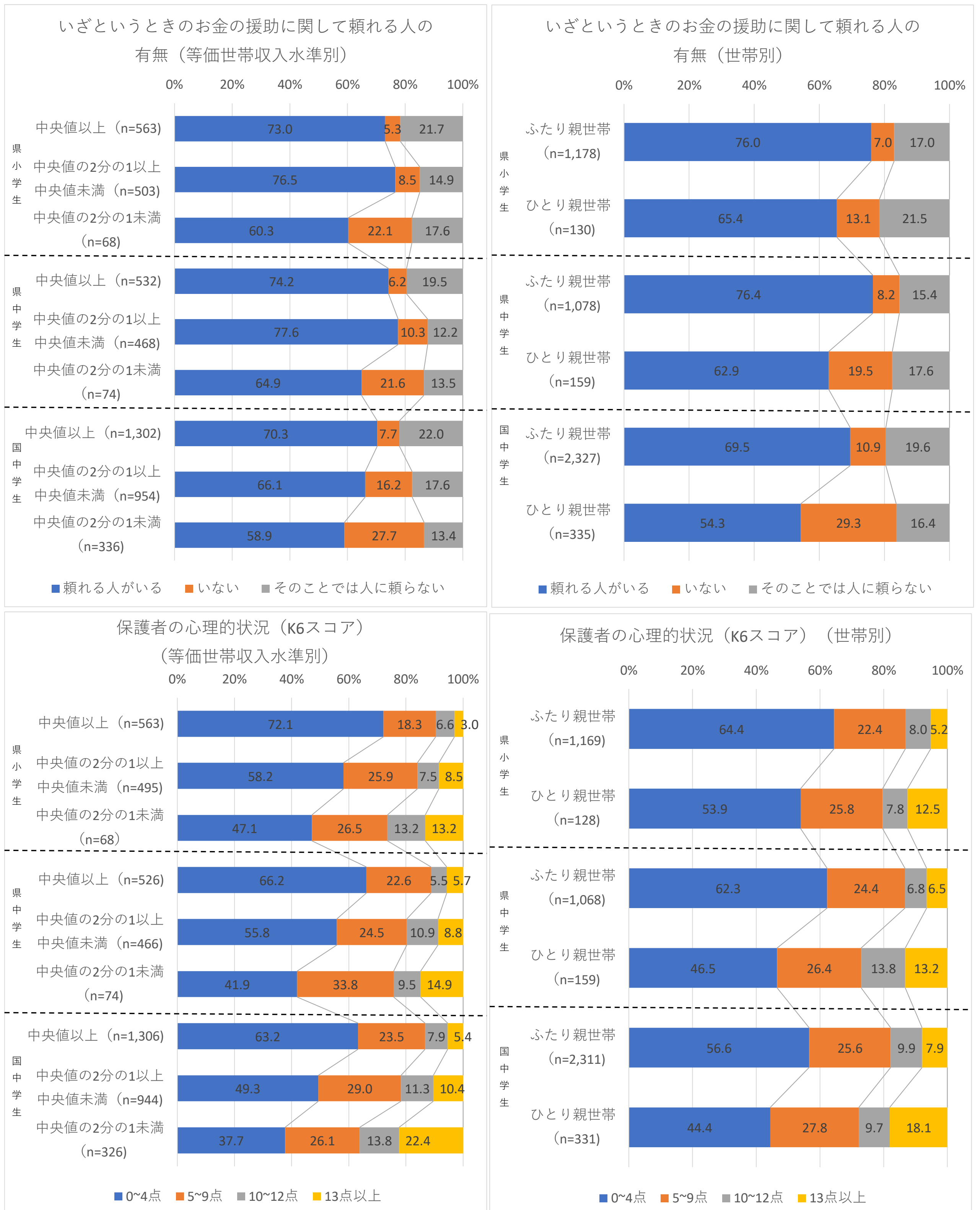
- ・子供の進学段階について「高校まで」と考える理由として、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した割合が高い。





●頼れる人の有無、保護者の心理的状況

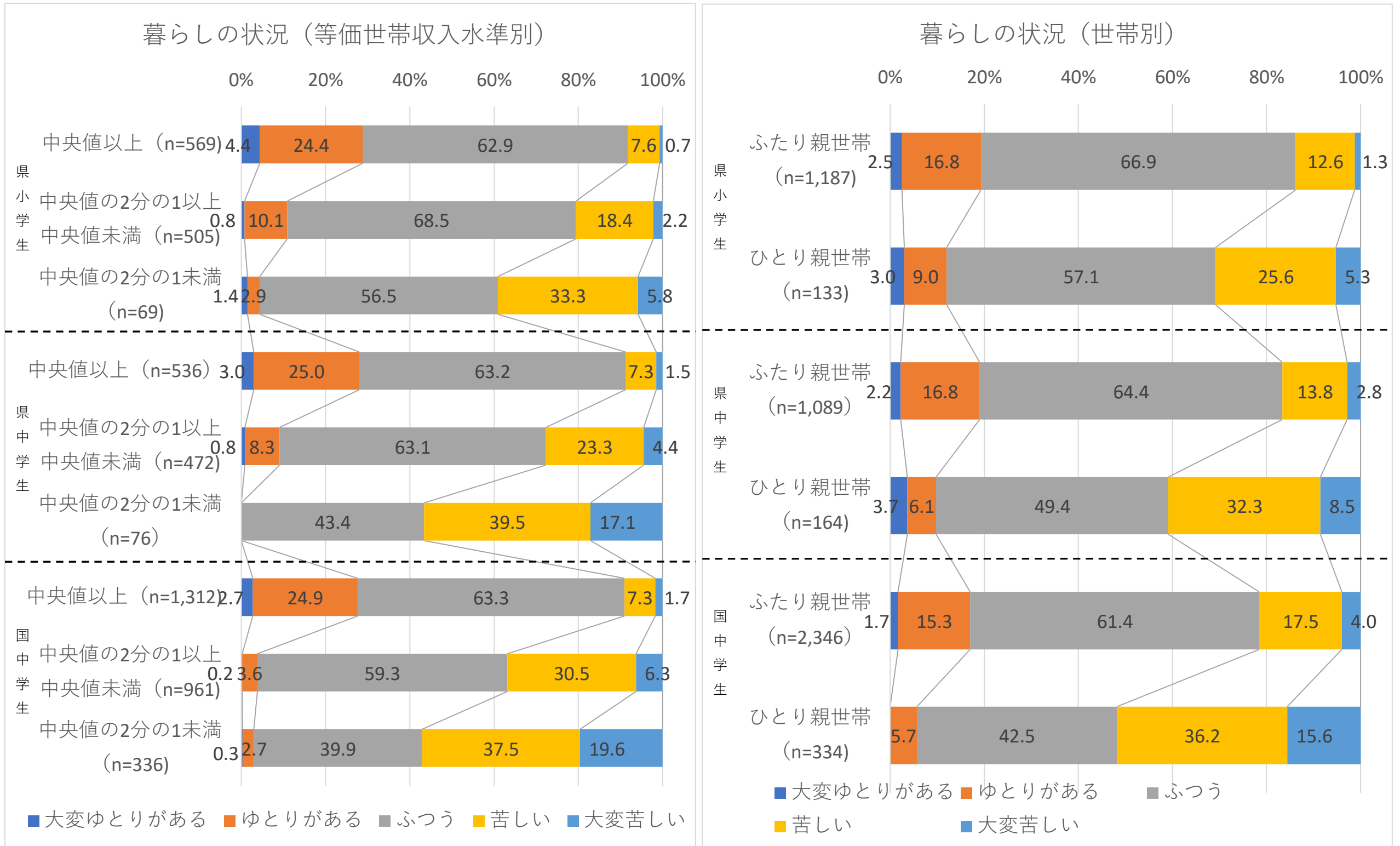
・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、頼れる人がいないと回答した割合が高い。また、心理的な状況として「うつ・不安障害相当」に該当すると考えられる（K6スコア※<sup>4</sup>が13点以上）割合が高い。



4 保護者票問28 (国:保護者票問22) の6つの調査項目に関して、ひとつの質問ごとに、0点 (5.まったくない) から4点 (1.いつも) を振り、結果を足し合わせた数値 (0~24点)。K6スコア13点以上で、「うつ・不安障害相当」とされている。

●現在の暮らしの状況

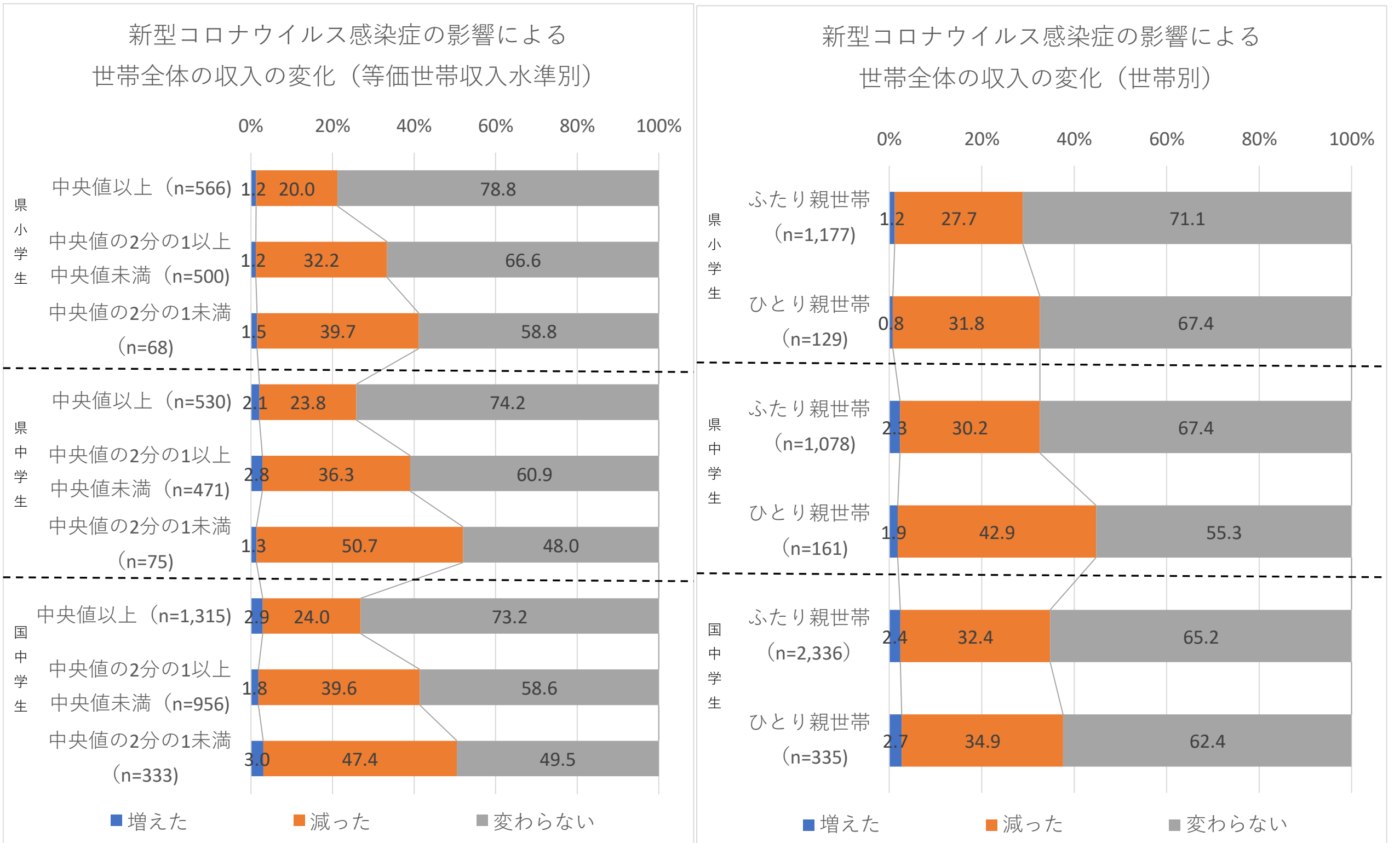
・国調査同様、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯やひとり親世帯では、「苦しい」「大変苦しい」と回答した割合が高い。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」の世帯では、子の学年が上がると「苦しい」「大変苦しい」と回答する割合が高くなっている。



(2) 新型コロナウイルス感染症の影響

●世帯全体の収入の変化

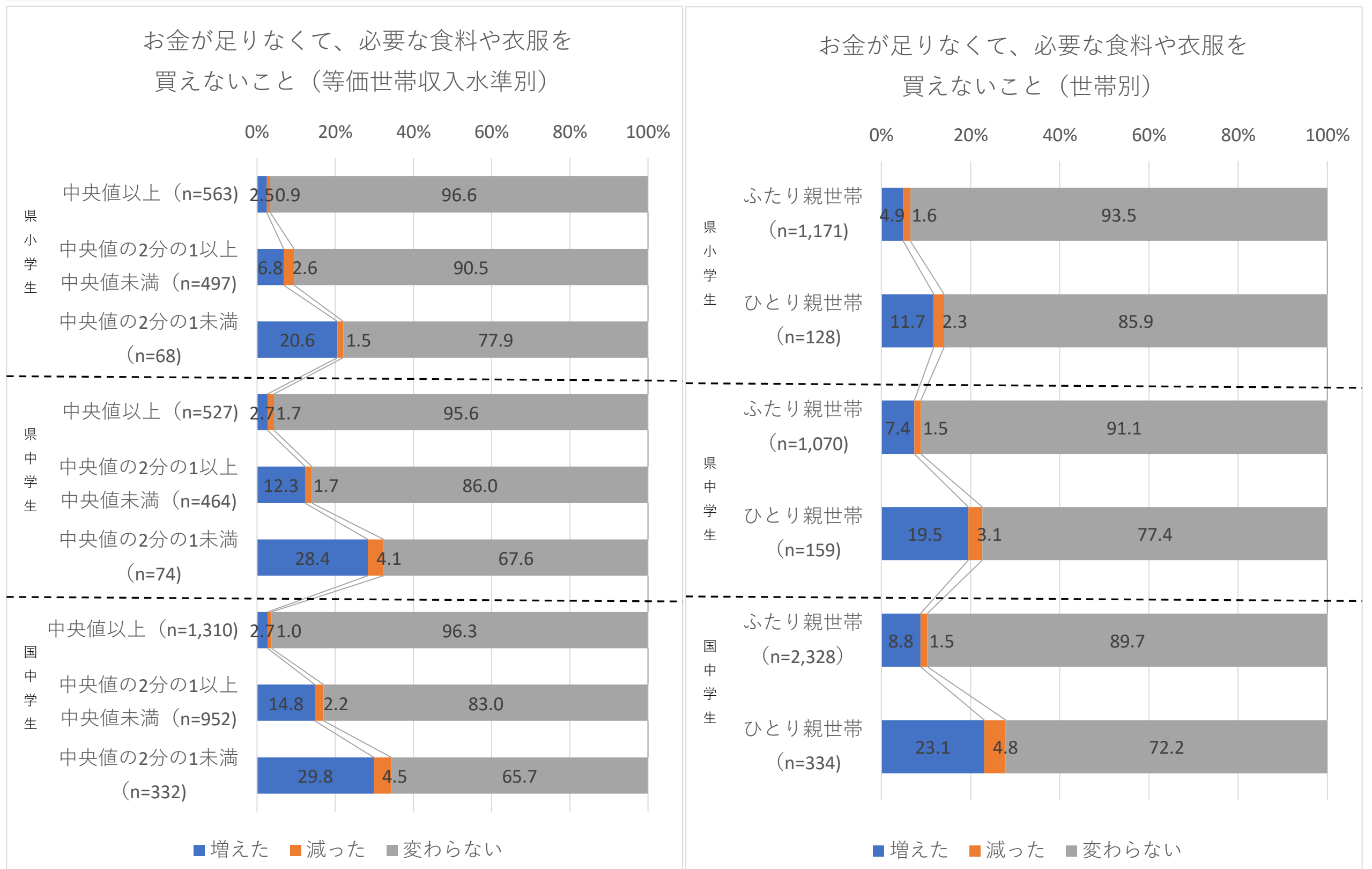
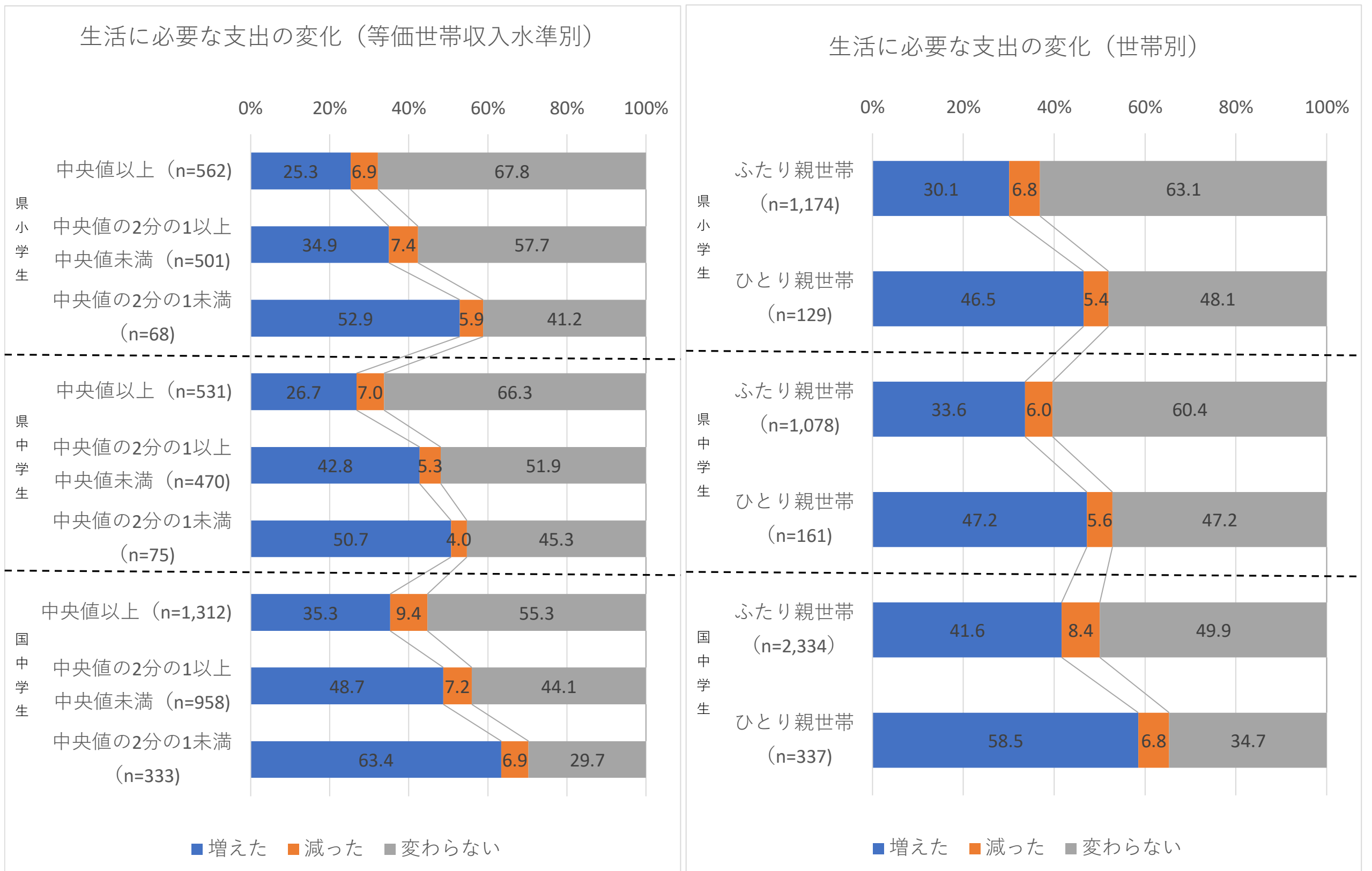
・新型コロナウイルス感染症の拡大により「世帯全体の収入の変化」が「減った」と回答した割合は、収入が低い世帯で高い。

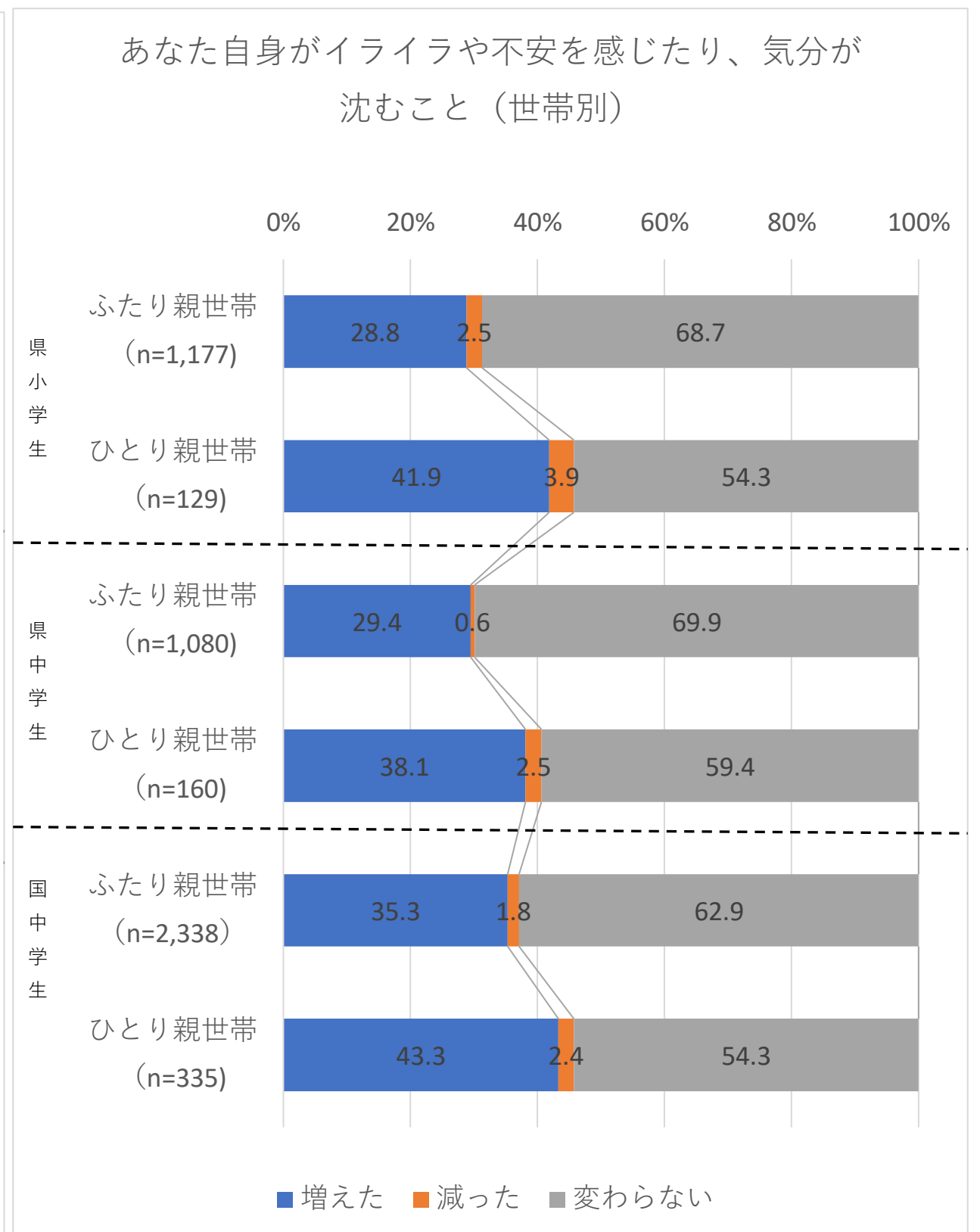
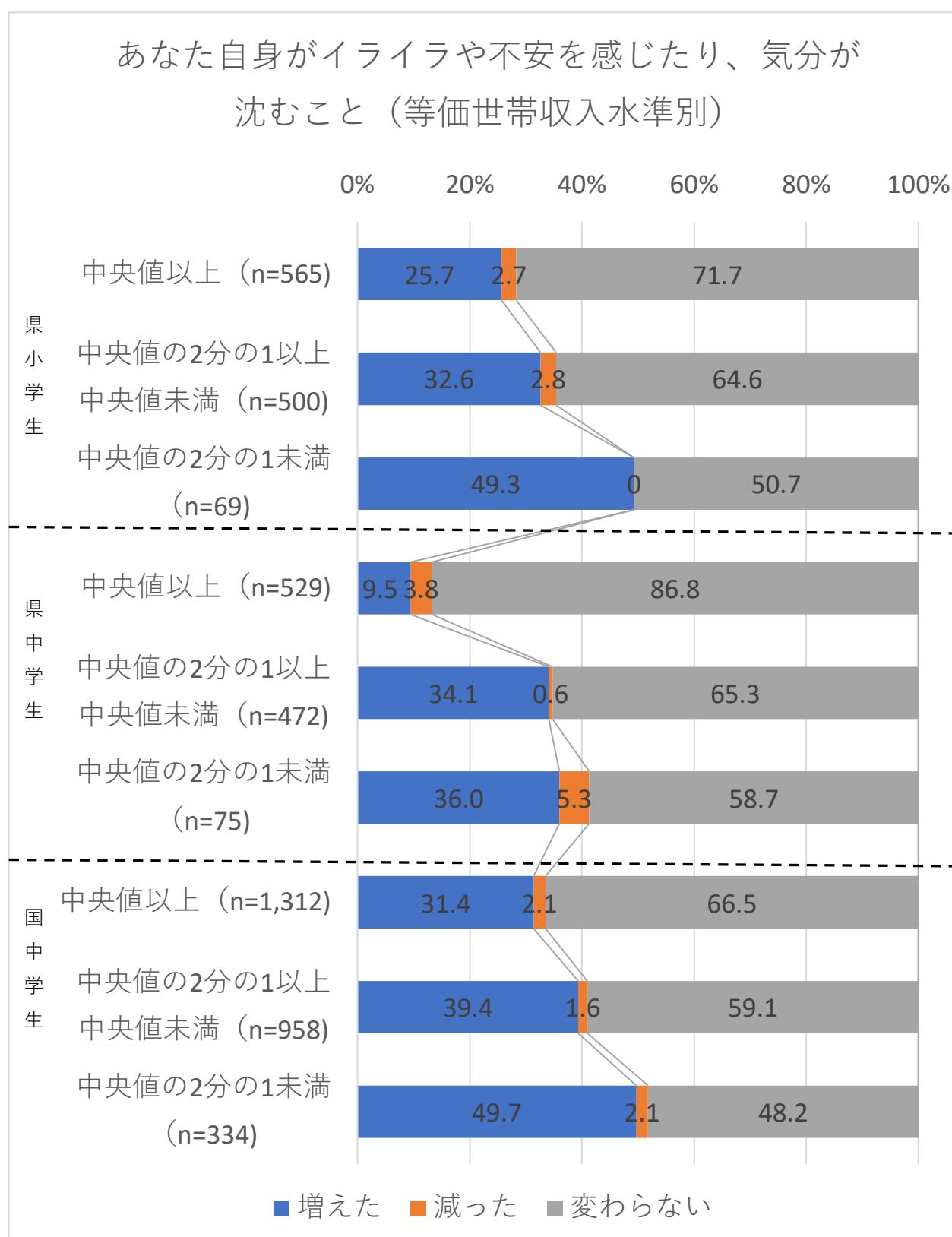




●生活状況の変化

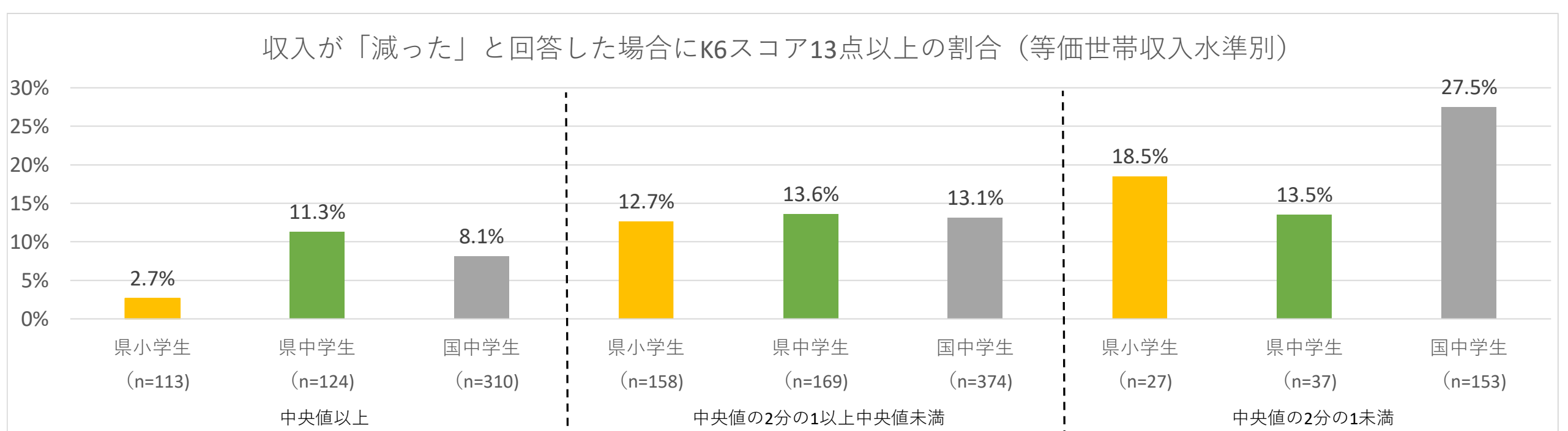
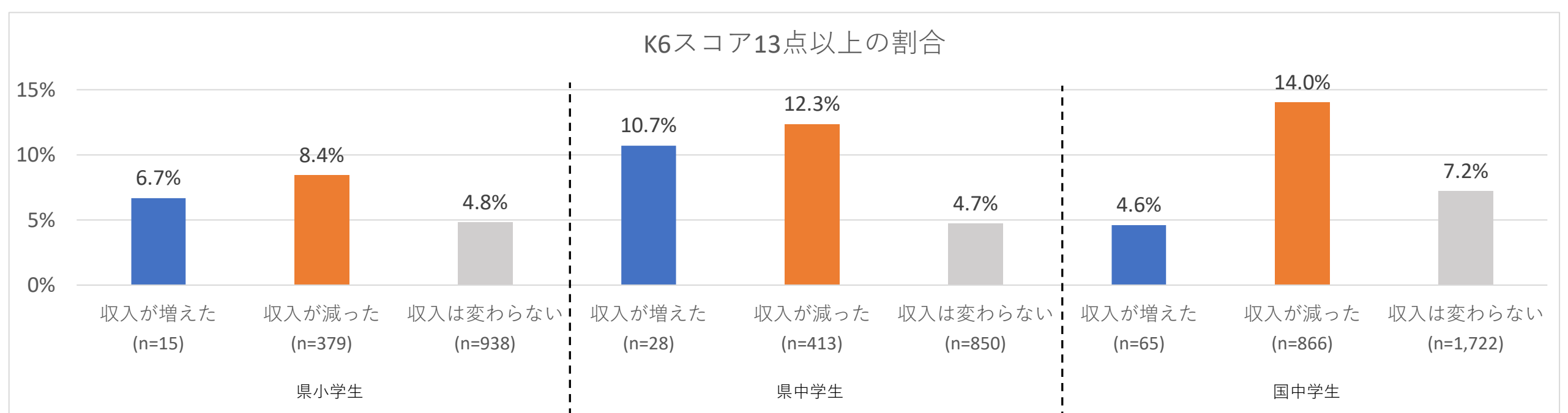
- ・「生活に必要な支出の変化」、「お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」、「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」について、「増えた」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。





●コロナの影響と保護者の心理的状況の関係

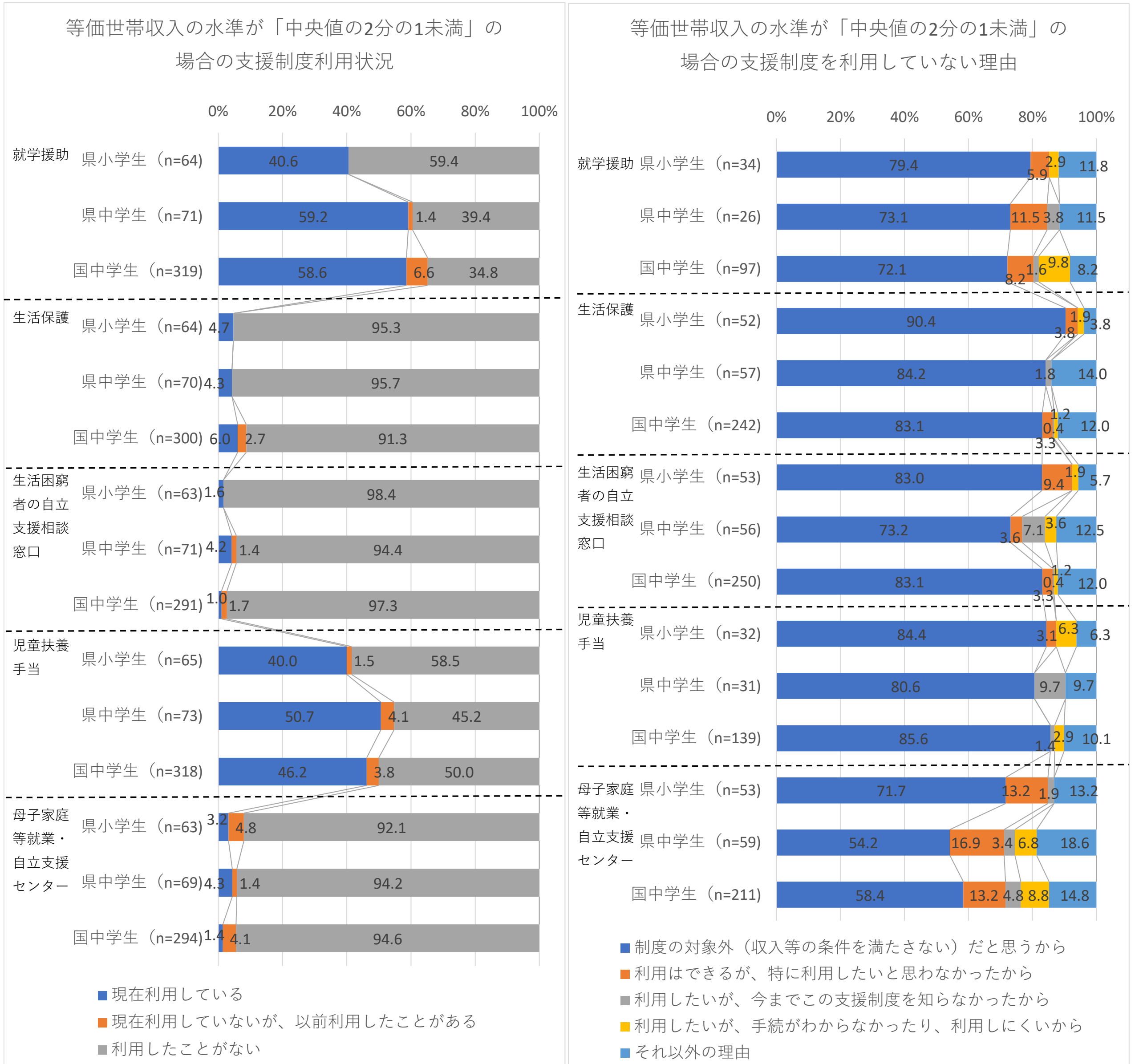
- ・国調査では、世帯全体の収入が「減った」と回答した場合に「うつ・不安障害相当」に該当すると考えられる（K6スコア13点以上）割合が、収入が増えた場合と比べて約3倍高いが、県調査では、差がほとんどなく、収入が「増えた」と回答した場合でも、「うつ・不安障害相当」に該当すると考えられる割合が高い。
- ・等価世帯収入の水準が下がるほど、収入が「減った」と回答した場合に「うつ・不安障害相当」に該当すると考えられる割合が高い。



(3) 支援の利用状況等

●支援制度の利用状況等

- ・支援の利用状況について、収入のもっとも低い世帯でも、「就学援助」や「児童扶養手当」の利用割合は、5割前後であり、「生活保護」「生活困窮者の自立支援相談窓口」「母子家庭等就業・自立支援センター」の利用割合は1割未満と低い。
- ・支援制度を利用していない理由について、利用対象外である場合、利用希望がない場合が全ての制度で7割を超えている。「就学援助」「生活困窮者の自立支援相談窓口」「母子家庭等就業・自立支援センター」は、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」と「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」を合わせた回答が1割程度となっている。



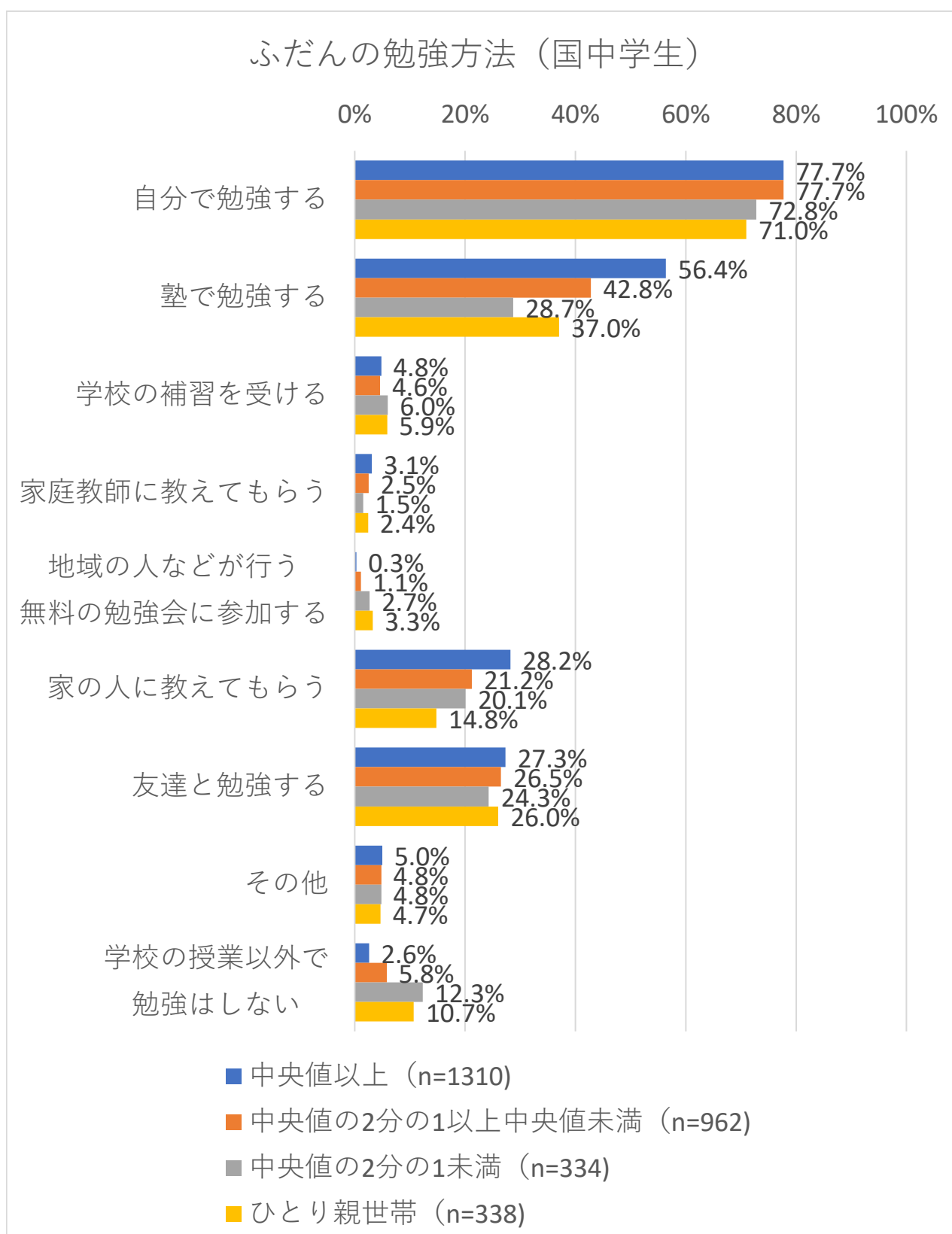
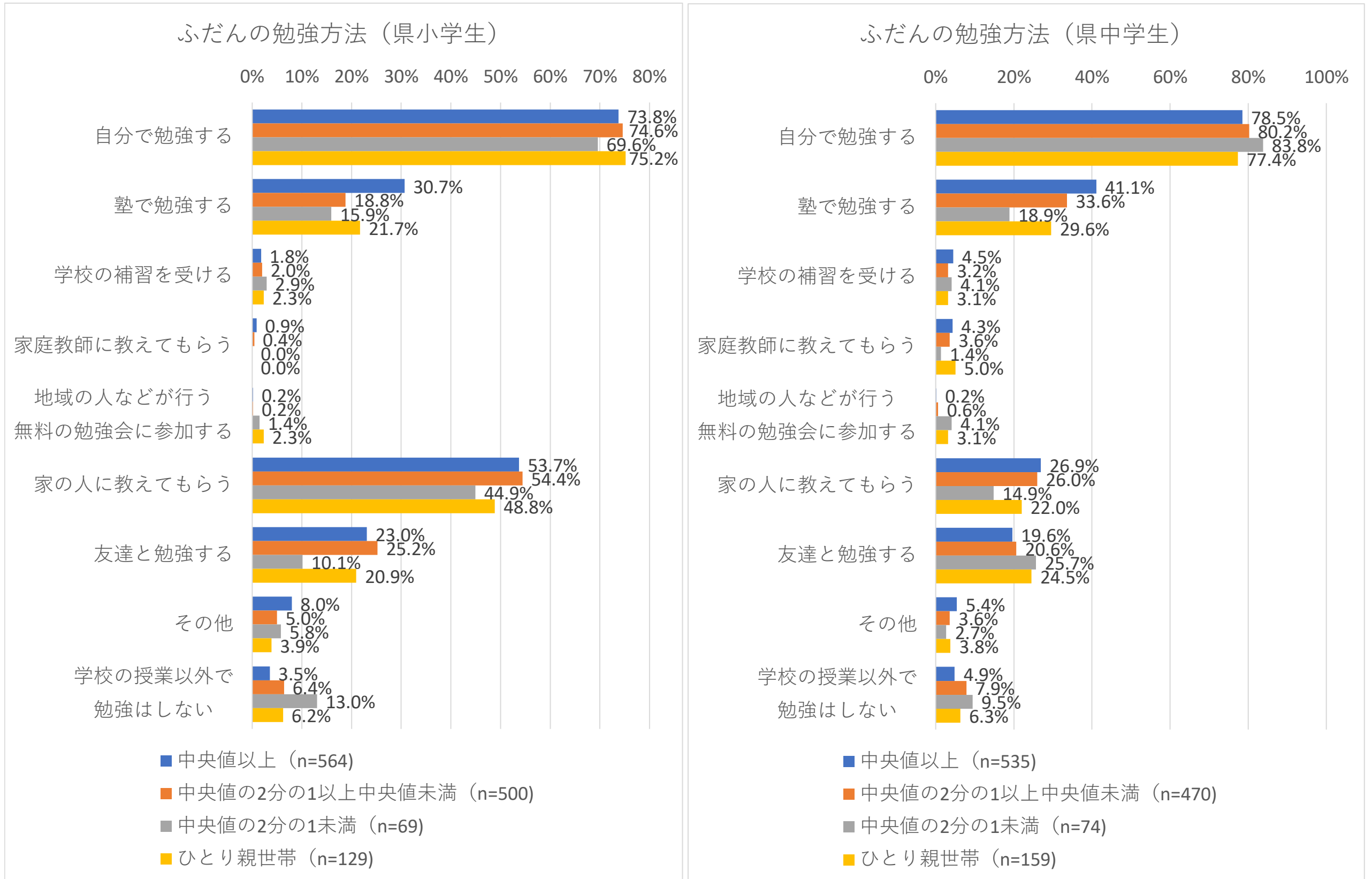


## 2. 子供の生活状況

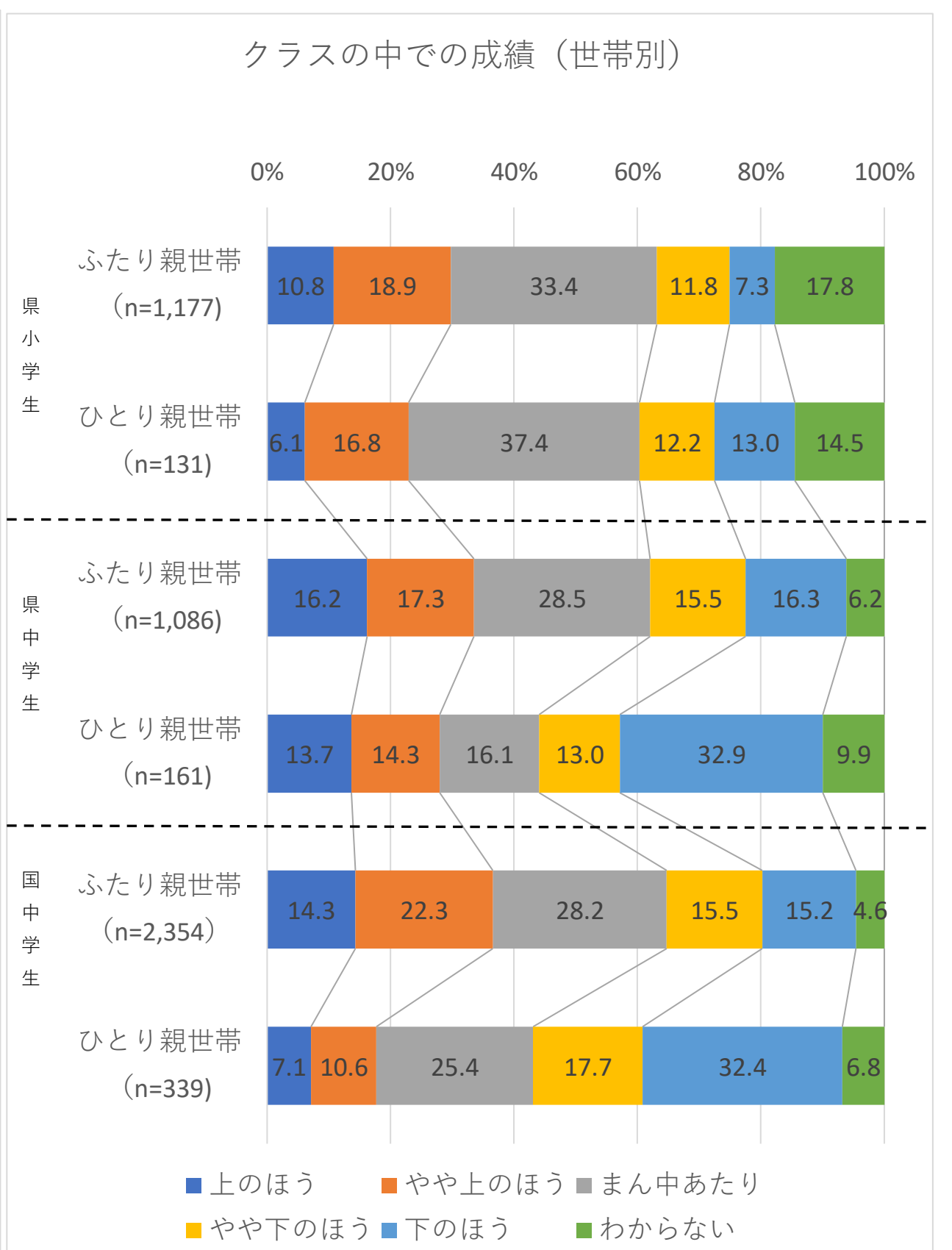
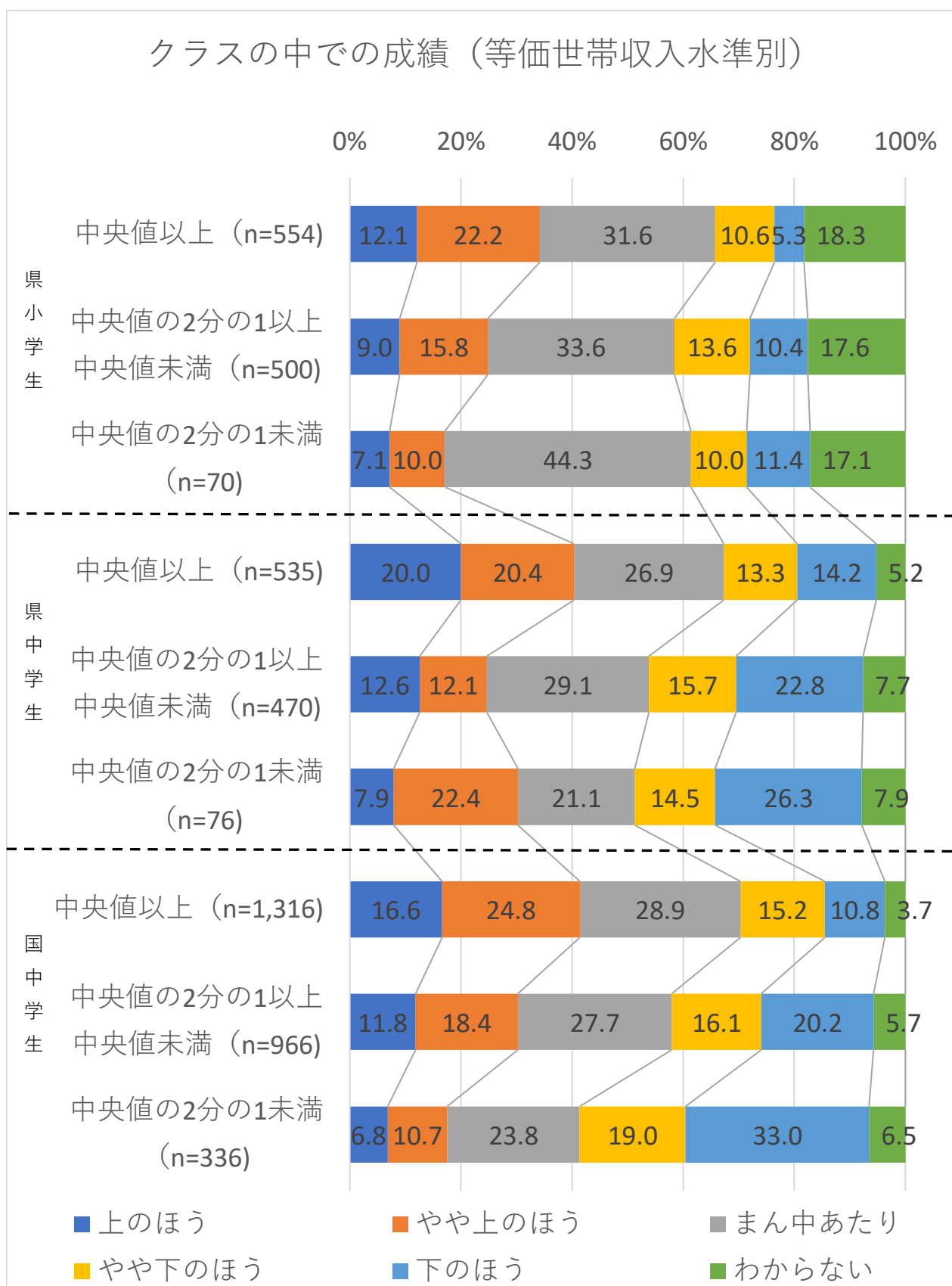
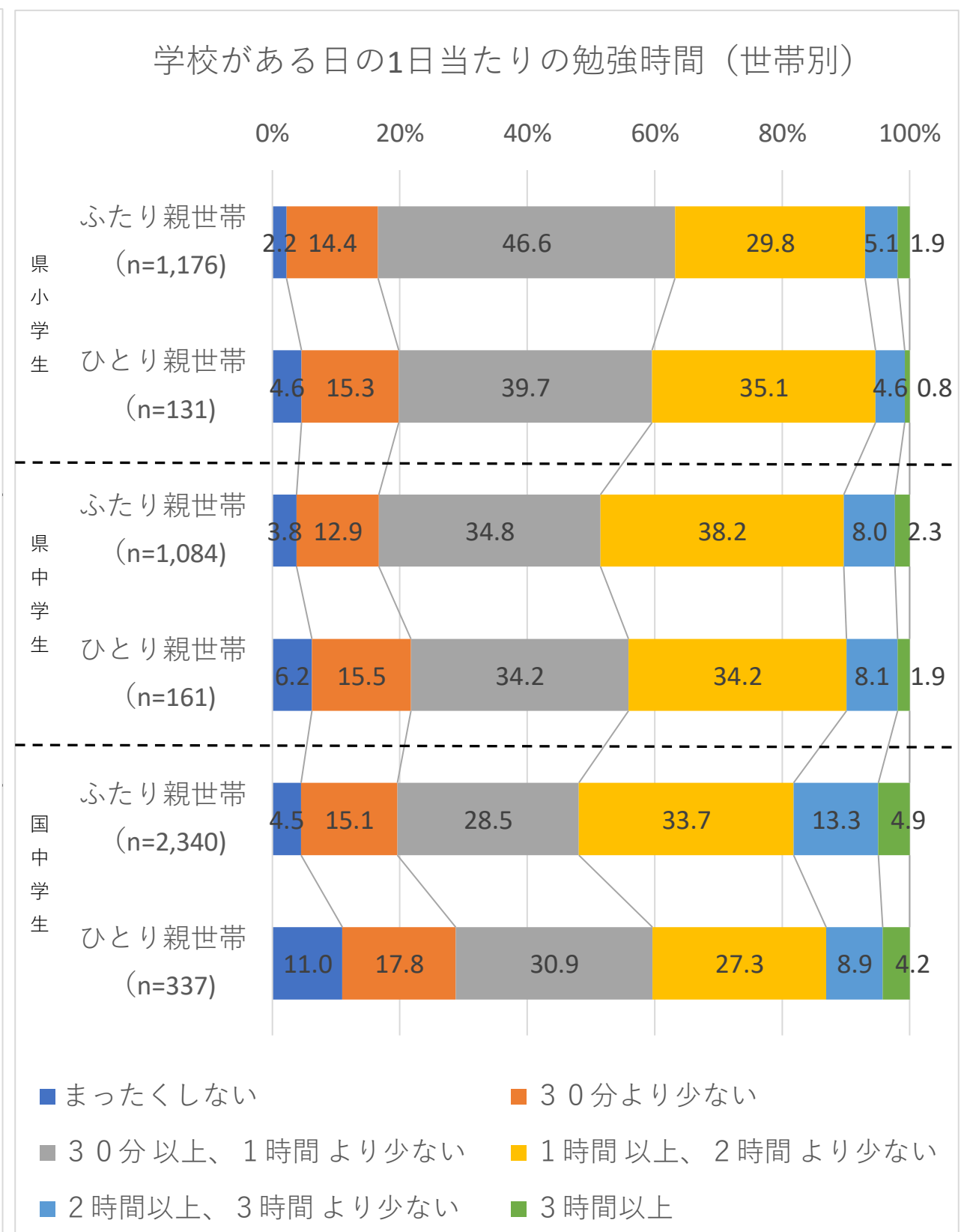
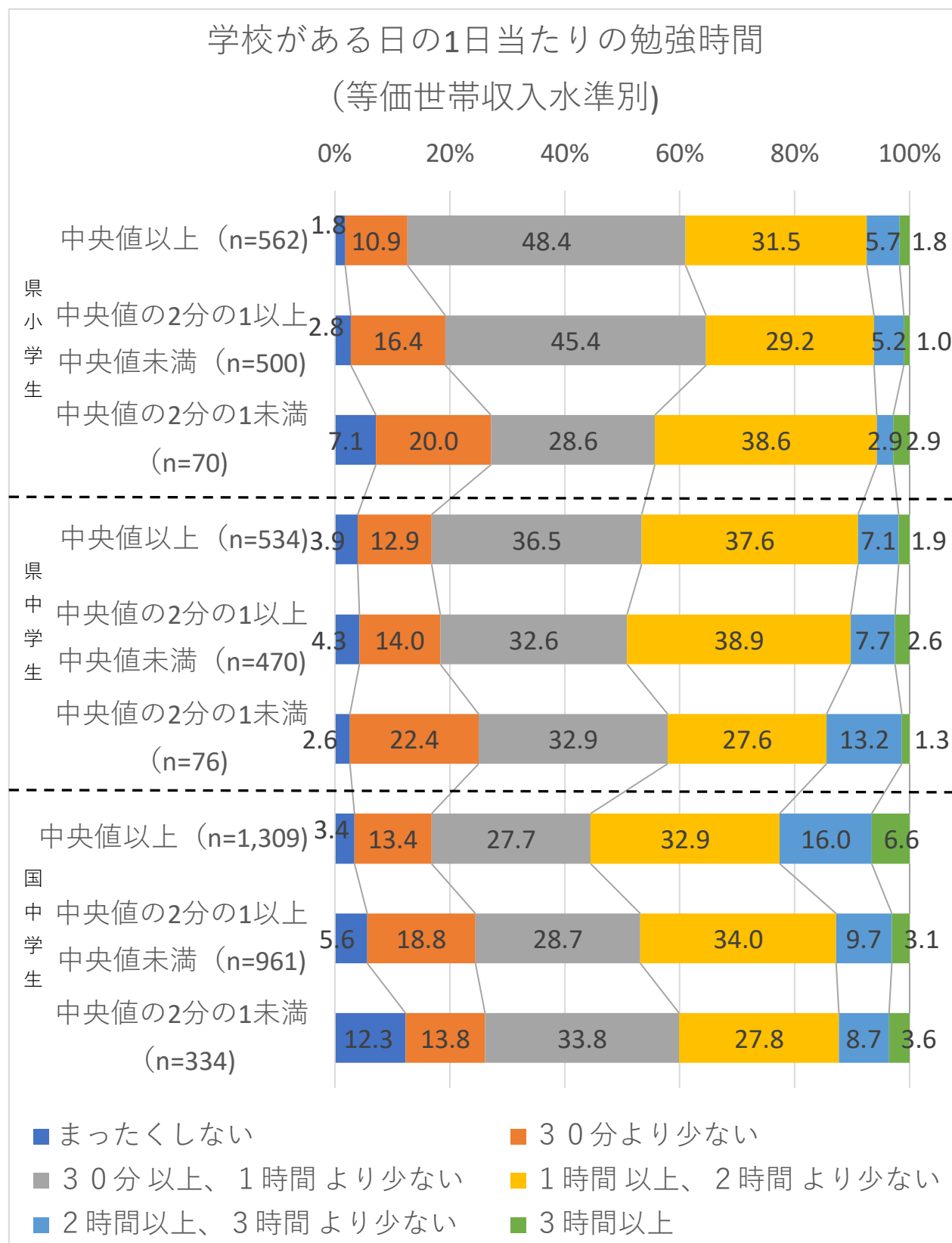
### (1) 生活・行動実態、課題等（「貧困の連鎖」等のリスクの状況）

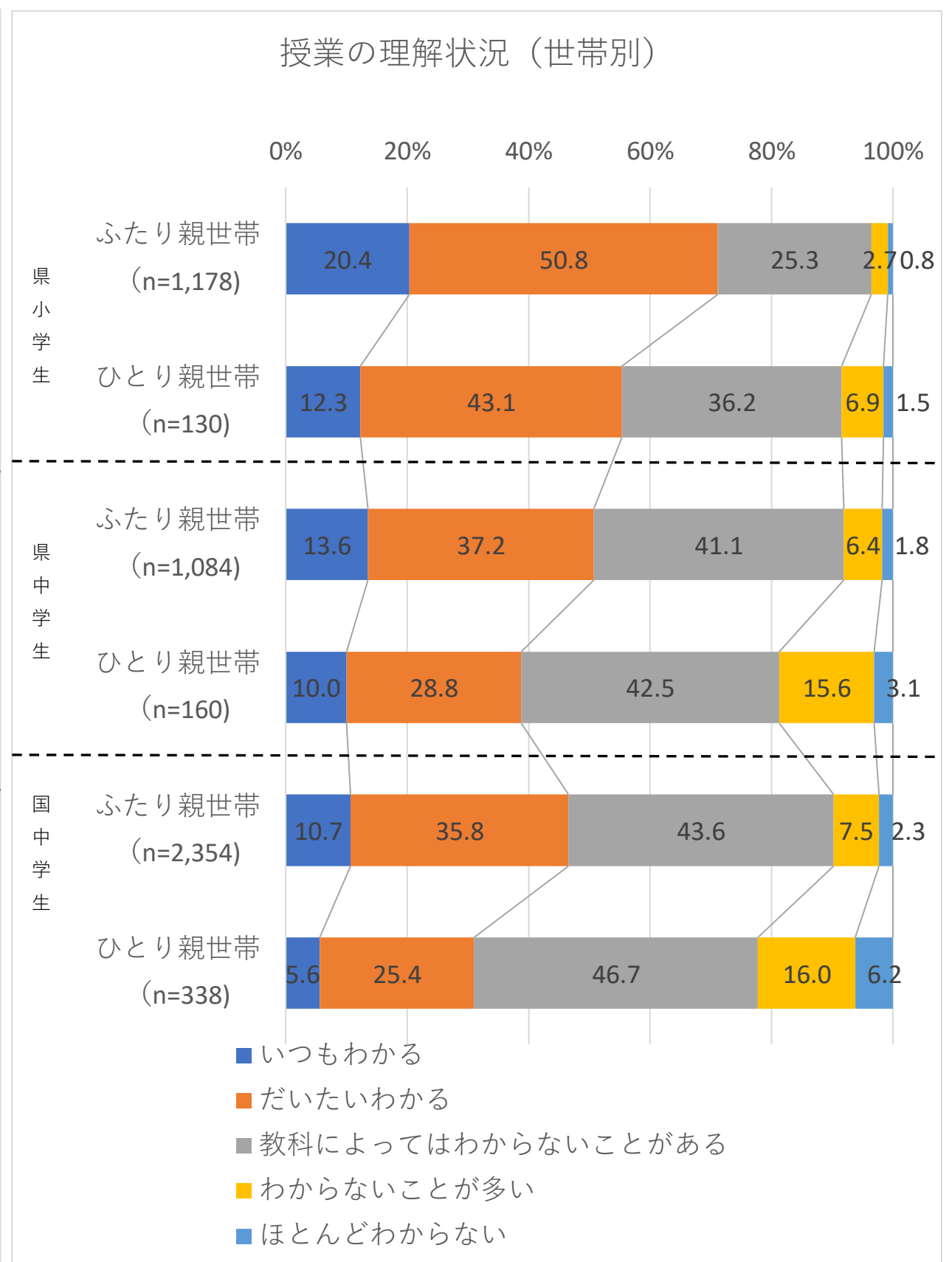
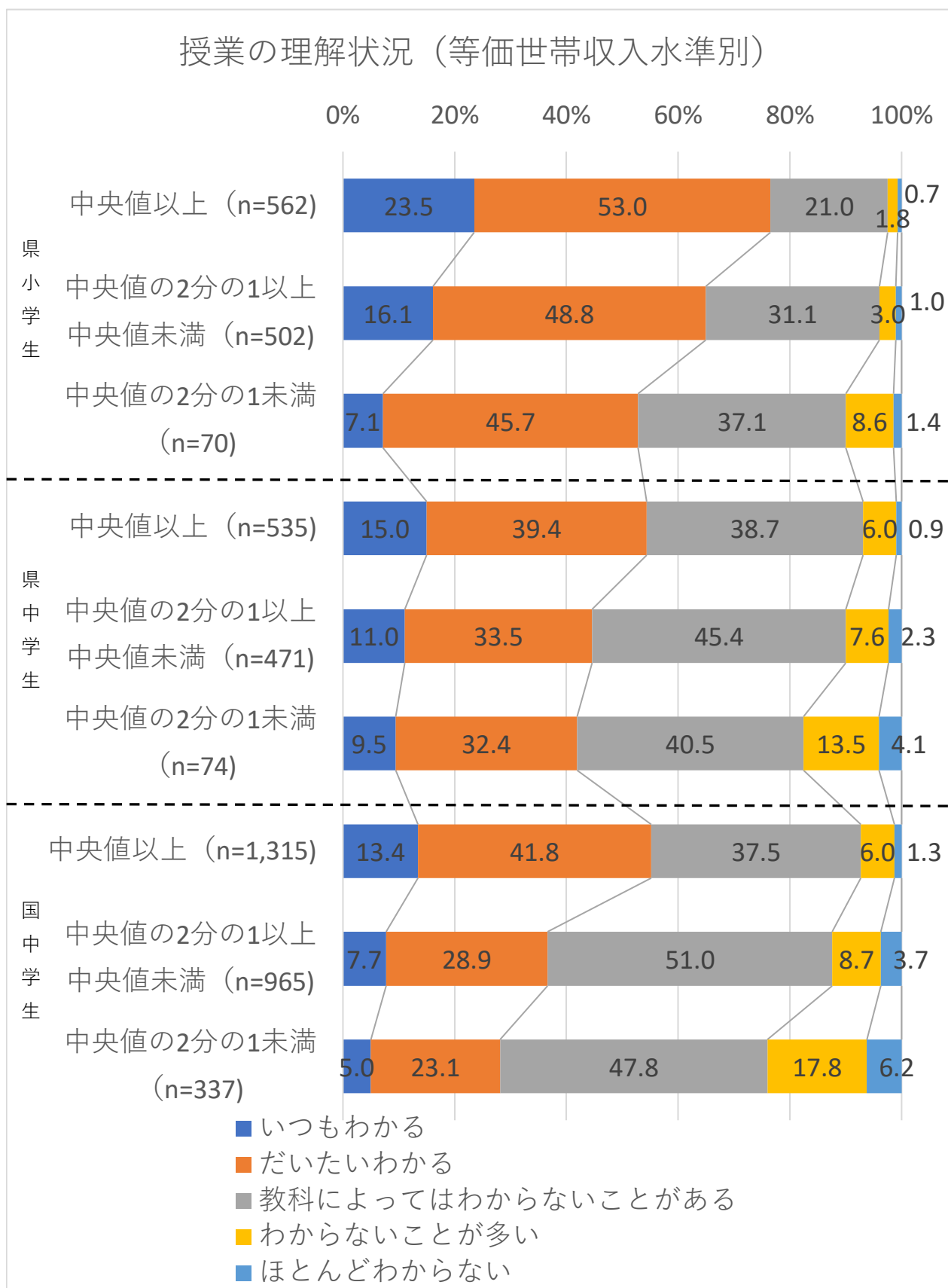
#### ●子どもの学習状況

・「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。



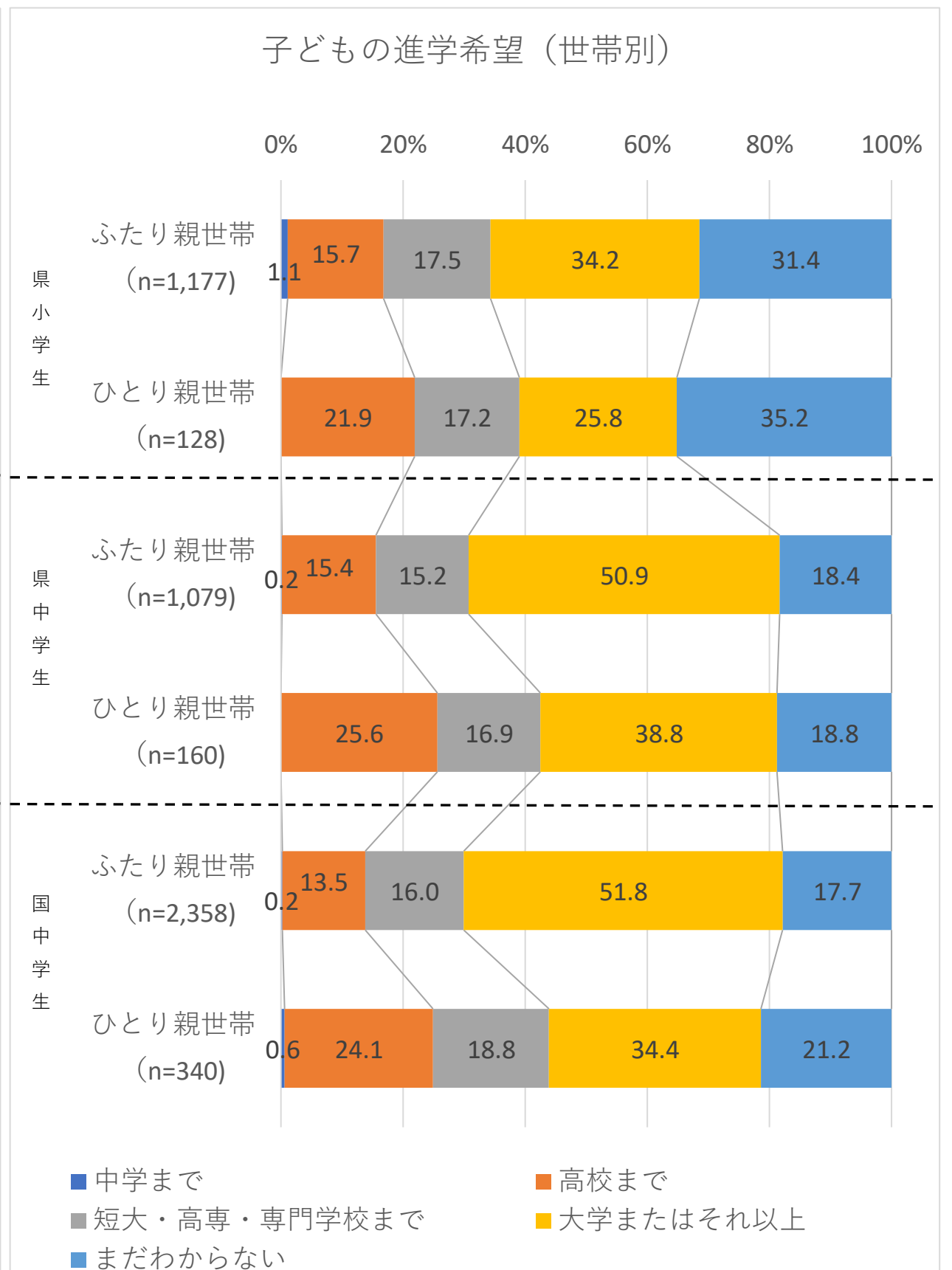
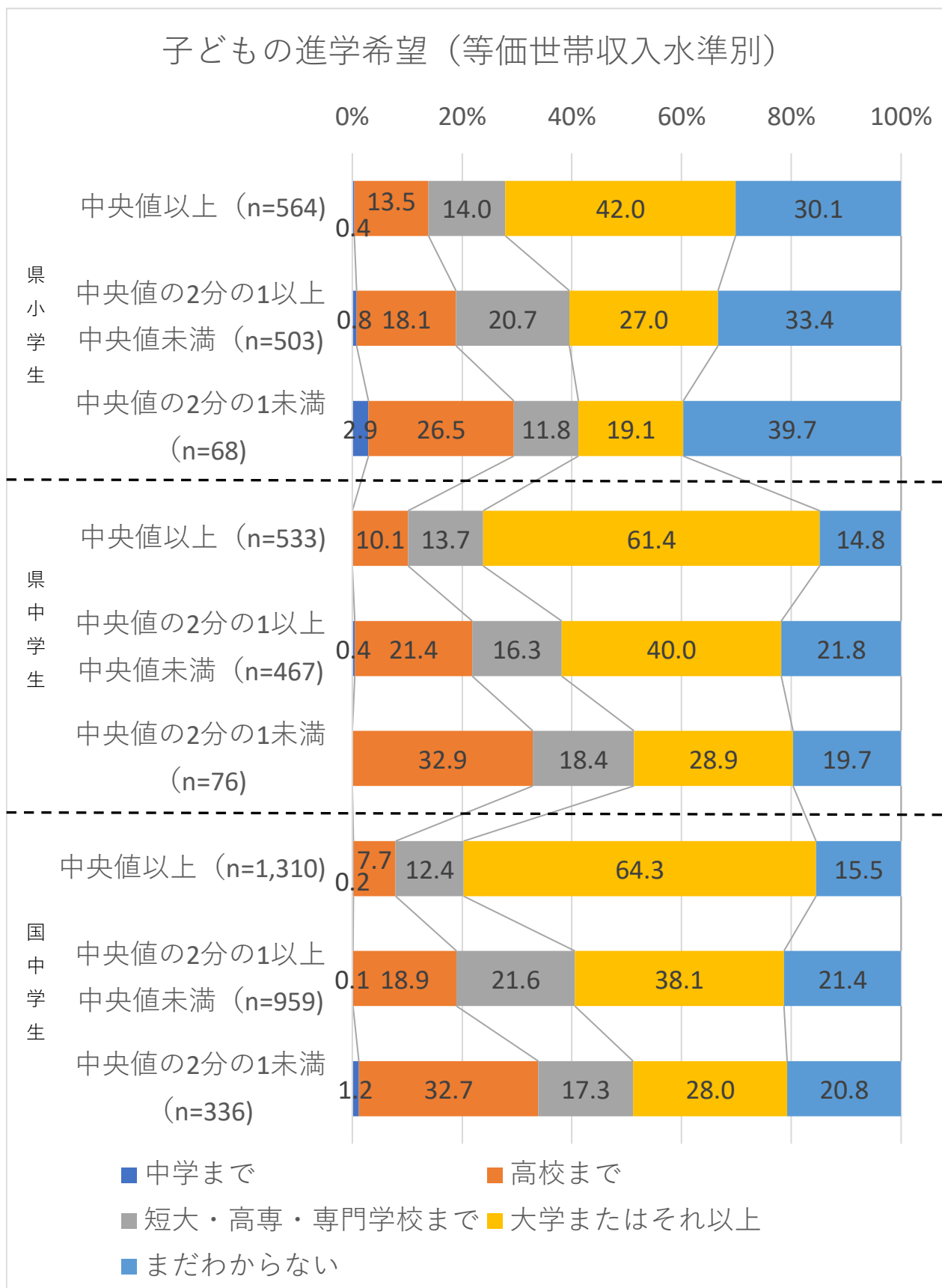
・学校がある日に授業以外の勉強を「まったくしない」と回答した割合、クラスのなかでの成績について「下のほう」と回答した割合、学校の授業について「わからないことが多い」と回答した割合は、それぞれ収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。





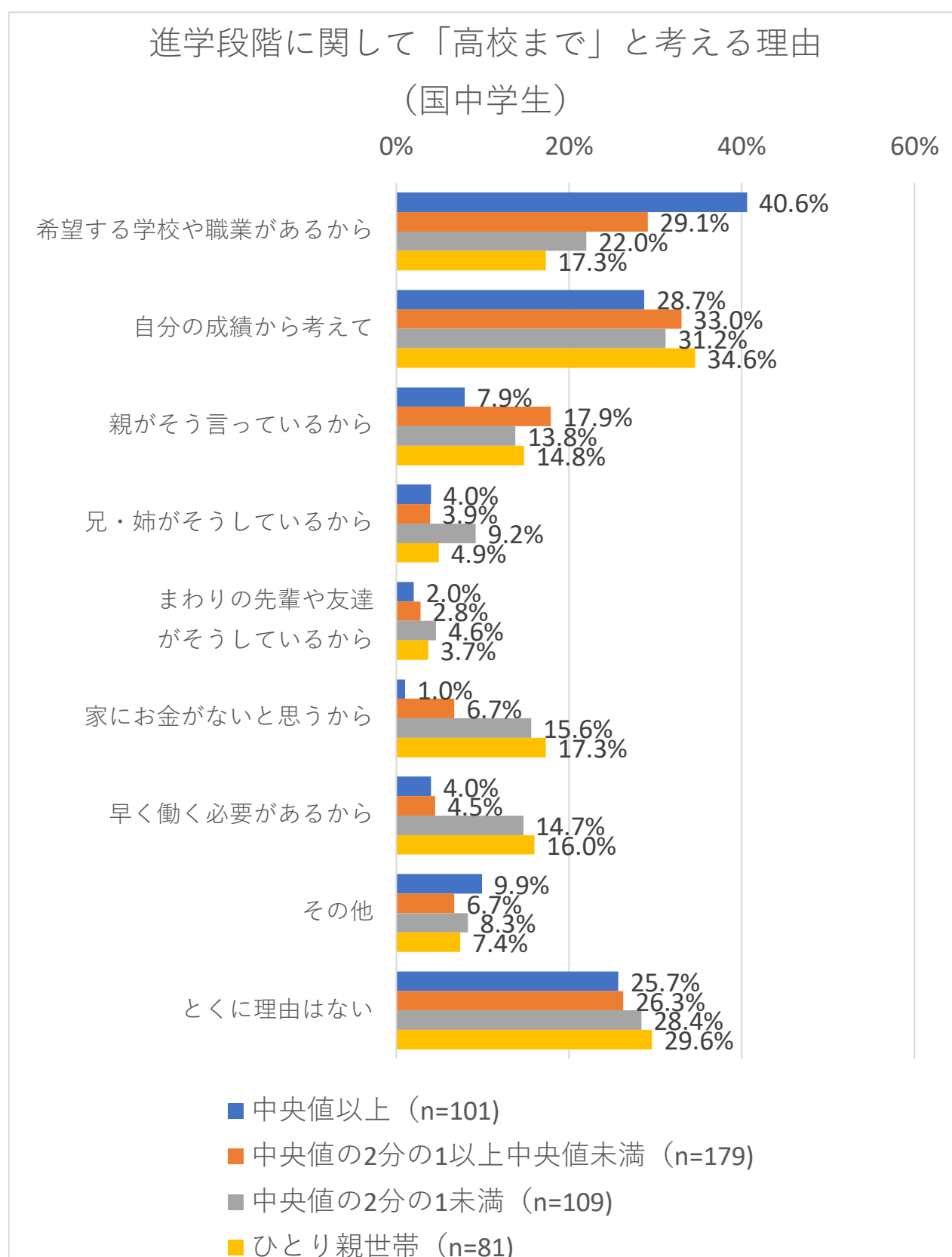
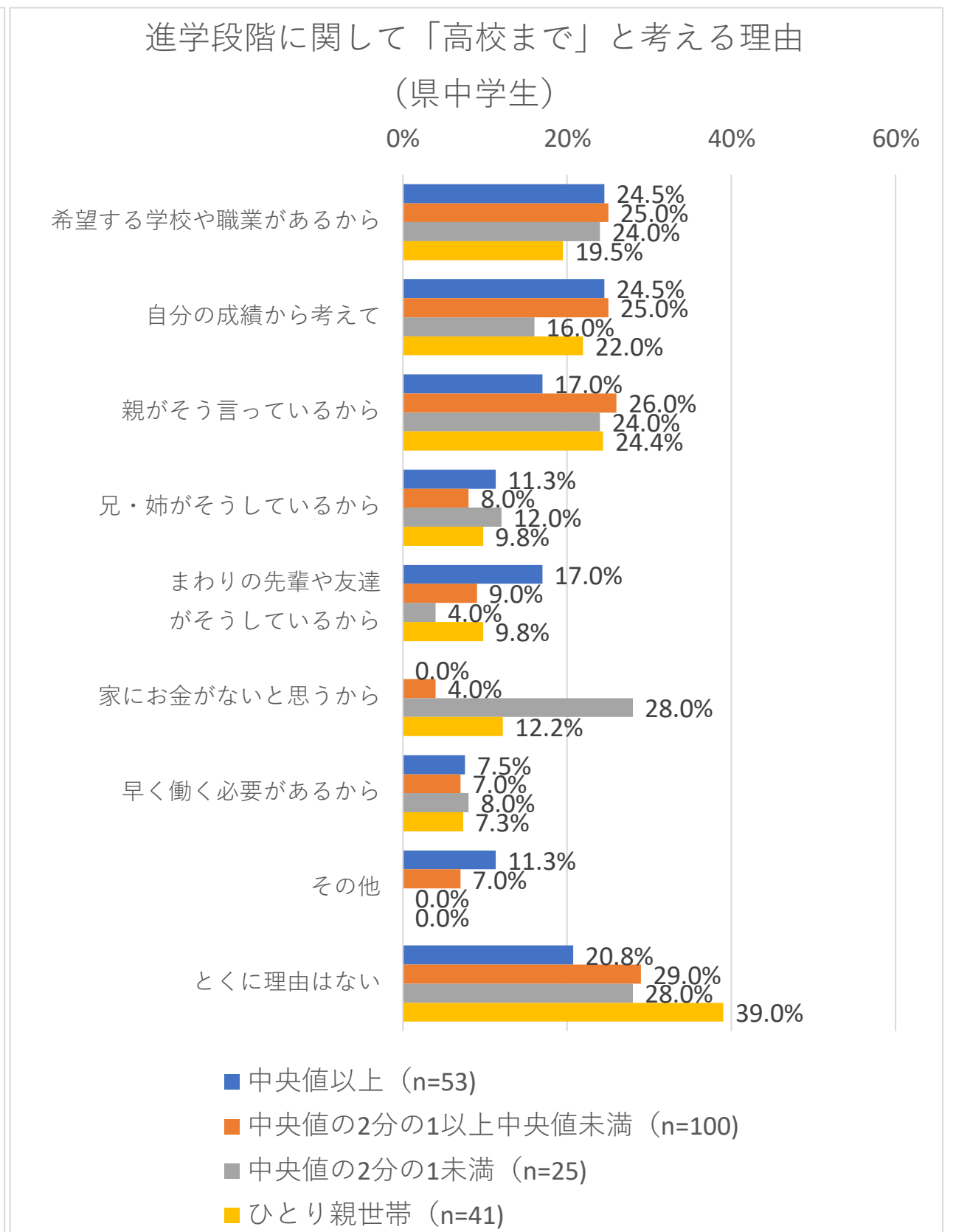
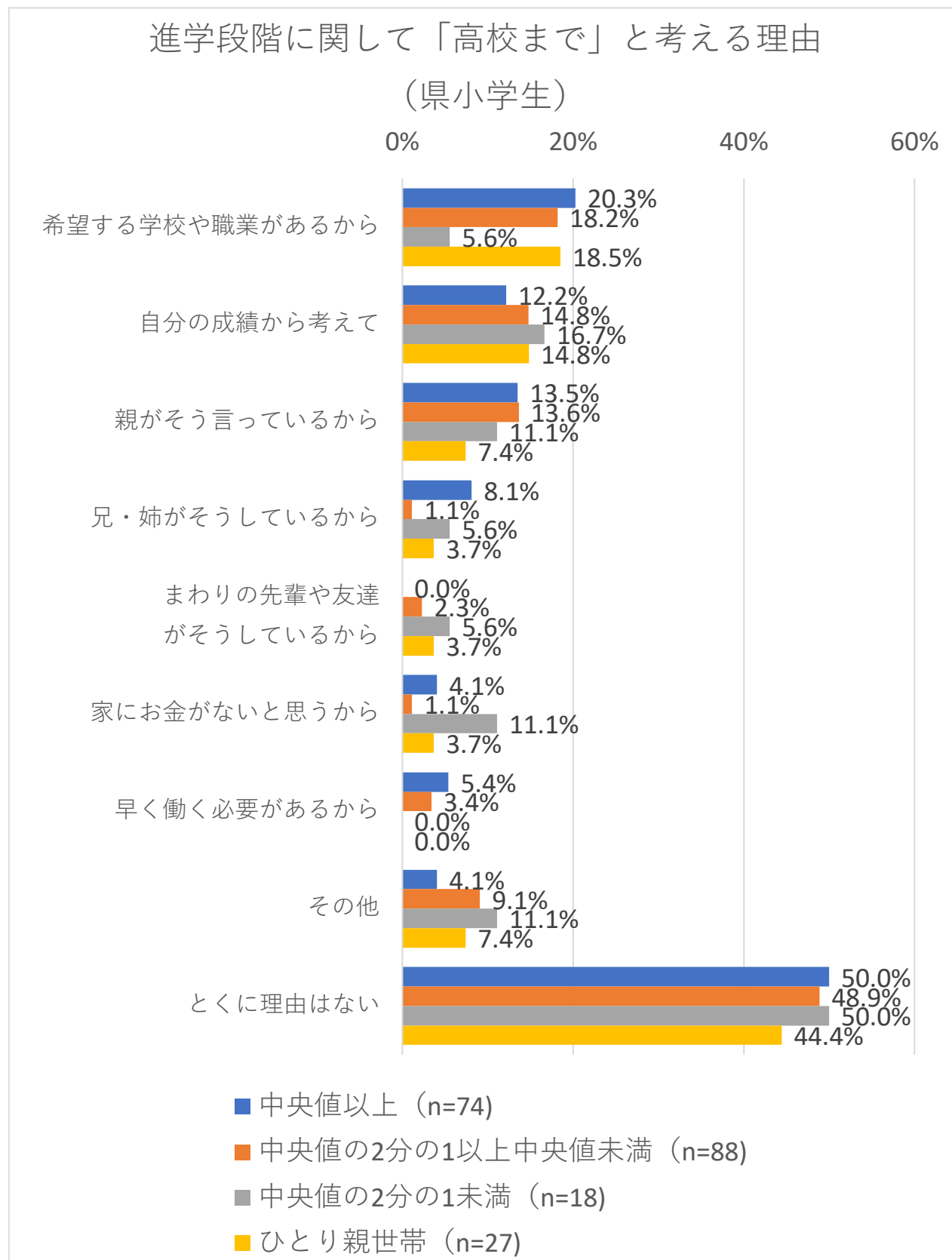
●子どもの進学希望

・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、進学したいと思う教育段階について「大学またはそれ以上」と回答した割合が低い。



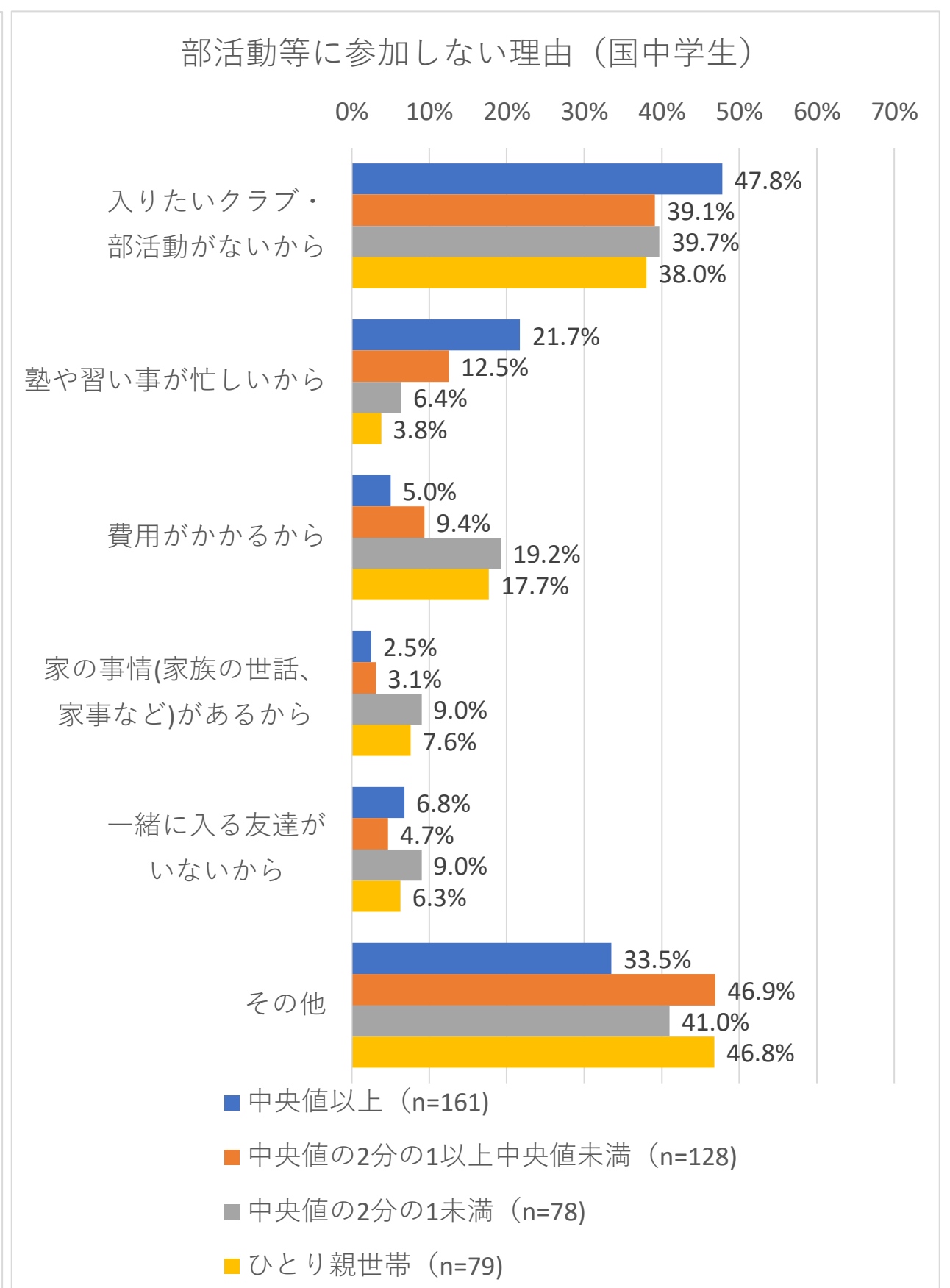
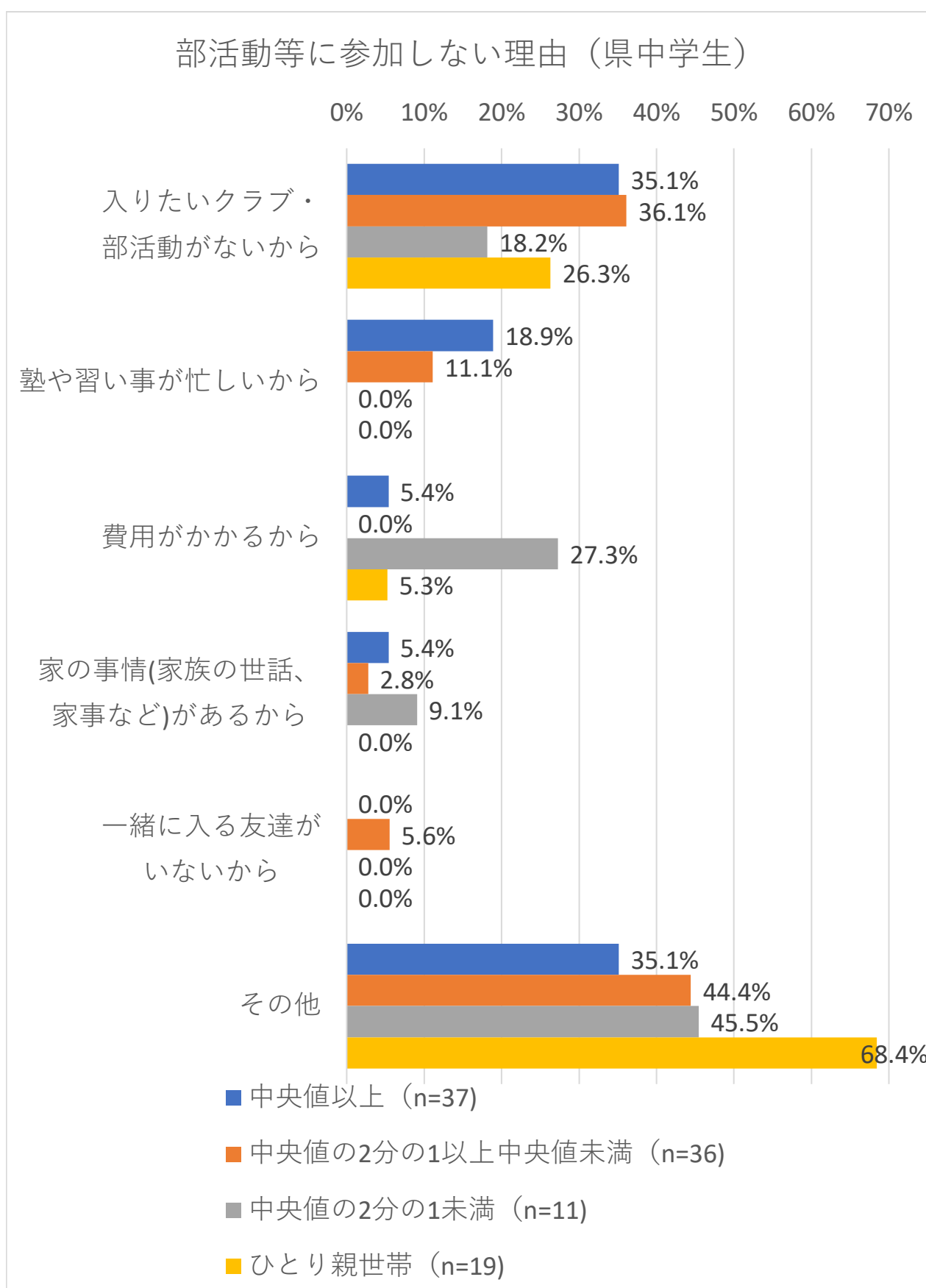
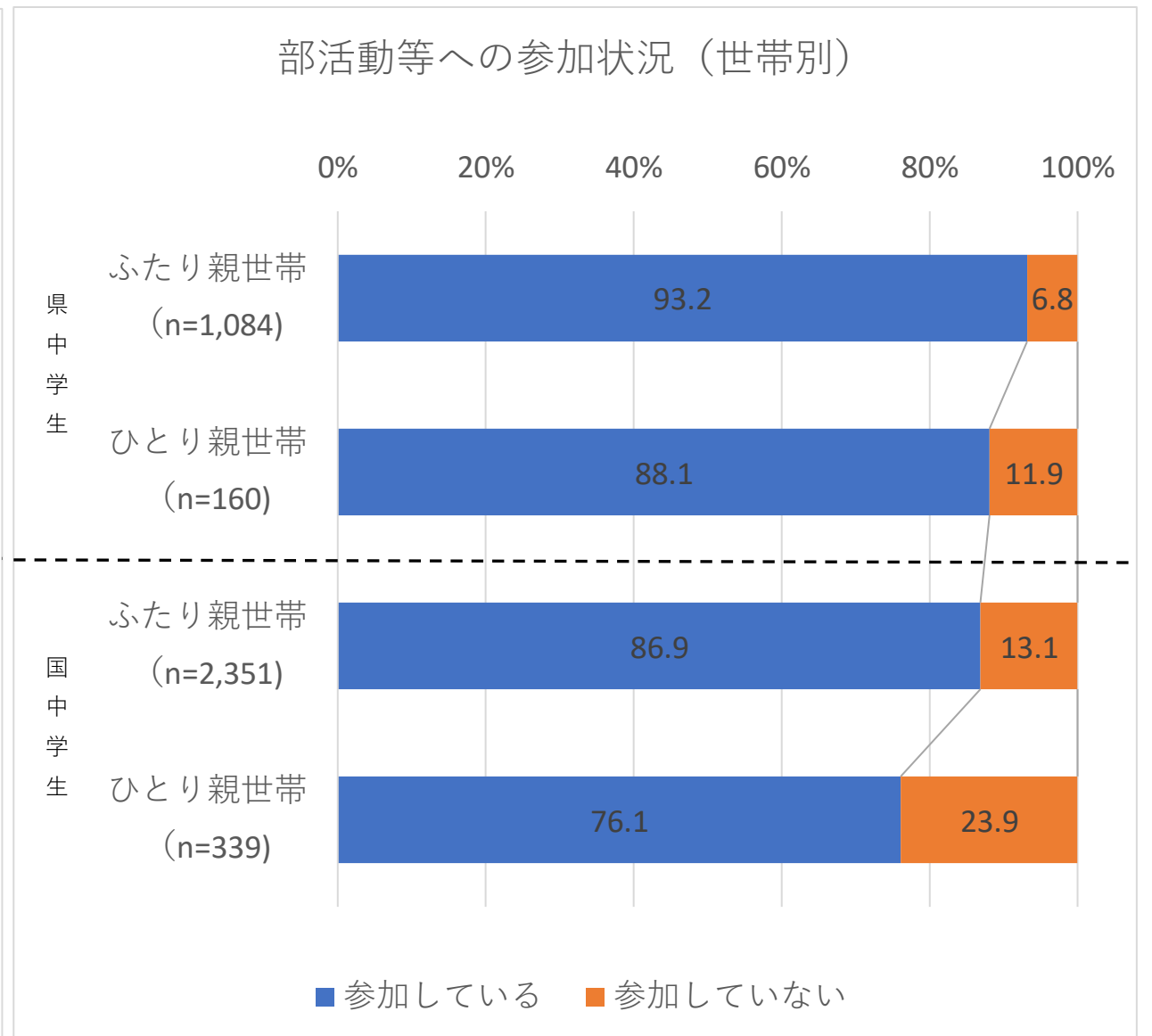
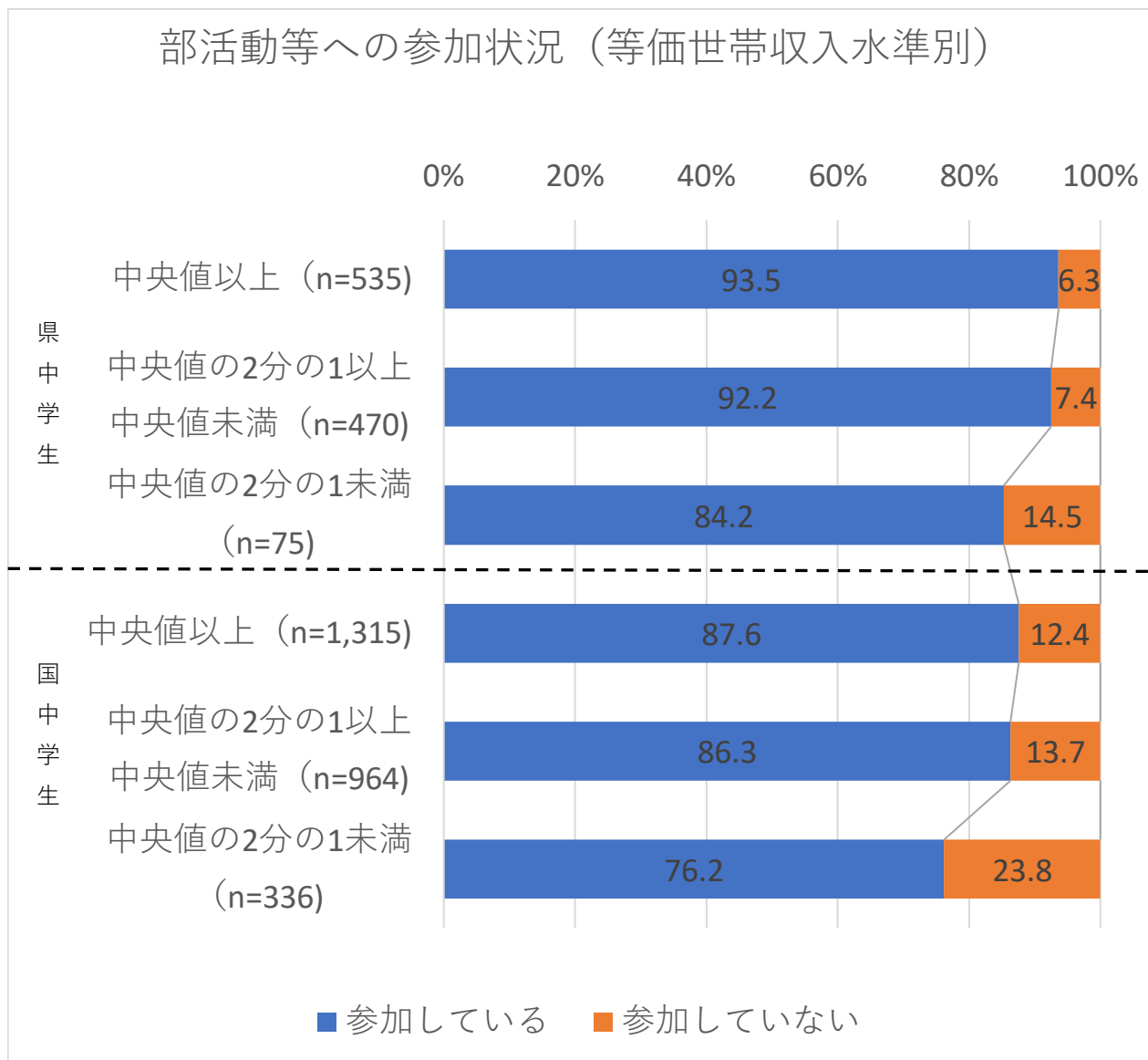


・進学先を「高校まで」と考える理由について、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「家にお金がないと思うから」と回答する割合が高い。



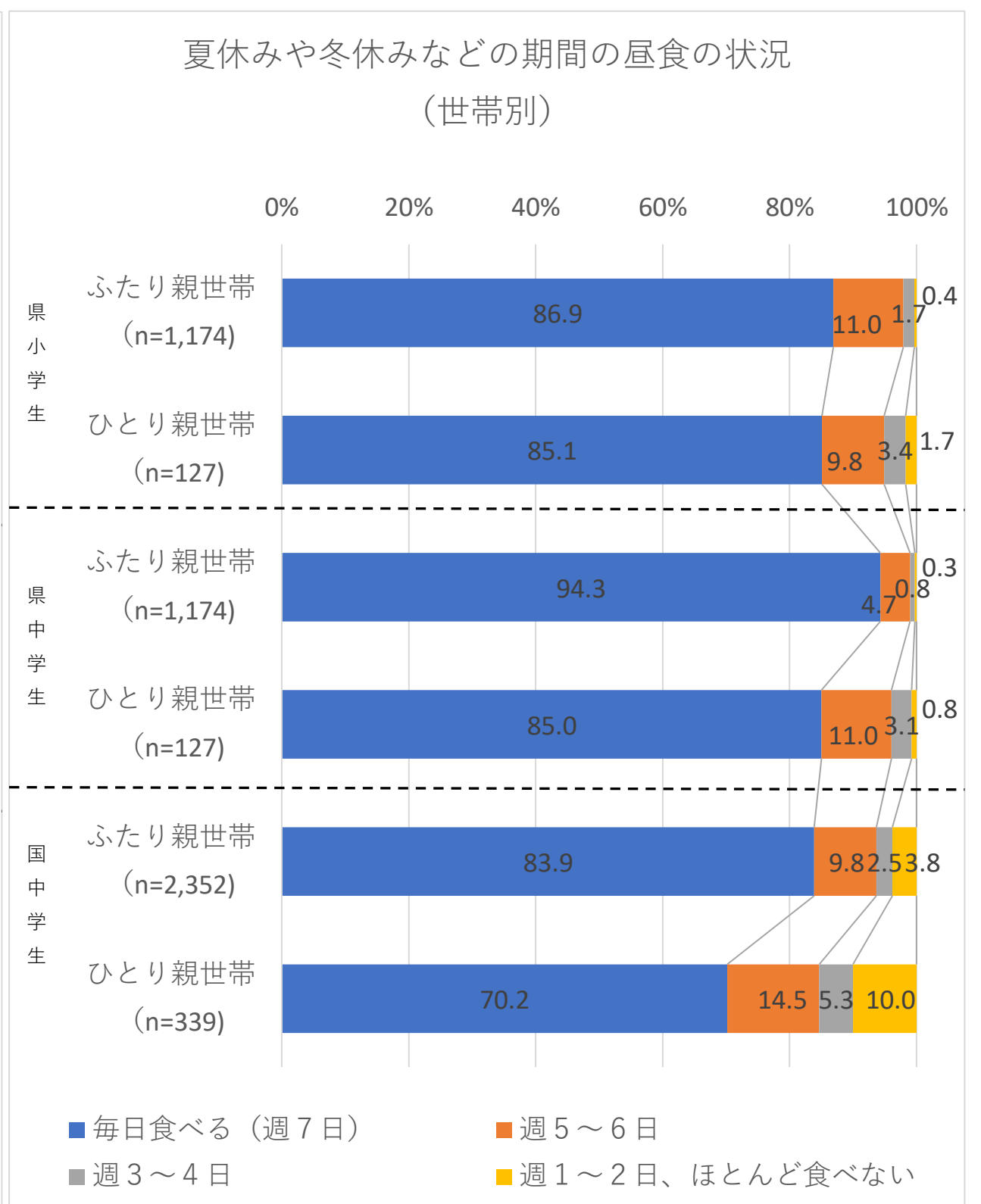
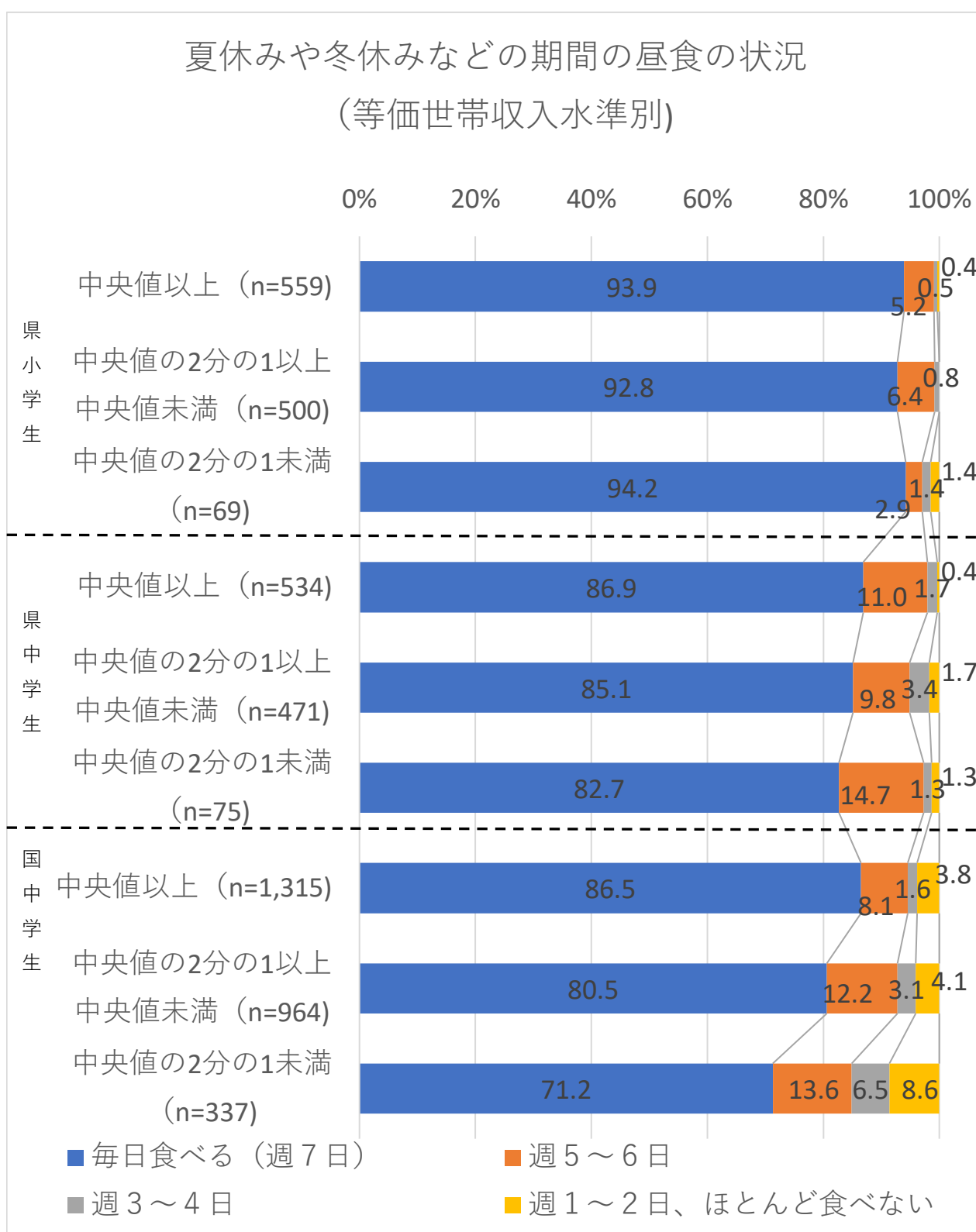
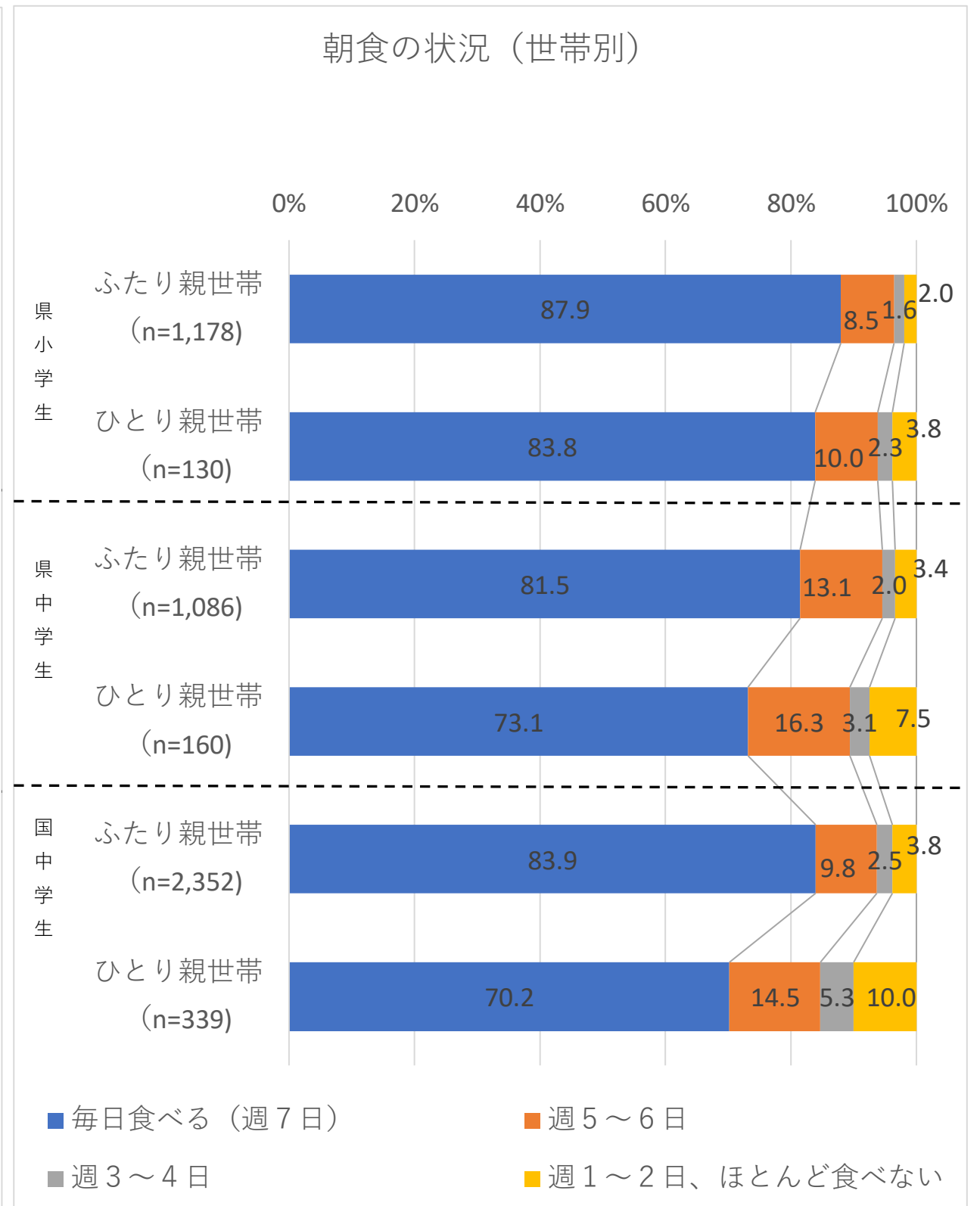
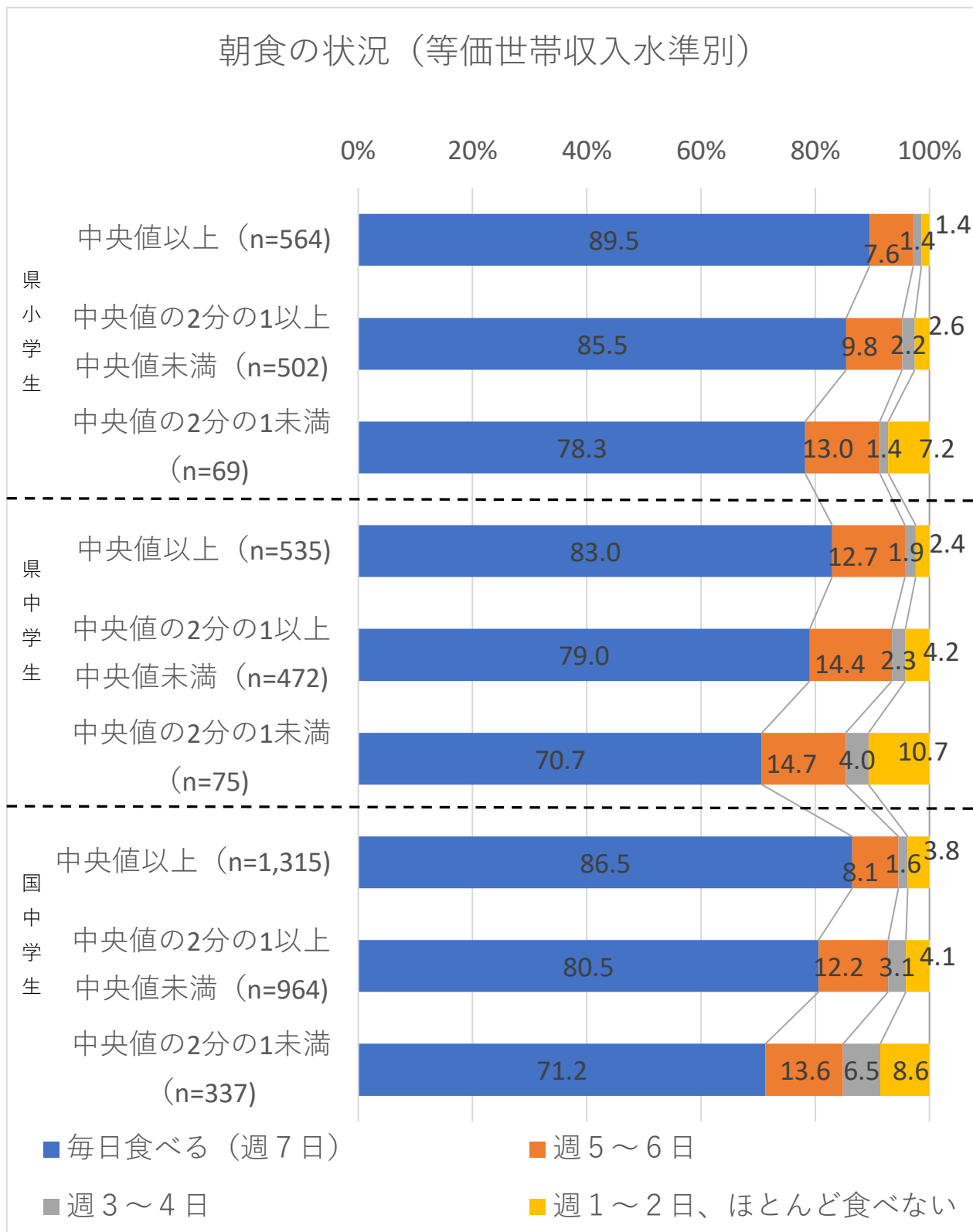
●部活動参加について

- ・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、部活動等に参加していない割合が高い。また、部活動に参加していない理由として、収入の水準が低い世帯では、「費用がかかるから」と回答した割合が高い。

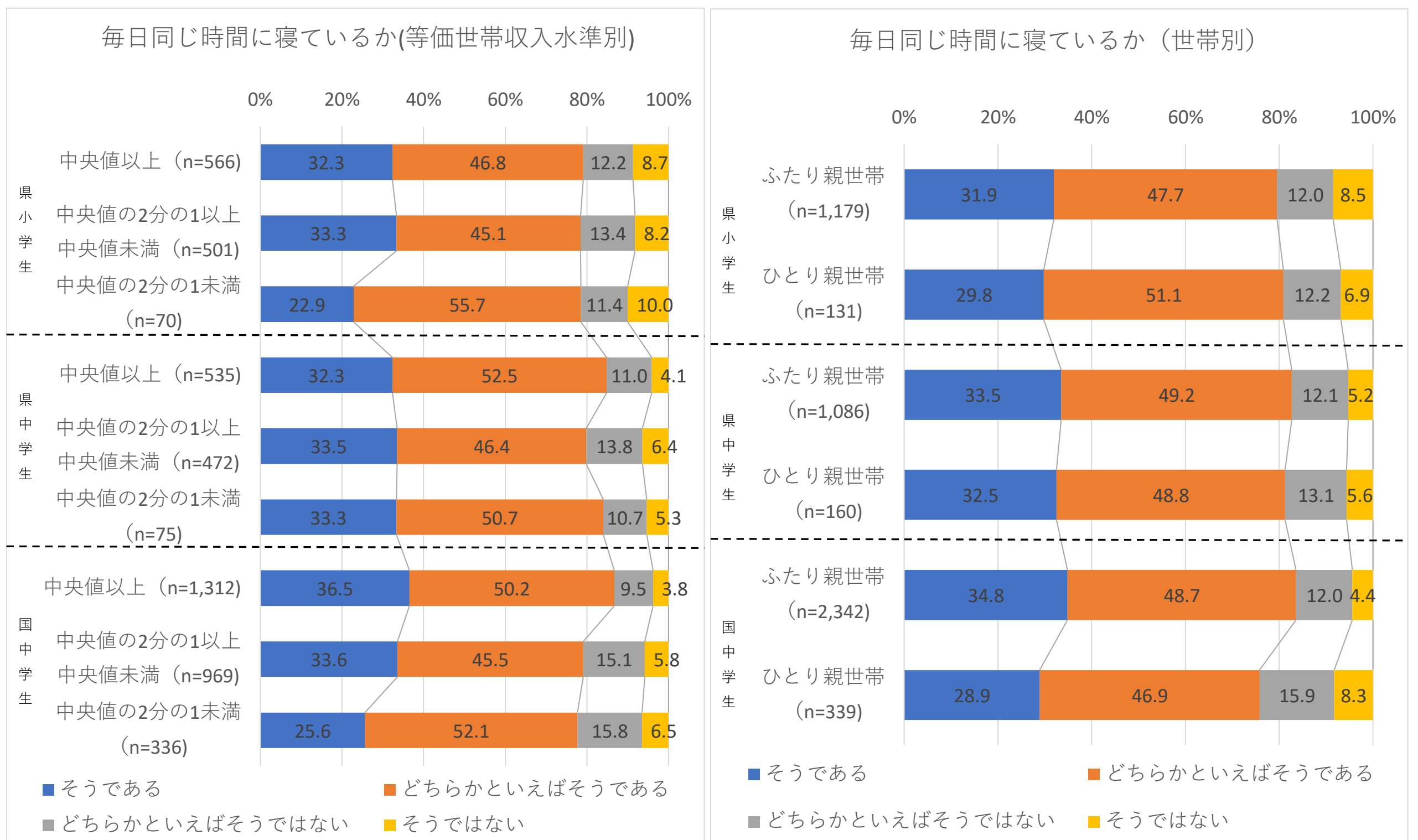


●子どもの生活状況

・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「朝食」や「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について「毎日食べる」と回答した割合が低い。また就寝時間についてほぼ同じ時間に寝ていると回答した割合が低い。

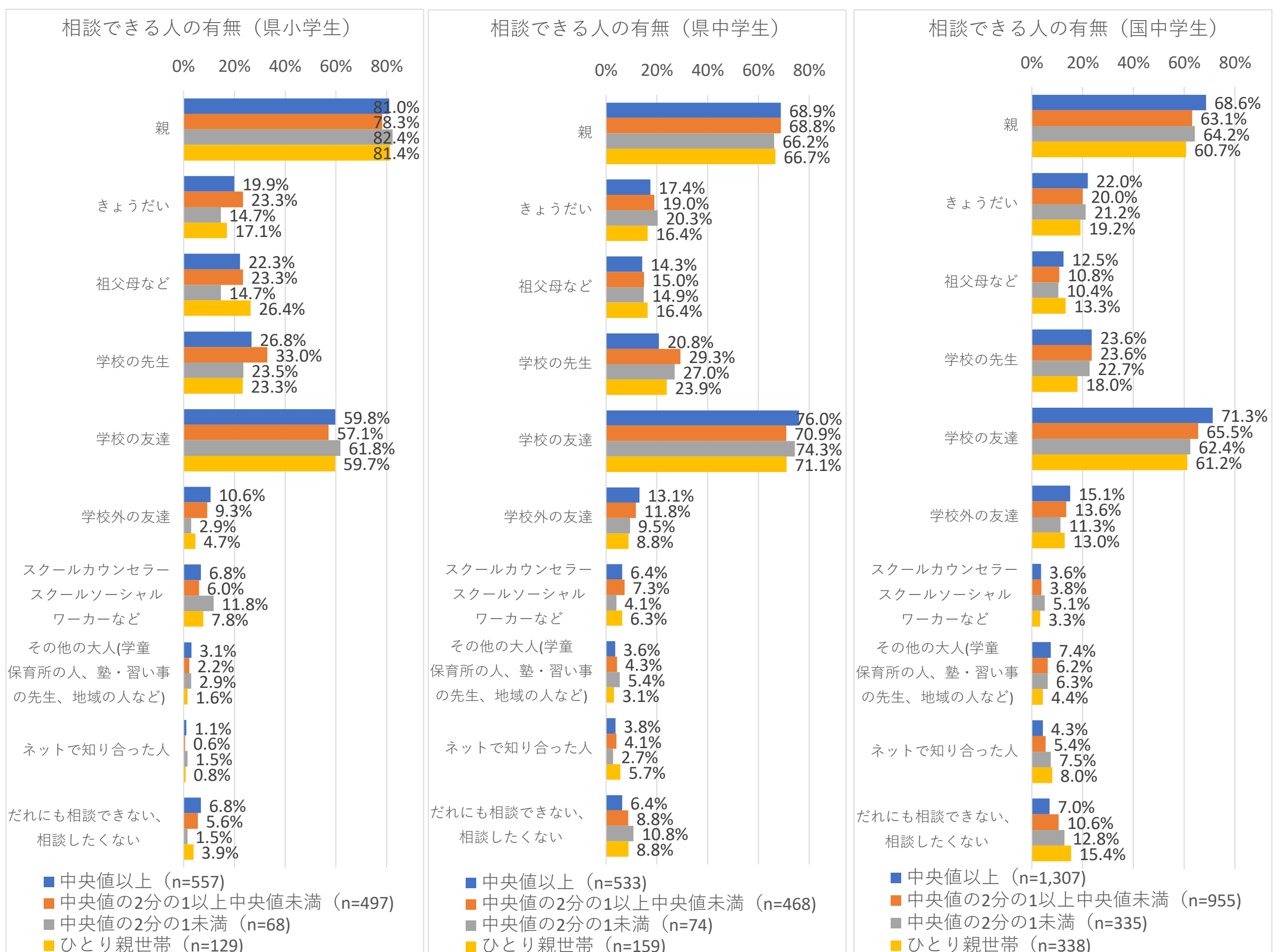






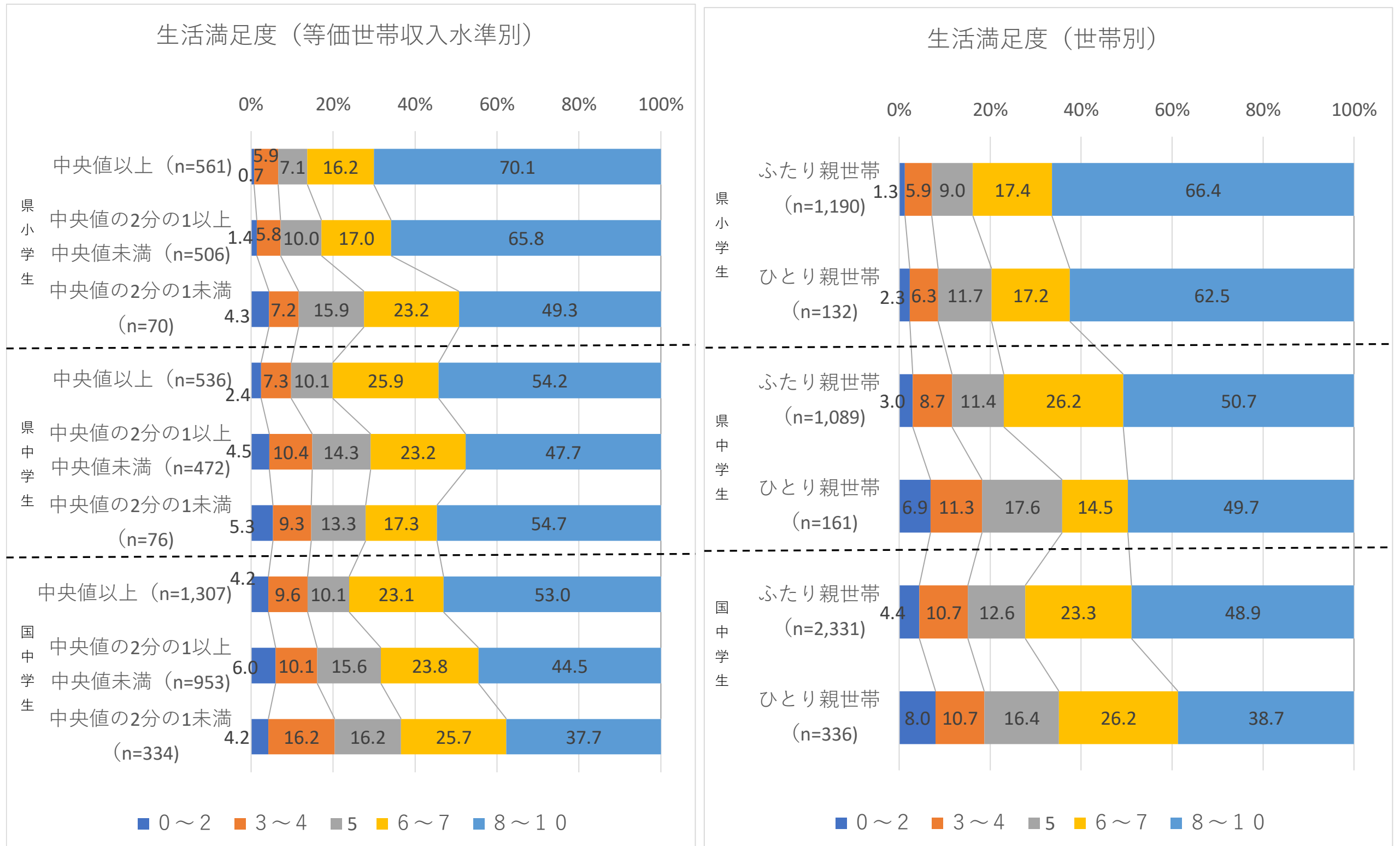
●頼れる人の有無

・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯の中学生は、1割ほどが「だれにも相談できない、相談しない」と回答している。

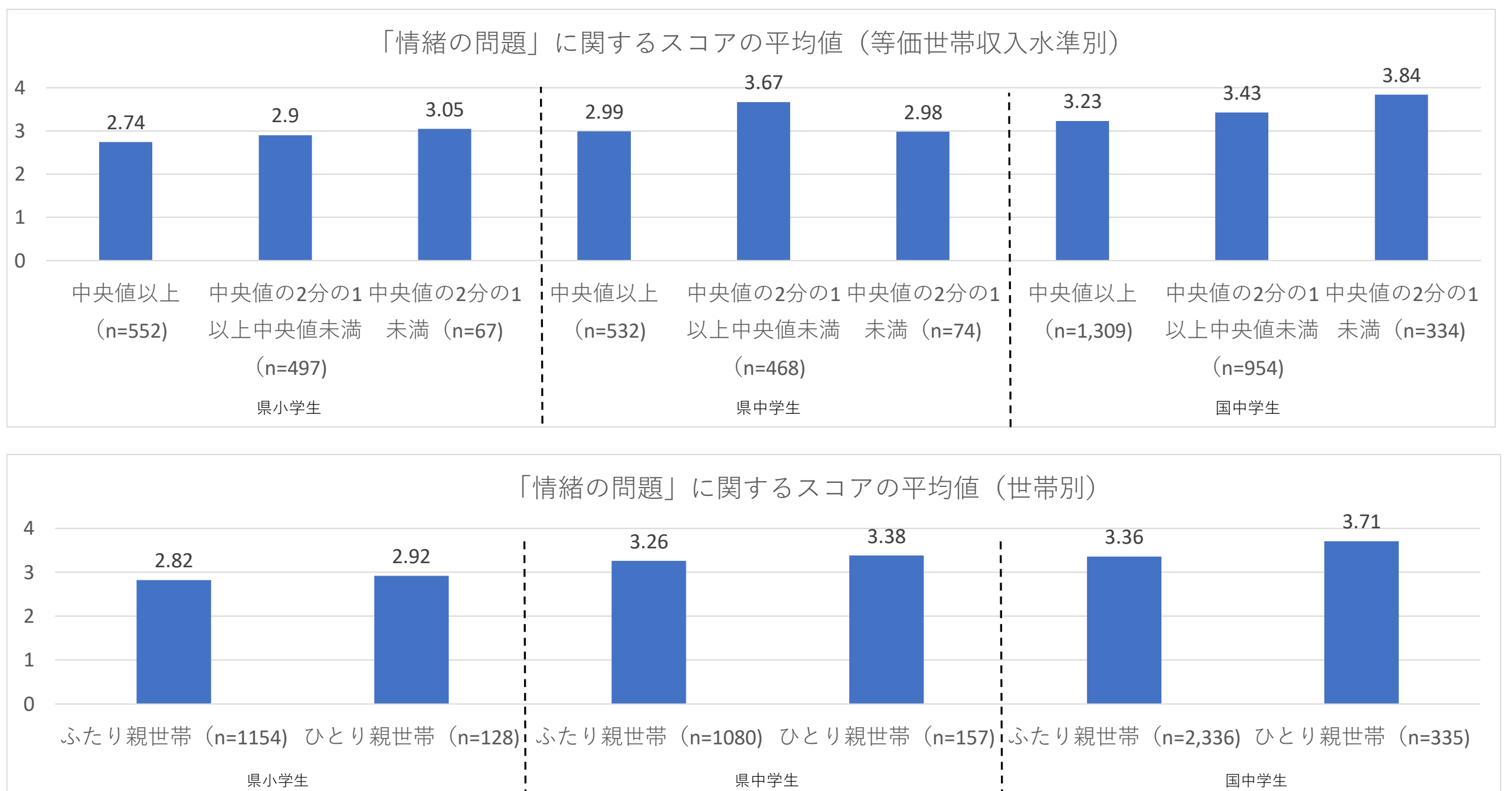


●子どもの心理的状況

・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、生活満足度<sup>※5</sup>が低い。



・子供の心理的な状況に関して、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「情緒の問題<sup>※6</sup>」のスコアが高い。  
(得点が高いほど、問題性が高いと考えられる)



5 最近の生活の満足度に関して（県小学生票：問12、県中学生票：問14、国中学生票：問14）、「0：まったく満足していない」～「10：十分に満足している」の中から、あてはまるものを選択。

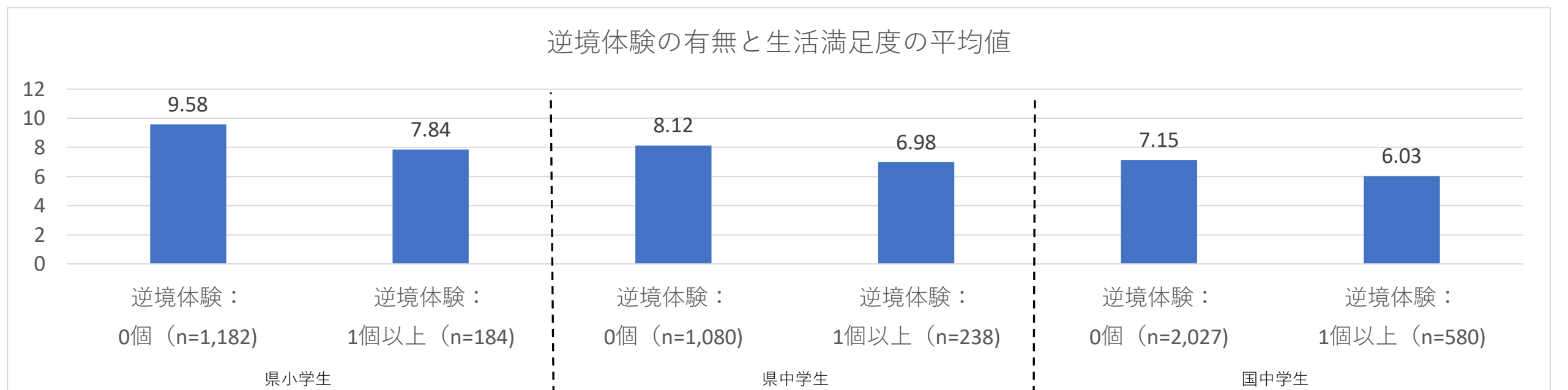
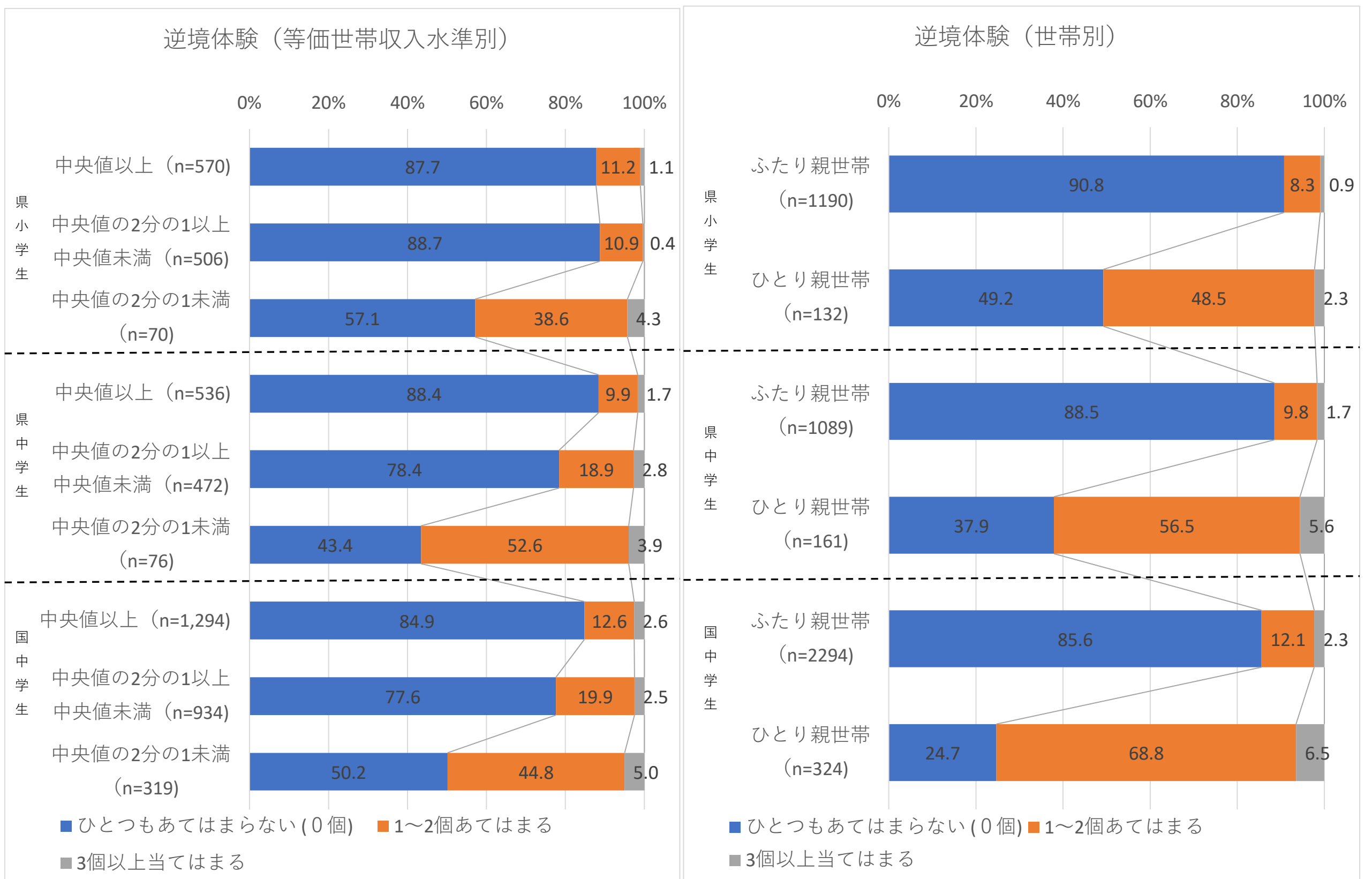
6 子どもの「強さと困難さアンケート」（県小学生票：問14、県中学生票：問16、国中学生票：問15）のうち、b,e,h,j,oの問が「情緒の問題」5つの項目を足し合わせてスコアを算出。（0～10点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）

●子どもの逆境体験について

以下8つの項目から「逆境体験」の経験有無を確認。（県小学生票：問15、県中学生票：問17、国中学生票：問17）

- a 一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
- b 一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
- c 家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
- d 必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある
- e 両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
- f 一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
- g 一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
- h 一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる

・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「逆境体験」を経験している割合が高い。また、「逆境体験」を経験している場合には、現在の生活満足度が低い。

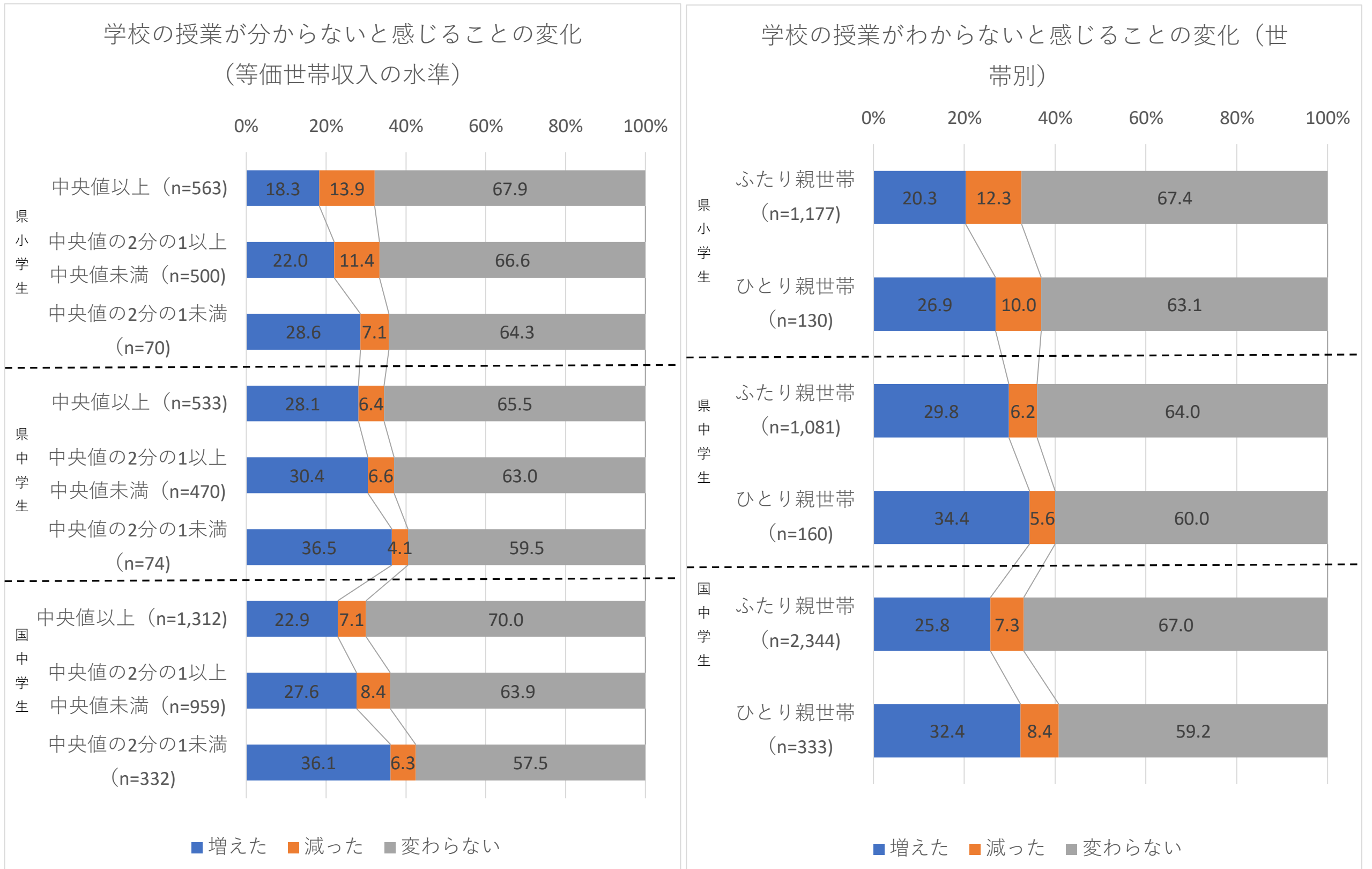




(2) 新型コロナウイルス感染症の影響

●学習に関して

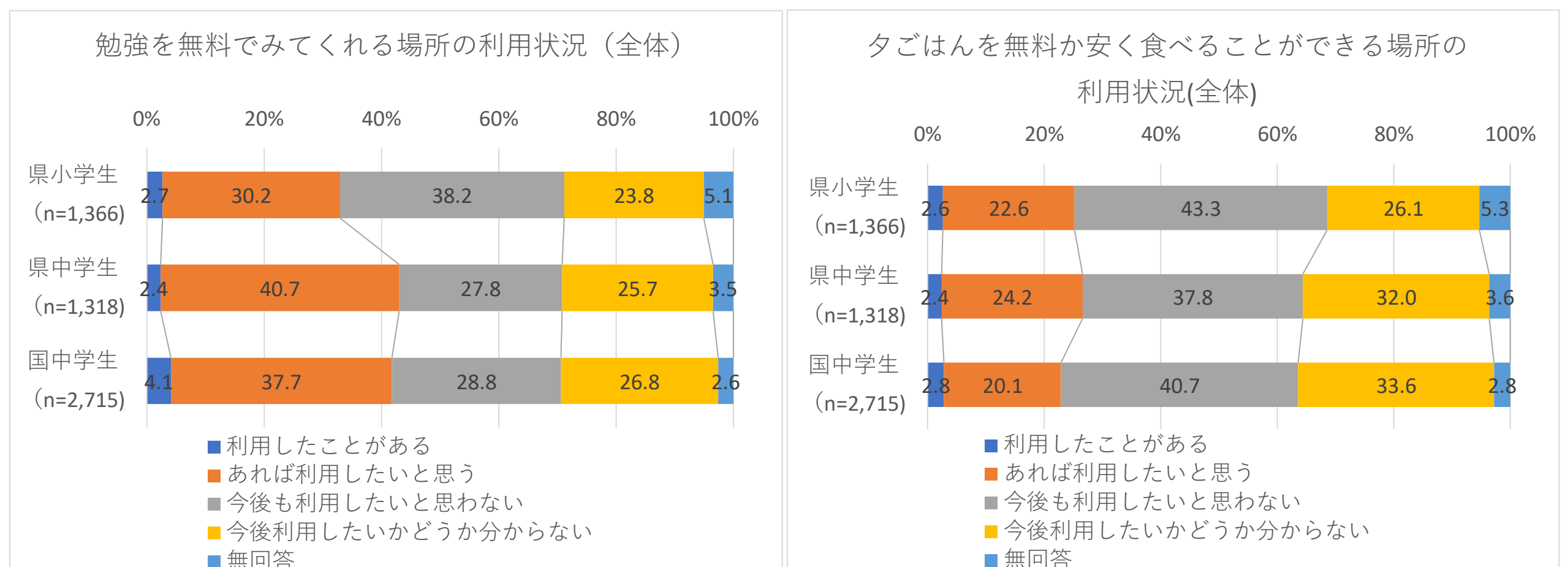
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大による変化として「学校の授業がわからないと感じること」について、「増えた」と回答した割合は、収入の水準が低い世帯やひとり親世帯で高い。



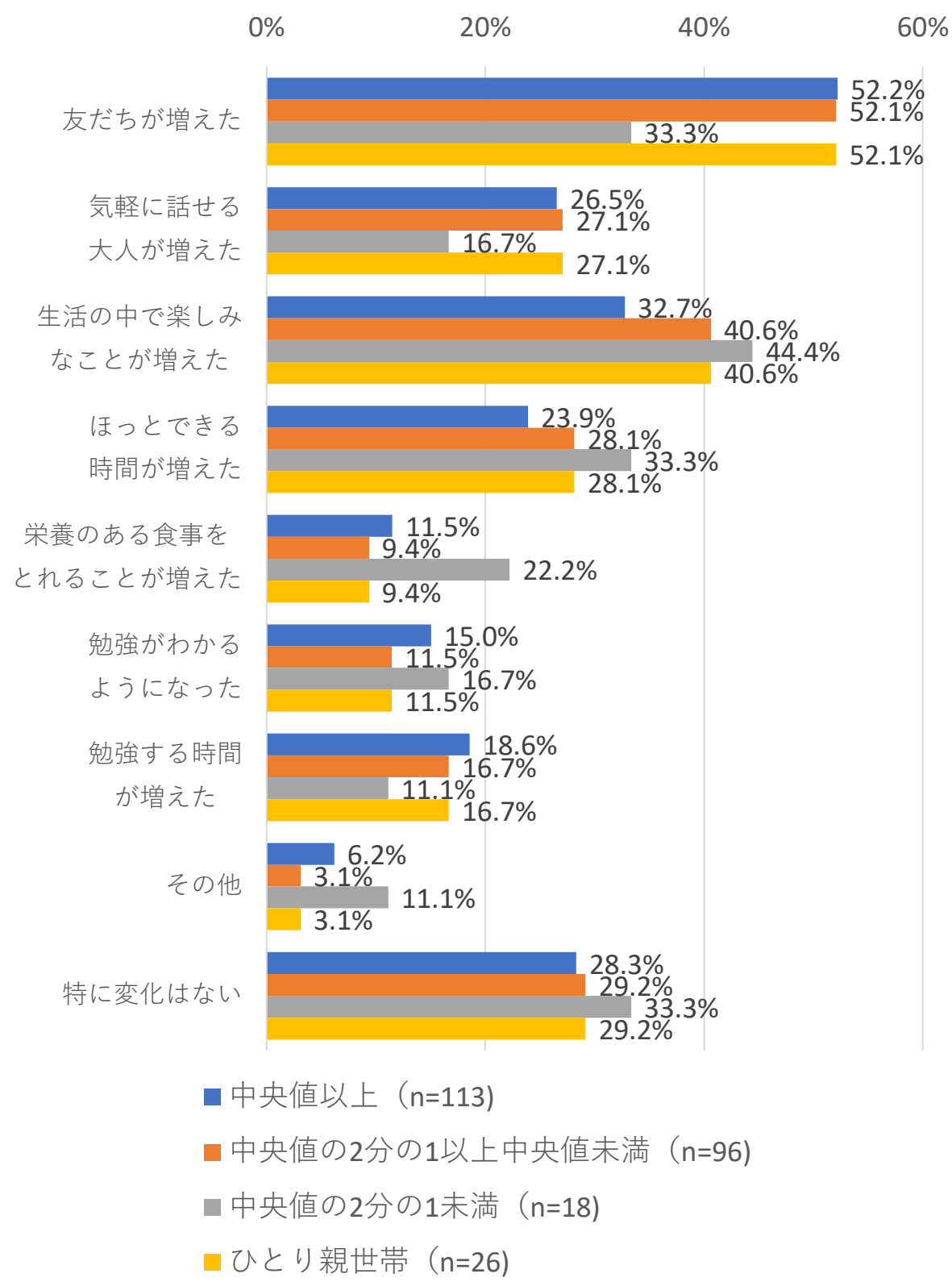
(3) 支援の利用状況等

●支援制度の利用状況等

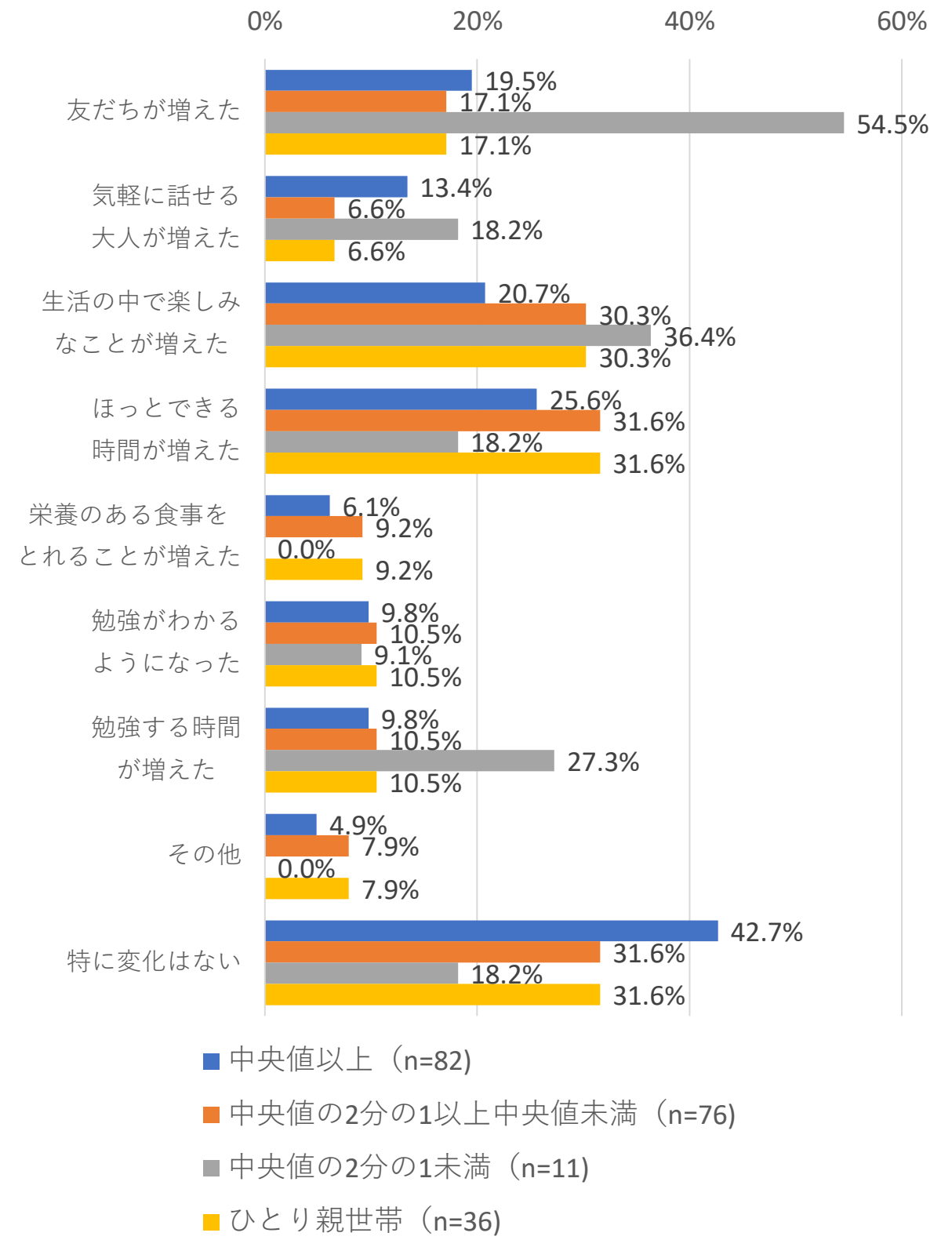
- ・支援制度・居場所等の利用状況について、利用経験や利用希望は一定程度見られる。
- ・支援制度・居場所等の利用によって、「友達が増えた」「生活の中で楽しみなことが増えた」「ほっとできる時間が増えた」「勉強する時間が増えた」などの変化が認識されている。



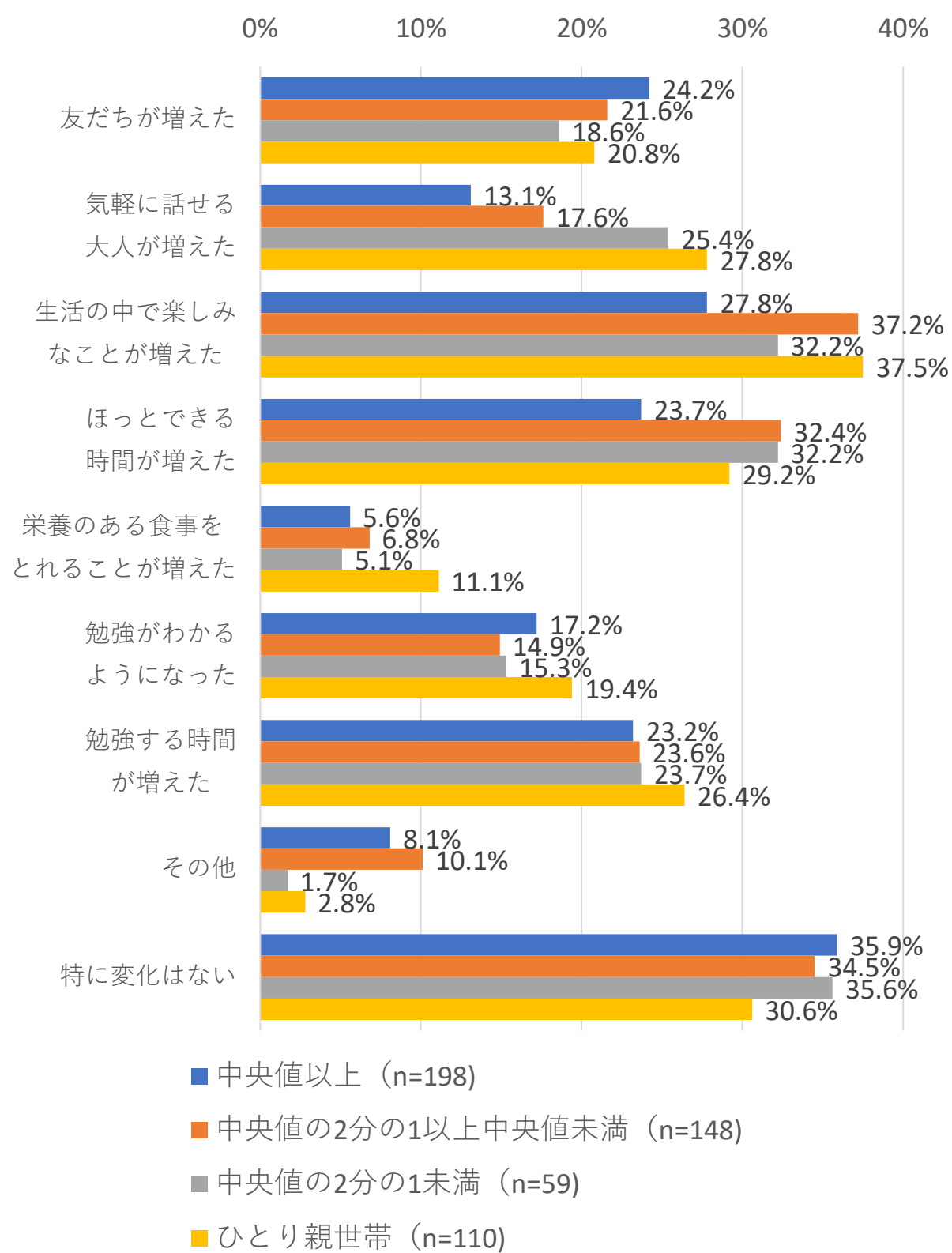
支援制度・居場所等利用による変化（県小学生）



支援制度・居場所等利用による変化（県中学生）



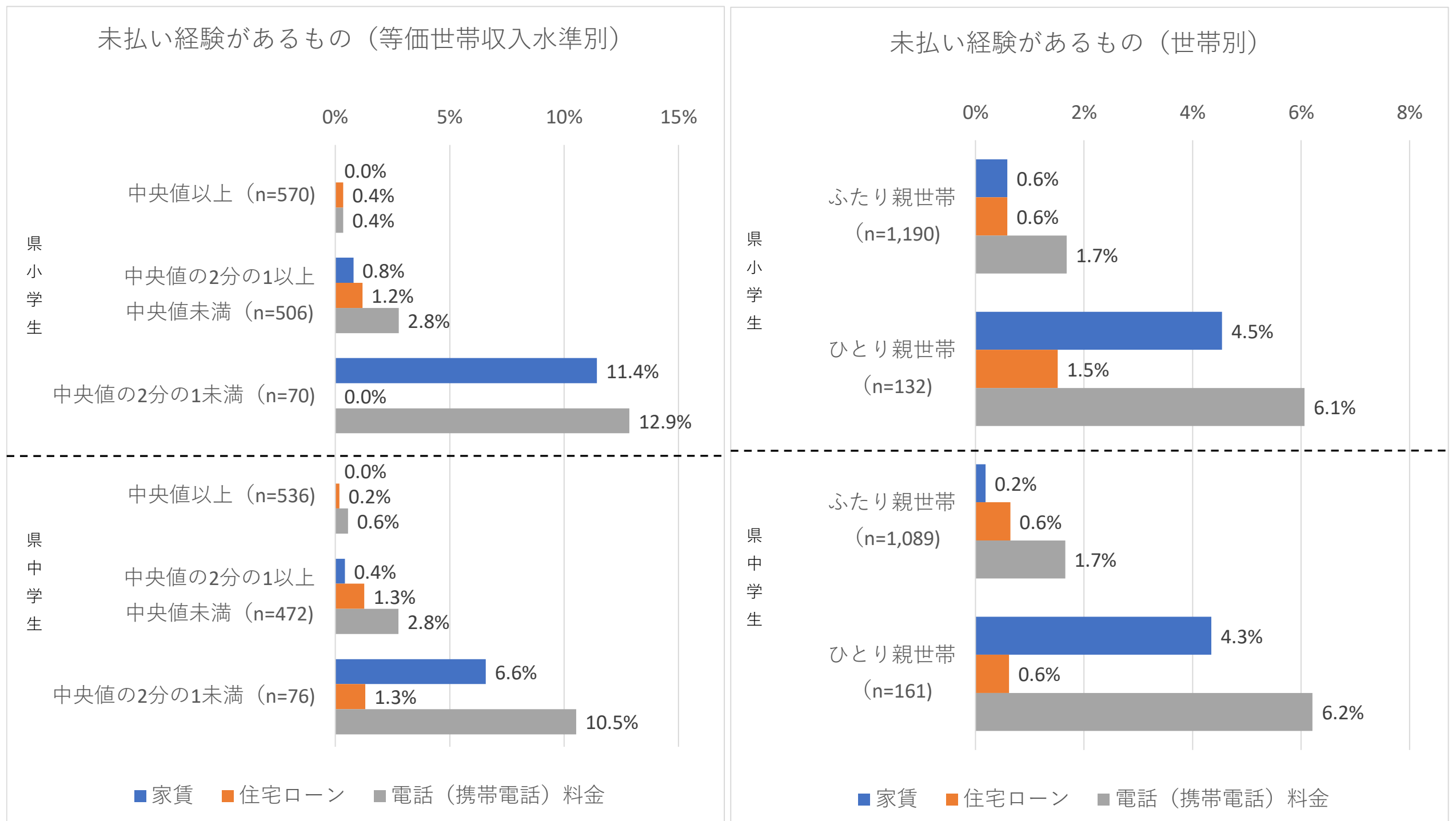
支援制度・居場所等利用による変化（国中学生）



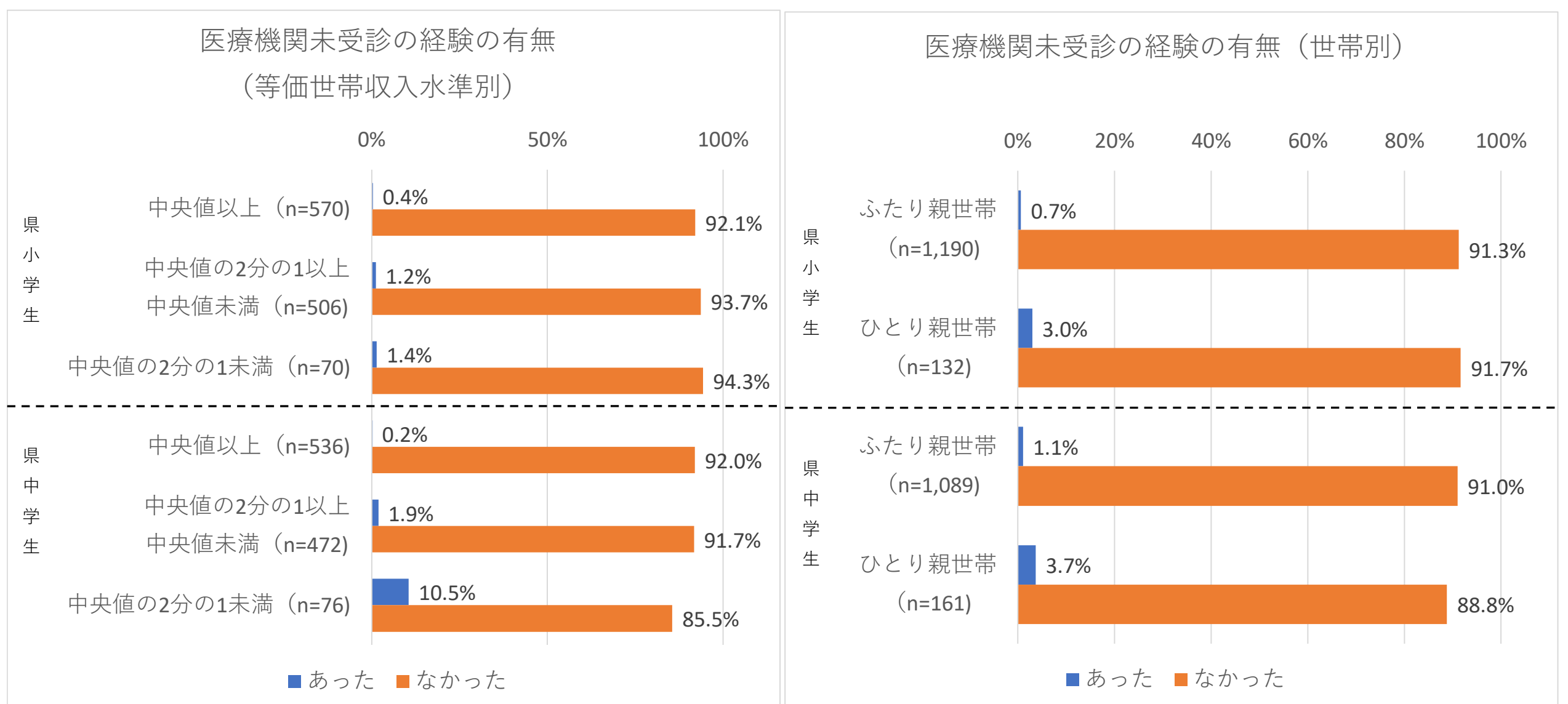
## 福井県子どもの生活状況調査 県独自追加調査結果

### ●経済的理由による困難体験

・収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、家賃や電話料金の未払い経験がある割合が高い。

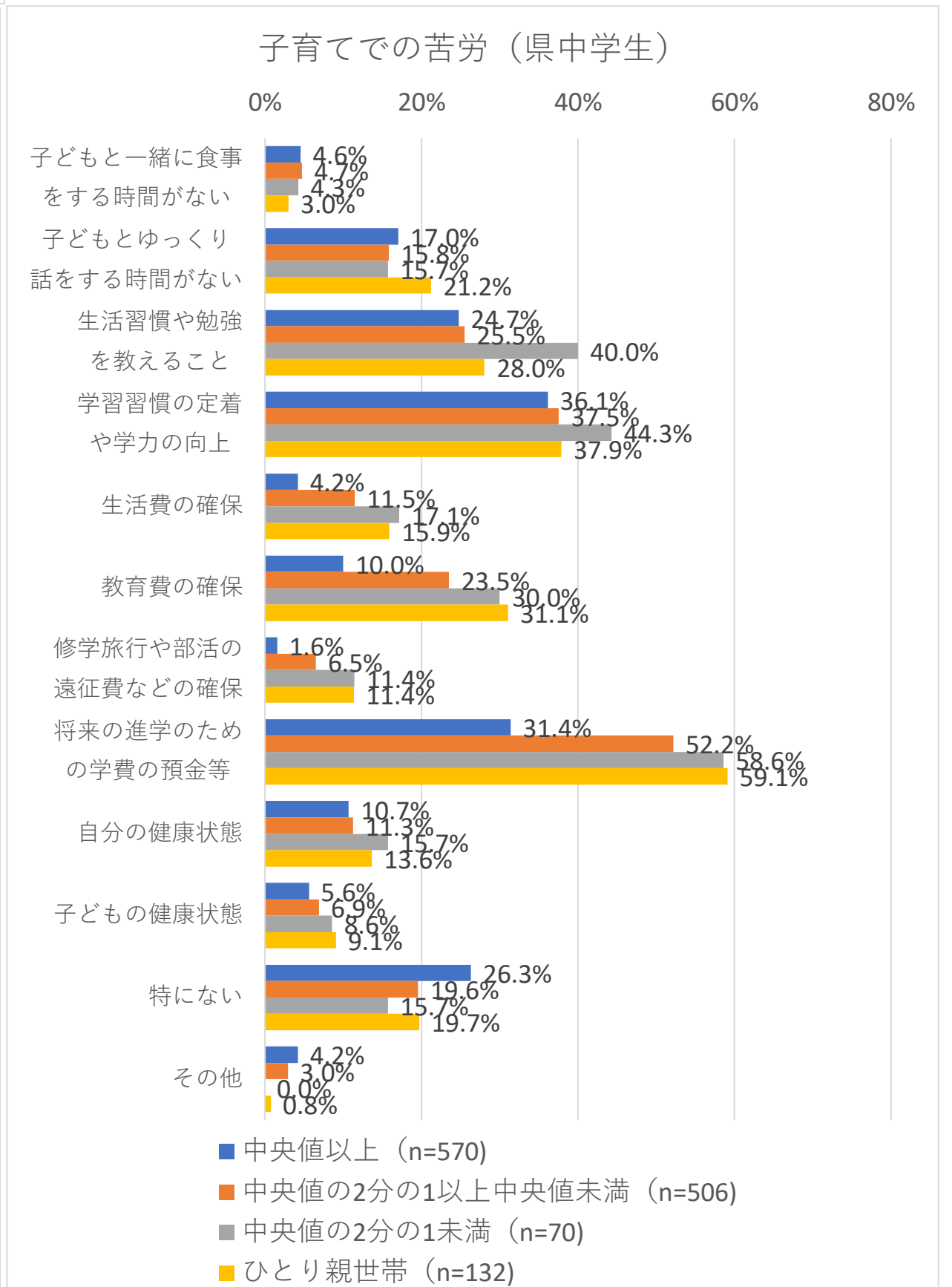
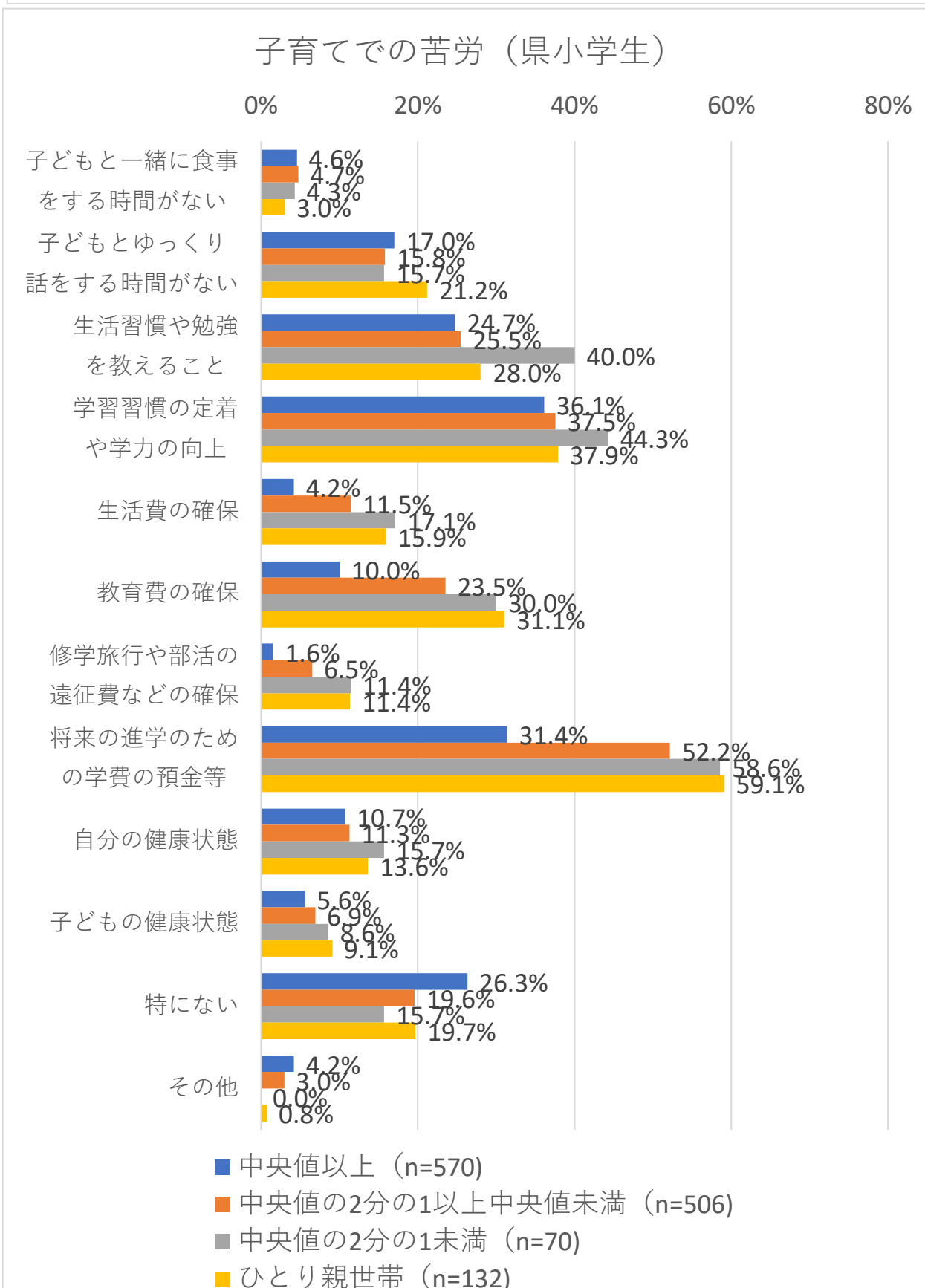
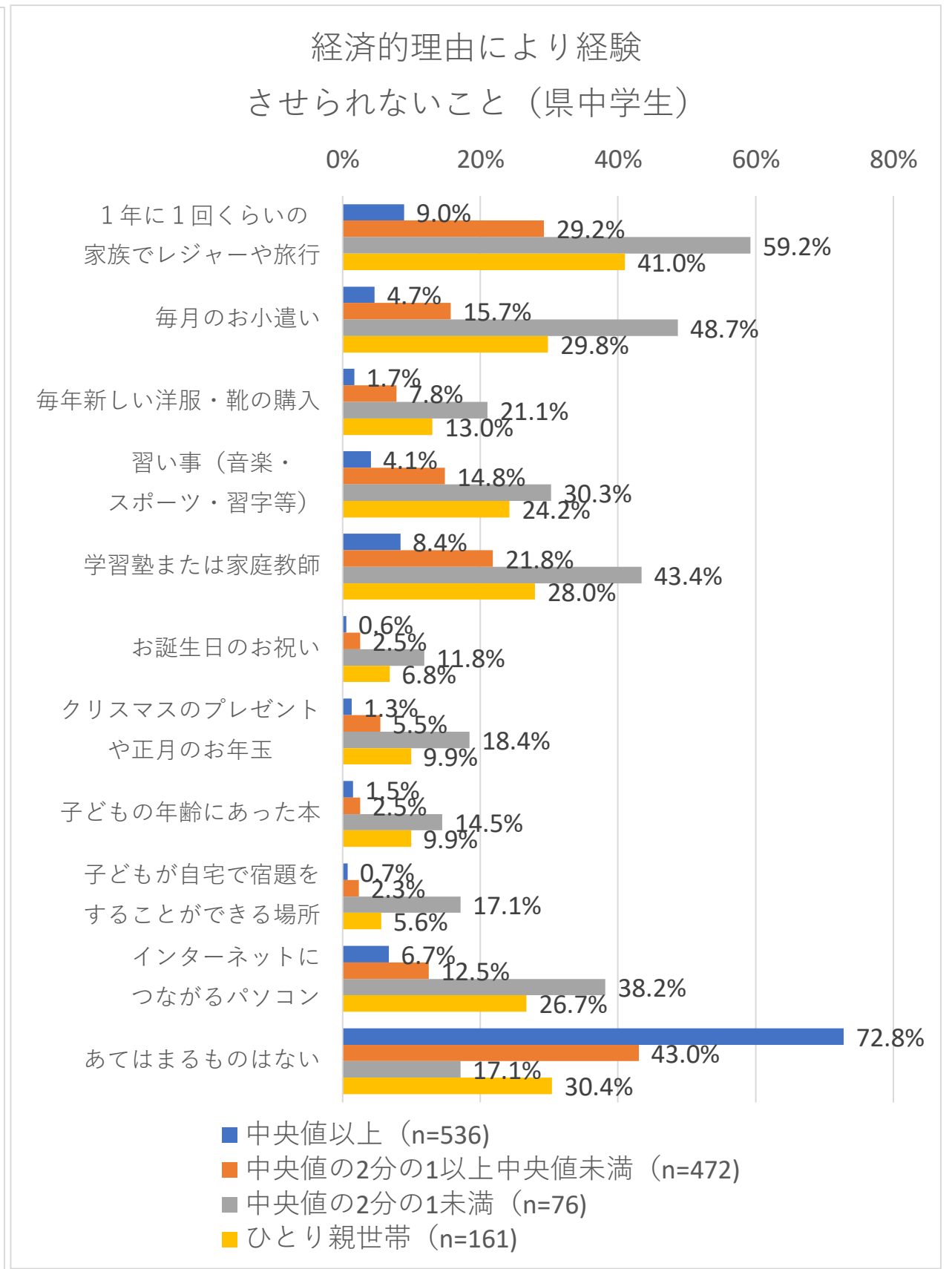
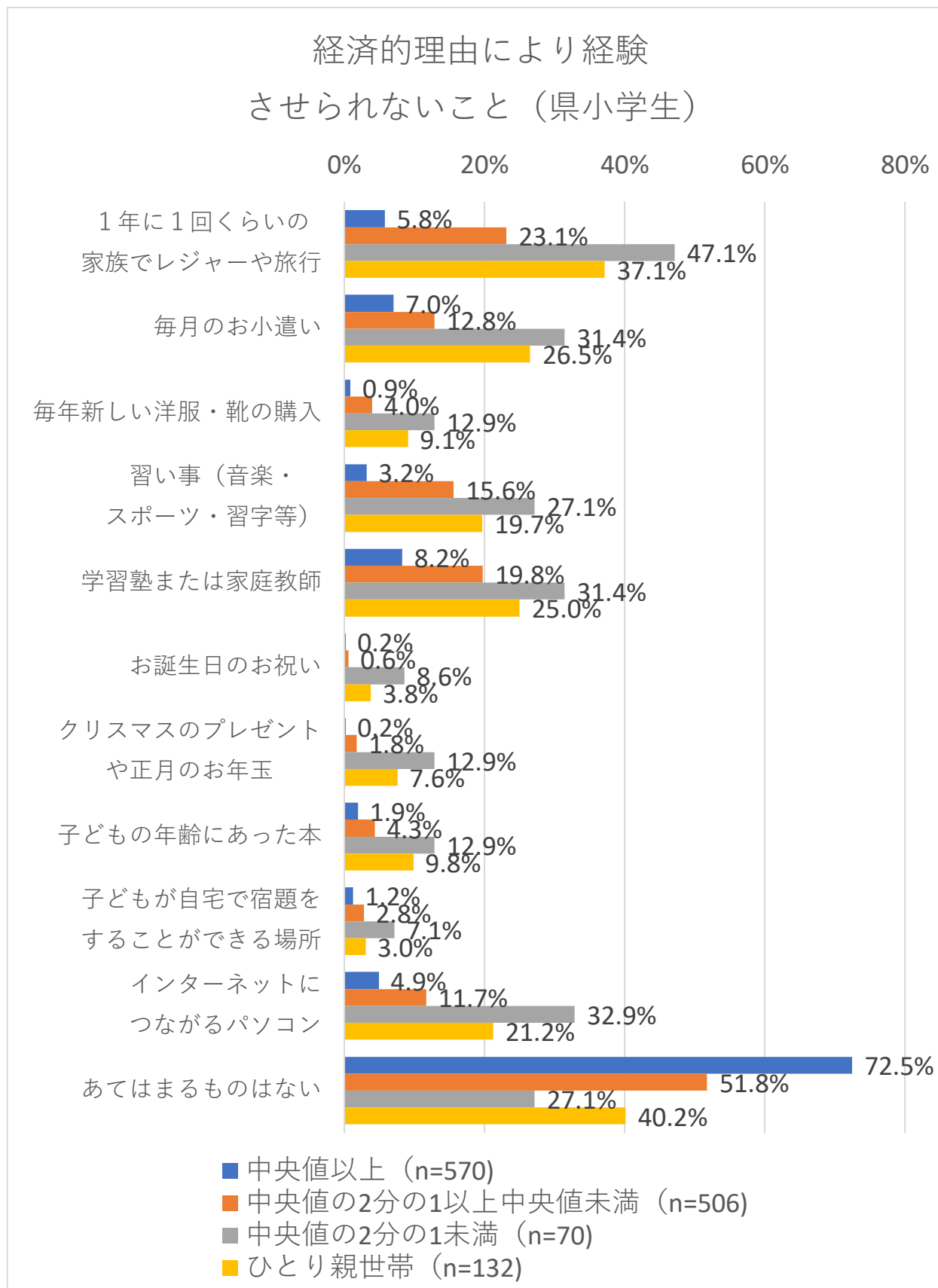


・収入の水準が低い中学生世帯では、医療機関を受診できなかった経験ある割合が1割程度ある。





・経済的理由で経験させてあげられないことの有無や、子育てでの苦勞や悩みの有無について、いずれも収入の水準が低い世帯やひとり親世帯のほうが回答割合が高い。



●支援情報の入手

・親族や友人、行政の広報等から情報を入手している割合が高い。

